

令和4(2022)年度以降版

# 教科書のご案内



\*本冊子に掲載している内容は、一部変更となる場合があります。

内容解説資料  
歴 総 - 706

「教科書発行者行動規範」  
に則っております。

文部科学省検定済教科書 高等学校地理歴史科用  
46 帝国 歴総-706



## 明解 歴史総合

おもしろい！ わかりやすい！ ためになる！

### 「世界史×日本史」新しい歴史に出会える教科書

|                                     |                   |
|-------------------------------------|-------------------|
| 新科目「歴史総合」のポイントと教科書の特徴…………… 2        | 試し読み…………… 28      |
| 全体構成…………… 4                         | QRコンテンツ…………… 72   |
| <b>特色1</b> 世界とその中の日本が捉えられる！…………… 6  | デジタル副教材…………… 73   |
| <b>特色2</b> 生徒が歴史に興味・関心を持てる！…………… 16 | 指導資料・関連教材…………… 74 |
| <b>特色3</b> アクティブラーニングで学びが深められる！… 20 | 特色一覧／著作者…………… 裏表紙 |

帝国書院



おもしろい！ わかりやすい！ ためになる！

# 「世界史×日本史」新しい歴史に出会える教科書



## 明解 歴史総合

令和4(2022)年度発行  
歴総-706  
AB判 238ページ

### ■ QRコンテンツ

動画や用語解説，一問一答，地図や年表などのデジタルコンテンツが充実。

\*詳細は本冊子p.72および帝国書院ウェブサイトをご覧ください。

### ■ 関連教材

デジタル副教材や指導資料などの関連教材が充実。

\*詳細は本冊子p.73-75および帝国書院ウェブサイトをご覧ください。

## ● 新科目「歴史総合」のポイント

### ■ 学習の目的 -世界史と日本史が融合した新しい科目-

・近現代の歴史の変化に関わる諸事情について，世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え，資料を活用しながら歴史の学び方を習得し，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察，構想すること。

### ■ 歴史総合の内容

・近現代の歴史の大きな変化を「近代化」，「国際秩序の変化や大衆化」，「グローバル化」と表し，「A 歴史の扉」，「B 近代化と私たち」，「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」，「D グローバル化と私たち」の4つの大項目が設定されている。

### 歴史総合の3つのキーワード

|  |
|--|
| <b>近代化</b><br>産業社会と国民国家の形成を背景とした，人々の生活や社会の在り方の変化。  |
| <b>国際秩序の変化や大衆化</b><br>国際的な結び付きが強まり，国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景とした，人々の生活や社会の在り方の変化。 |
| <b>グローバル化</b><br>科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになった，人々の生活や社会の在り方の変化。                |

### 歴史総合の内容

|  |
|--|
| <b>A 歴史の扉</b><br>(1) 歴史と私たち (2) 歴史の特質と資料   |
| <b>B 近代化と私たち</b><br>(1) 近代化への問い (2) 結びつく世界と日本の開国<br>(3) 国民国家と明治維新 (4) 近代化と現代的な諸課題                            |
| <b>C 国際秩序の変化や大衆化と私たち</b><br>(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い (2) 第一次世界大戦と大衆社会<br>(3) 経済危機と第二次世界大戦 (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 |
| <b>D グローバル化と私たち</b><br>(1) グローバル化への問い (2) 冷戦と世界経済<br>(3) 世界秩序の変容と日本 (4) 現代的な諸課題の形成と展望                        |

## 特色 1

# 世界とその中の日本が捉えられる！

- 世界と日本を結び付ける本文記述
- 世界と日本の動きを一体として理解できる単元構成
- 前近代史がコンパクトにまとまった巻頭の資料「地域の歩み 1～5」

本冊子  
p.6-15

## 特色 2

# 生徒が歴史に興味・関心を持てる！

- ビジュアルに捉えられる「生活・文化から見る日本と世界」
- 身近な視点が生徒の関心を高める「ものから見る歴史」・「人物コラム」

本冊子  
p.16-19

## 特色 3

# アクティブラーニングで学びが深められる！

- 「見通し」と「振り返り」で確かな学力が身に付く部構成・見開き構成
- 思考力・判断力・表現力を育成する「歴史に迫る！」・「歴史の選択肢」
- 資料の収集・整理・分析の技能が習得できる「技能を磨く」

本冊子  
p.20-27



↓教科書 巻頭5-巻頭6

## もくじ

|              |     |
|--------------|-----|
| 現在の世界        | 巻頭1 |
| 現在の日本と世界文化遺産 | 巻頭3 |
| 日本の歴史年表      | 巻頭4 |
| もくじ          | 巻頭5 |
| 本書の使い方       | 巻頭7 |
| はじめに         | 巻頭8 |

### ◆各地域の諸文明

|                             |      |
|-----------------------------|------|
| <b>地域の歩み1 東アジアの文明</b>       |      |
| 1 東アジアの風土と人々                | 資料1  |
| 2 日本の歴史                     | 資料3  |
| 3 東アジアの歴史                   | 資料5  |
| <b>地域の歩み2 南・東南アジアの文明</b>    |      |
| 1 南・東南アジアの風土と人々             | 資料7  |
| 2 南・東南アジアの歴史                | 資料9  |
| <b>地域の歩み3 西アジア・北アフリカの文明</b> |      |
| 1 西アジア・北アフリカの風土と人々          | 資料11 |
| 2 西アジア・北アフリカの歴史             | 資料13 |
| <b>地域の歩み4 ヨーロッパの文明</b>      |      |
| 1 ヨーロッパの風土と人々               | 資料15 |
| 2 ヨーロッパの歴史①                 | 資料17 |
| 3 ヨーロッパの歴史②                 | 資料19 |
| <b>地域の歩み5 南北アメリカの文明</b>     |      |
| 1 南北アメリカの風土と人々              | 資料21 |
| 2 南北アメリカの歴史                 | 資料22 |

### 1部 歴史の扉

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| <b>1章 歴史と私たち</b>            | 1  |
| ①お茶から見る日本と世界の歴史             | 2  |
| ②食文化から見る日本と世界の歴史 ～餃子を事例に～   | 3  |
| ③身近な史跡から見る日本と世界の歴史 ～長崎を事例に～ | 4  |
| <b>2章 歴史の特質と資料</b>          |    |
| 1節 資料を取り扱ってみよう              | 5  |
| <b>技能</b> ①資料の特質と読み解き       | 7  |
| ②資料の比較・関連付け                 | 9  |
| 2節 歴史叙述とは何か考えてみよう           | 10 |

### ●本書の構成

#### 資料

#### 本編：1部～4部



## 近代化・18世紀後半～日露戦争

### 2部 近代化と私たち

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 18世紀までの世界                    | 11 |
| <b>序章 近代化への問い</b>            |    |
| 19世紀の世界                      | 13 |
| 「近代化」について考察していこう！            | 15 |
| 6つのキーワードから問いを表現してみよう！        | 19 |
| <b>1章 江戸時代の日本と結び付く世界</b>     | 20 |
| 1節 アジアのなかの江戸幕府               | 21 |
| 2節 成熟する江戸社会                  | 23 |
| 3節 清の繁栄と結び付く東アジア             | 25 |
| 4節 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ         | 27 |
| <b>生活・文化から見る日本と世界① 江戸後期</b>  | 29 |
| <b>2章 欧米諸国における近代化</b>        | 32 |
| 1節 イギリスの革命とアメリカの独立           | 33 |
| 2節 フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け        | 35 |
| 3節 フランス革命の影響と国民意識の芽生え        | 37 |
| 4節 産業革命で変わる社会                | 39 |
| 5節 イギリスの繁栄と国際分業体制            | 41 |
| <b>3章 近代化の進展と国民国家形成</b>      | 46 |
| 1節 1848年～近代ヨーロッパの転換点         | 47 |
| 2節 イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化       | 49 |
| 3節 アメリカの拡大と第2次産業革命           | 51 |
| 4節 帝国主義と世界の一体化               | 53 |
| <b>4章 アジア諸国の動揺と日本の開国</b>     | 56 |
| 1節 「西洋の衝撃」と西アジアの変化           | 57 |
| 2節 南・東南アジアの植民地化              | 59 |
| 3節 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争          | 61 |
| 4節 黒船の来航と日本の対応               | 63 |
| 5節 新体制の模索と江戸幕府の滅亡            | 65 |
| <b>5章 近代化が進む日本と東アジア</b>      | 70 |
| 1節 新政府の誕生                    | 71 |
| 2節 近代国家を目指す日本                | 73 |
| 3節 日本と清の近代化と日清戦争             | 75 |
| 4節 列強の中国進出と日露戦争              | 77 |
| 5節 日露戦争が与えた影響                | 79 |
| <b>生活・文化から見る日本と世界② 明治期</b>   | 81 |
| 「近代化」を振り返り現代的な諸課題と結び付けて考えよう！ | 83 |
| <b>技能</b> ③情報の集め方            | 85 |
| ④情報のまとめ方 意見交換の方法             | 86 |

## 国際秩序の変化や大衆化・第一次世界大戦～1950年代前半

### 3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| <b>序章 国際秩序の変化や大衆化への問い</b>  |     |
| 20世紀前半の世界                  | 87  |
| 「国際秩序の変化や大衆化」について考察していこう！  | 89  |
| 5つのキーワードから問いを表現してみよう！      | 93  |
| <b>1章 第一次世界大戦と日本の対応</b>    | 94  |
| 1節 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張        | 95  |
| 2節 総力戦となった第一次世界大戦          | 97  |
| 3節 ロシア革命と大戦の終結             | 99  |
| <b>2章 国際協調と大衆社会の広がり</b>    | 106 |
| 1節 ヴェルサイユ体制の成立             | 107 |
| 2節 東アジアの民族自決の行方            | 109 |
| 3節 中東・インドの民族自決の影響          | 111 |
| 4節 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加        | 113 |
| 5節 大衆社会の出現とアメリカの繁栄         | 115 |
| 6節 日本における大衆社会の形成           | 117 |
| <b>生活・文化から見る日本と世界③ 大正期</b> | 119 |
| <b>3章 日本の行方と第二次世界大戦</b>    | 122 |
| 1節 世界恐慌が与えた影響              | 123 |
| 2節 ファシズムの台頭と拡大             | 125 |
| 3節 政党政治の断絶と満洲事変            | 127 |
| 4節 日中戦争の始まり                | 129 |
| 5節 第二次世界大戦の展開              | 131 |
| 6節 戦局の悪化と被害の拡大             | 133 |
| 7節 第二次世界大戦の終結とその惨禍         | 135 |
| <b>生活・文化から見る日本と世界④ 戦中期</b> | 137 |
| <b>4章 再出発する世界と日本</b>       | 142 |
| 1節 戦後の新たな国際秩序              | 143 |
| 2節 冷戦の始まり                  | 145 |
| 3節 日本撤退後の東アジア              | 147 |
| 4節 日本の改革と独立の回復             | 149 |

「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り現代的な諸課題と結び付けて考えよう！ 151

|                              |        |
|------------------------------|--------|
| <b>歴史に迫る!</b>                | (5テーマ) |
| 1 フランス革命は人権宣言の理念をどこまで実現できたのか | 43     |
| 2 幕府の対外交渉をどう評価するか            | 67     |
| 3 二十一か条要求の何を問題とすべきか          | 101    |
| 4 チェンバレンの政策をどう評価するか          | 139    |
| 5 黒人差別の克服にはどのような取り組みが必要なのか   | 179    |

●巻頭の資料として「地域の歩み1～5」を設置。近現代史の土台となる世界の風土と前近代史を確認できる。

●本編は1見開き1時間で進められ、2単位で十分に歴史総合の内容が身に付く構成。

## グローバル化・1950年代後半～現在

### 4部 グローバル化と私たち

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| <b>序章 グローバル化への問い</b>           |     |
| 20世紀後半以降の世界                    | 153 |
| 「グローバル化」について考察していこう！           | 155 |
| 7つのキーワードから問いを表現してみよう！          | 157 |
| <b>1章 冷戦で揺れる世界と日本</b>          | 158 |
| 1節 アメリカ・ソ連の緊張と緩和               | 159 |
| 2節 冷戦下における日本の復興                | 161 |
| 3節 第三勢力の形成と脱植民地化               | 163 |
| 4節 中東戦争とパレスチナ問題                | 165 |
| <b>生活・文化から見る日本と世界⑤ 高度経済成長期</b> | 167 |
| <b>2章 多極化する世界</b>              | 170 |
| 1節 揺らぐアメリカと先進各国の変化             | 171 |
| 2節 「経済大国」日本の模索                 | 173 |
| 3節 経済発展に取り組むアジア・南米諸国           | 175 |
| 4節 イスラーム復興と冷戦への影響              | 177 |
| <b>3章 グローバル化のなかの世界と日本</b>      | 184 |
| 1節 冷戦の終結と変わる世界構造               | 185 |
| 2節 冷戦の終結が与えた世界への影響             | 187 |
| 3節 超大国アメリカと中東情勢                | 189 |
| 4節 国際環境の変化と日本                  | 191 |
| 5節 グローバル化による国際社会の変容            | 193 |
| <b>これまでの学習を振り返り</b>            |     |
| 現代的な諸課題の形成と展望を考えよう！            | 195 |
| <b>技能</b> ⑤レポートや小論文の書き方        | 198 |

|                  |       |
|------------------|-------|
| さくいん             | 199   |
| 歴史に関連する映画を見てみよう！ | 205   |
| 歴史総合 頻出用語解説      | 巻末1   |
| 世界の歴史年表          | 巻末2～3 |

|                 |        |
|-----------------|--------|
| <b>ものから見る歴史</b> | (9テーマ) |
| FILE.1 綿織物      | 31     |
| FILE.2 学校       | 45     |
| FILE.3 博覧会      | 55     |
| FILE.4 地図       | 69     |
| FILE.5 防災と復興    | 105    |
| FILE.6 衣服       | 121    |
| FILE.7 音楽       | 141    |
| FILE.8 核兵器      | 169    |
| FILE.9 感染症      | 183    |



## 世界と日本を結び付ける本文記述

●日本を中心とした学習内容にも、世界とのつながりがわかる本文記述を盛り込んでおり、世界とそこの中における日本を相互的な視野から捉えられる。

↓教科書 p.73-74, 本冊子 p.52-53 **試し読み**



**大日本帝国憲法(1889年)**

第1条 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第4条 天皇ハ国ノ元首ニシテ統治権ヲ総攬シ此ノ憲法ノ上記ニ依リテ之ヲ行フ

第11条 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第28条 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第29条 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行\*集会及結社ノ自由ヲ有ス \*圖書の印刷や発行

大日本帝国憲法の公布(1889年)

読み解き 大日本帝国憲法は、誰から与えられ、誰を中心とした憲法なのだろうか。

全 27 か所



### ●コラム「世界の中の日本」

当時の世界と日本との関連を取り上げたコラム。「世界とそこの中の日本」という視点で歴史をより深く捉えられる。

## 2 近代国家を目指す日本

学習課題 日本は、近代国家となるために、どのような政策を進めていったのだろうか。

前のできごと 日本→p.71 次のできごと 日本→p.75

### 伊藤がヨーロッパで学んだ立憲政治

憲法調査のために渡欧した伊藤は、まずベルリン大学のグナイストから「憲法は国民精神の表れ」という教えを受けた。他方、ウィーン大学のシュタインからは、議会制度と行政の調和による国の全体像を学んだ。こうして伊藤は、立憲政治は憲法の制定のみで実現できるものではなく、議会制度などの国のしくみと、それを運用する行政制度の整備が必要と学んだ。さらには、それを運営していく人々の養成と教育が重要と学び取った。

留学中の伊藤博文



### 立憲体制への道のり

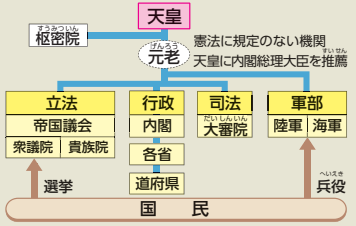
征韓論をめぐる政変によって政府が分裂したことで、藩閥政府への批判が高まり、人々の政治参加を求める自由民権運動が本格化した。これに対して新政府は、1875年に、しだいに立憲体制に移行するという方針を示し、準備を始めた。五箇条の誓文に「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」と掲げられたように、国民の政治参加を認め、議会政体を採ることは、新政府にとっても大きな目標であった。

一方、自由民権運動を進める民権派は、私立学校の設立や演説会を通じて、フランス人権思想や欧米議会制度のしくみを広め、地租の引き下げを求める有力農民なども参加して全国的な運動となっていった。そして、板垣退助が結成した愛国社をルーツとする国会期成同盟によって、80年に国会開設請願書が提出されると、国民の政治参加を求める気運はさらに高まり、私擬憲法の起草を通じての民間での憲法論議が盛んになった。

この自由民権運動の盛り上がりに対し、新政府の指導層である伊藤博文らは、81年に政府内で急進的に議院内閣制を求める大隈重信らの意見を排除する一方で、90年の議会開設を天皇の名で国民に約束した(国会開設の勅諭)。こうして、新政府は、立憲体制に向けて大きく動き出した。

### 憲法発布と帝国議会

1882年、伊藤は、立憲制度導入のため、ヨーロッパに渡って諸外国の政治や制度の調査を行い、翌83年に帰国すると、必要な制度改革を進めていった。85年には内閣制度が導入され、今日まで続く内閣総理大臣を首班とする政府の在り方が形づくられた。伊藤を中心に憲法草案が作成され、89年2月11日、天皇が定める憲法と



大日本帝国憲法の下での国のしくみ

中学校との関連 自由民権運動、国会期成同盟、内閣制度、大日本帝国憲法、帝国議会、衆議院議員総選挙、民法、領土

当時の日本の議会制度や行政制度は、ヨーロッパの影響を受けたものであることがわかる。

**日本で初めて女性の参政権を実現した**

楠瀬喜多 (1836～1920)

高知県の上町に住み、戸主であった喜多は、1878(明治11)年、区会議員の選挙で「戸主として納税しているのに、女だから選挙権がないというのはおかしい。本来義務と権利は両立するのが道理であり、選挙権がないなら納税しない」と県に抗議し、拒否されると内務省に訴えた。当時、世界でも女性参政権はアメリカのワイオミング州議会だけといわれていたなか、喜多の住む地域では80年から女性参政権が認められた。しかし4年後の法改正により、また男性しか投票できなくなった。喜多はその後、亡くなるまで女性民権家として活動を行った。(高知市立自由民権記念館蔵)

**未来へ活かす歴史 『日本国民』とされるアイヌの人々**

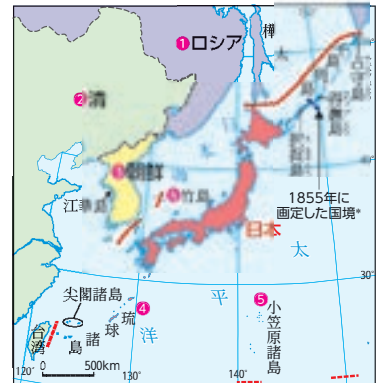
19世紀以降、世界各地での国民国家形成の過程で、先住民(→p.52)などマイノリティとよばれる人々が「国民」として統合された。日本の場合、北海道や千島列島などに先住するアイヌの人々(→p.22)は「日本国民」に同化させられた。新政府は、アイヌ古来の風習や言語を禁止し、日本語教育などを行い、保護の名目で「北海道旧土人保護法」を公布した。アイヌの人々は従来の生活や文化を保つことが難しくなった。教育はアイヌの人々だけの学校で行われ、その後1937年に通常の学校に通学できるようになったが、学内では差別があった。現在では、2007年の国連での「先住民の権利に関する国際連合宣言」採択を受け、翌年アイヌの人々を「先住民」とすることを求める国会決議がなされ、2019年のアイヌ施策推進法にて「先住民」と明記された。

アイヌ学校(北海道江利川市対雁)

して大日本帝国憲法が公布され、翌90年の帝国議会の開設へと至った。これは、欧米以外の国において、当時唯一の立憲政治の始まりであった。しかし、90年に行われた最初の衆議院議員総選挙では、高額納税者の成年男性にしか選挙権は与えられず、有権者は国民の1%程度でしかなかった。また、北海道や沖縄県の人々には参政権がなく、国政に関ることができなかった。同時期のイギリスでは、国民の約19%が選挙権を有しているのとは比べると低い数値であったが、イギリスも制限選挙であり、選挙権の拡大は、各国が抱える共通の課題であった。

憲法制定と共に諸法典も整備され、日本の近代法制度が出来上がった。民法については、フランス人法学者ポアソナードが起草した法典が90年に公布されたが、日本人の法学者から反対が出され、結局日本人の手による新しい民法典が98年に施行された。

**日本の国境画定** 近代国民国家は、主権を有し、それを構成する国民と主権が及ぶ領土を持つ。新政府も近隣国との領土画定に努めた。北方ではロシアと、幕府が結んだ日露通好(和親)条約による択捉島・得撫島間の国境画定に続き、樺太・千島交換条約を結び、日本は樺太を放棄し千島列島を得た。琉球については、日本と清の両属関係であったが、琉球諸島の船が台湾に漂着した際、乗組員が殺害される事件が起こった。日本は抗議して、1874年に台湾出兵を行ったが、これに対し清が事実上の賠償金を支払ったため、日本は琉球が日本領となったと見なして79年に沖縄県を設置した。小笠原諸島は、幕末に幕府が英米両国へ日本領であることを通告しており、76年に国際法に基づき領有が認められた。さらに日本は、95年に尖閣諸島の沖縄県への編入、次いで1905年に竹島の島根県への編入を閣議決定し、自国の領土とする意思を公式に示した。



- 1 ロシア 1855年 日露通好(和親)条約 1872年 琉球藩設置
- 2 清 1875年 樺太・千島交換条約 1879年 沖縄県設置
- 3 琉球諸島 1871年 日清通好条約 1879年 琉球藩を沖縄県に編入
- 4 小笠原諸島 1874年 台湾出兵 1876年 英米が日本の領有を承認
- 5 朝鮮 1875年 江華島事件 1905年 島根県に編入
- 6 竹島 1876年 日朝通好条約

明治初期の日本の国境と外交

国際法上、どの国にも属さない土地を、最初に領有の意思を持って占有すると、その土地は占有した国家の領土になるとされている。

確認 日本が政治制度を整えるために、開設や発布したものを、本文から時系列順に書き出そう。

説明 近代国家となった日本の政治に、国民はどの程度参加することができたのだろうか、説明しよう。

当時、制限選挙は日本だけでなくイギリスでも実施され、選挙権の拡大が世界共通の課題であったことがわかる。



# 世界とそこの中の日本が 捉えられる！

## 世界と日本の動きを一体として理解できる単元構成

近代化

例) 2部4章 アジア諸国の動揺と日本の開国

1節 「西洋の衝撃」と西アジアの変化

2節 南・東南アジアの植民地化

3節 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争

4節 黒船の来航と日本の対応

5節 新体制の模索と江戸幕府の滅亡

↓教科書 p.57-58, 本冊子 p.46-47 試し読み

↓教科書 p.63-64, 本冊子 p.48-49 試し読み

**1 「西洋の衝撃」と西アジアの変化**

18世紀後半、近代化が進むヨーロッパ諸国は、自由貿易をうたって本格的にアジアに進出した。アジア諸国は、強大な力を持つヨーロッパ諸国に反抗しつつ、自身の存続と発展を図らなくてはならなかった。これを一般的に「西洋の衝撃」とよぶ。

18世紀のオスマン帝国は、地方の有力者が強大化し、オスマン政府の支配が全域に行き届かなくなっていた。この状況を見て、ヨーロッパ諸国はオスマン帝国への進出を強めた。1798年、ナポレオンフランス軍が、イギリスのインドへの道をはばむため、オスマン帝国領のエジプトを3年間占領した。エジプトの権力構造は混乱し、フランス軍撤退後にはオスマン軍人ムハンマド・アリーが実権を握った。彼は、徴兵制による軍を近代化してオスマン政府を圧倒し、エジプトに事実上の独立王国を築いた。

一方、クリミア半島では、ロシアが南下してオスマン帝国とたびたび争い、領土を奪い続けた。さらに、ギリシア人が独立戦争を開始し、ロシアやイギリスの軍事介入を得て独立を達成した。このほかにも、多民族国家であるオスマン帝国の各地で、諸民族が独立運動を起こした。

危機に直面したオスマン帝国は、1839年にタンジマートとよばれる近代化改革を開始した。この改革では、オスマン帝国の住民は宗教にかかわらず法の下に平等であるというオスマン主義の、国民の一体化が目指された。政治や教育の近代化改革が行われ、中央集権的な官僚機構や、近代的な軍制・法律が整えられた。76年には、オスマン帝国初の憲法(ミドハト憲法)が制定された。これは、1905年に制定されたイギリスやロシアが40年間に及ぶエジプト軍をシリアから撤退させた。

イギリスは、さらに自国に有利に改定した不平等条約をアジア諸国に押し付け、世界的な自由貿易(一帯一路)のしくみを作り出していた。

これ以後イギリスは、さらに自国に有利に改定した不平等条約をアジア諸国に押し付け、世界的な自由貿易(一帯一路)のしくみを作り出していた。

ムスリムの団結を訴えたアフガニー (1838/39 - 97)

イランに生まれ、インド・エジプト・フランス・ロシアなど各地をめぐり歩いた。そうしたなか、ヨーロッパの諸国による植民地化に反対するムスリムの状況を見て、人々が団結して抵抗するのではなく、全世界のムスリムが団結し、海を越えて二重団結すべきだと主張した(パン・イスラーム主義)。パリで刊行したアラビア語の雑誌は、遠方各地のムスリムにも熱心な読者を集めた。最後はパン・イスラーム主義の宣伝のため、オスマン帝国スルタンに客人として招かれ、イスタンブールで没した。

オスマン帝国が行った近代化政策についての説明を、本文から書き出そう。

オスマン主義とパン・イスラーム主義の違いを説明しよう。

オスマン帝国は「西洋」諸国と不平等な条約を結び、戦争が重なったことで近代化が進まなかったことがわかる。

アジアの他地域と日本を対比して学べる

**4 黒船の来航と日本の対応**

幕府が、長崎のオランダ館長に提出させた、海外事情に関する報告書(一帯一路)。

幕府は、佐幕派、長州藩などを中心に、財政再建とヨーロッパ技術の導入といった改革が急務だと、幕府や長州藩では、実力のある下級武士の登用も行われた。これらの改革の成功は、軍事力の強化につながり、しだいに政局を動かすようになっていった。

欧米の船が日本に近づくなか、幕府は、オランダ風説書など外国からもたらされる情報や、西洋の地理書の翻訳、船通した漂流民からの情報を通じて、ヨーロッパ諸国の世界進出への認識を深めていた。アヘン戦争で大国の清がイギリスに敗れたことが清の商人などに日本に伝わるなか、幕府は1842年に新嘉坡条約を出して欧米諸国との紛争を避ける一方、より一層の海防の強化を進めた。

また、海外情報は蘭学者たちのネットワークにより日本各地にも伝わるようになり、海外に高い関心を持つ大名も現れるようになった。水戸藩では尊王思想と外国を退けようとする攘夷が結び付いて尊王攘夷思想が生まれ、一方、佐幕派や薩摩藩ではヨーロッパの思想や技術を積極的に吸収し、その進出に備えようという動きが強まった。また、これらの藩では、意見を幕政に反映させるための模索も始まっていった。

幕府は欧米の学問を学ぶ善学調所や、海軍技術を学ぶ海軍伝習所を設置し、そこには諸藩の家臣も招かれた。さらに幕府や薩摩藩、長州藩は海外へ使者や留学生を派遣した。こうして欧米の文明に触れた人物の多くは、明治以降、近代化改革の指導者として活躍した。

幕府は欧米の学問を学ぶ善学調所や、海軍技術を学ぶ海軍伝習所を設置し、そこには諸藩の家臣も招かれた。さらに幕府や薩摩藩、長州藩は海外へ使者や留学生を派遣した。こうして欧米の文明に触れた人物の多くは、明治以降、近代化改革の指導者として活躍した。

幕府は欧米の学問を学ぶ善学調所や、海軍技術を学ぶ海軍伝習所を設置し、そこには諸藩の家臣も招かれた。さらに幕府や薩摩藩、長州藩は海外へ使者や留学生を派遣した。こうして欧米の文明に触れた人物の多くは、明治以降、近代化改革の指導者として活躍した。

日本も欧米と不平等な条約を結び国内産業は打撃を受けた。一方で、人々は日本の独立を維持しようとして活動したり、幕府や諸藩では近代化改革が進められたりしたことがわかる。



# 世界とそこの中の日本が 捉えられる！

## 世界と日本の動きを一体として理解できる単元構成

国際秩序の変化や大衆化

例) 3部2章 国際協調と大衆社会の広がり



●第一次世界大戦後、各国で大衆化が拡大したという流れの中で、同時代の日本を学べるため、日本での大衆化が理解しやすい。

↓教科書 p.113-114, 本冊子 p.58-59 **試し読み**

**1節 ヴェルサイユ体制の成立**

**2節 東アジアの民族自決の行方**

**3節 中東・インドの民族自決の影響**

教科書 p.113-114, 本冊子 p.58-59

**不戦条約(1919年)**

第一條 締約国は、国際紛争解決のために戦争に訴へることを放棄し、かつ、その相互の間に於いて国家政治の手段として戦争を宣言することを、その各々の人民の名において放棄を誓ふ。

第二條 締約国は、相互間に発生する紛争または紛争の処理または解決を、その性質または原因の如何を問はず、平和的手段以外で求めないことを約束する。

**1kgのライ麦パンの値段(ドイツ)**

| 年月      | 値段(マルク)           |
|---------|-------------------|
| 1919.12 | 0.8               |
| 1921.12 | 3.9               |
| 1922.12 | 163.15            |
| 1923.4  | 7                 |
| 7       | 3,465             |
| 8       | 69,000            |
| 9       | 1,512,000         |
| .10     | 1,743,000,000     |
| .11     | 201,000,000,000   |
| .12     | 399,000,000,000   |
| 1924.1  | 1,000,000,000,000 |

**イギリスの女性参政権運動(1910年)**

女性参政権運動を行ったことや、大戦中に徴兵制の実施などで男性労働者が不足した後、女性が労働力として活躍したことにより、その社会的地位が高まった(→p.98)。

**20年代のヨーロッパ**

戦後のヨーロッパでは当初、ソ連と社会主義に期待を寄せる人々、これを警戒と見なし反発する人々が政治的に激しく対立した。ドイツでは共和国設立が宣言され、民主的なヴァイマル憲法が制定された(ヴァイマル共和国)。しかし敗戦と革命後の混乱は続き、ヴェルサイユ体制に対しても国民の不満が高まった。他方、フランスは、ドイツに対して強硬な姿勢を示し、賠償不履行を口実にベルギーと共に工業地域のルール地方を占領した。これに対し、ドイツの労働者は仕事を放棄して対抗したため、極端な物価の上昇(インフレーション)を招き、ドイツ国民の生活は大きく混乱した。シュレーゼマン首相は、新通貨レンテンマルクの発行によってインフレを終わらせ、その後外相となった。

**戦後ドイツの混乱と復興**

大戦後のヨーロッパでは当初、ソ連と社会主義に期待を寄せる人々、これを警戒と見なし反発する人々が政治的に激しく対立した。ドイツでは共和国設立が宣言され、民主的なヴァイマル憲法が制定された(ヴァイマル共和国)。しかし敗戦と革命後の混乱は続き、ヴェルサイユ体制に対しても国民の不満が高まった。他方、フランスは、ドイツに対して強硬な姿勢を示し、賠償不履行を口実にベルギーと共に工業地域のルール地方を占領した。これに対し、ドイツの労働者は仕事を放棄して対抗したため、極端な物価の上昇(インフレーション)を招き、ドイツ国民の生活は大きく混乱した。シュレーゼマン首相は、新通貨レンテンマルクの発行によってインフレを終わらせ、その後外相となった。

**平和を構築する国際秩序の構築**

1925年にはヨーロッパの集団安全保障体制を定めたロカルノ条約が成立した。この条約により、ドイツの西側国境の現状維持が保障され、翌26年にドイツの国際連盟加入が実現した。しかし、東側国境を保障しなかったことはソ連の不信を招いた。28年にはフランスとアメリカの提議により、日本を含めた15か国によって不戦条約が締結された。これは、国際紛争の解決に戦争を手段として

↓教科書 p.117-118, 本冊子 p.62-63 **試し読み**

**4節 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加**

**5節 大衆社会の出現とアメリカの繁栄**

**6節 日本における大衆社会の形成**

教科書 p.117-118, 本冊子 p.62-63

**吉野作造の民本主義**

民本主義とは、法律の理の上で主権が誰にあるかを問うのではなく、たゞその主権を行使するにあたって、主権者は、当然一般民衆の福利と権利を主眼とすることを方針とすべきという主義である。つまり、国権の運用に關してその指導的標準となるべき政治主義であつて、主権が君主にあるか人民にあるかを問うことゝなるではない。

**吉野作造(1878~1933)**

宮城県出身の政治家。東京帝国大学法学部教授(大正デモクラシー)をけん引した論客で、民本主義を提唱した。

**普通選挙を求めて集會参加をする人々(1919年)**

日本では、どのような大衆化が実現されたのか、普通選挙を求めた人々に受け入れられたのだろうか。

**世界で広がった大衆の政治参加の動きは、日本でも始まっていた。**

日本では、大正時代に入ると、世論を政治に反映しようとする動きが本格化した。陸軍や藩閥を基盤とした桂太郎内閣が成立すると、1912年から翌年にかけて、これに反対する第1次護憲運動が起こり、内閣内閣総辞職へと追い込まれた(大正政変)。大衆運動によって内閣が倒れたのは、日本の憲政史上初めてであった。

以後、政党を中心とした政治運営が進み、「大正デモクラシー」とよばれる民主主義的な風潮が強くなっていった。このころ、政治学者の吉野作造は民本主義、憲法学者の美濃部達吉は天皇機関説を唱え、政党政治発展のための理論的根拠を示した。

第一次世界大戦中、日本は好景気(大戦景気)に沸いたが、庶民は物価上昇に苦しみ、18年には、シベリア出兵をきっかけとして、米の安売りを求める暴動が発生した。この米騒動によって藩閥を基盤とした内閣が倒れ、立憲政友会党首の原敬が内閣を組織した。原内閣は、閣僚の大部分が政友会員が占める、初めての本格的な政党内閣であった。「平民宰相」とよばれた原は、世論の支持を背景に、選挙法改正による選挙権の拡張、陪審制の導入、高等教育機関の拡充、地方のインフラ整備などを推進した。

原内閣のあとには再び非政党による短命政権が続いたが、1924年に政党勢力が普通選挙の実施を掲げて第2次護憲運動を起した。そして総選挙に勝利し、憲政友会党の加藤高明が首相に就任した。翌25年、加藤内閣は、満25歳以上の男性に選挙権を

ナショナリズムを掲げた大衆運動が台頭したドイツ、イタリアの例や、女性にも選挙権が拡大したイギリスの例など、第一次世界大戦後の世界で大衆の政治参加や女性運動が広がったことがわかる。

世界の動きを踏まえて日本の大衆化を捉えられる

日本においても、大正時代に入ると、「大正デモクラシー」とよばれる大衆による民主主義的な動きが強まったことがわかる。また、女性運動など様々な社会運動も活発になったことがわかる。



# 世界とそこの中の日本が 捉えられる！

## 世界と日本の動きを一体として理解できる単元構成

グローバル化

例) 4部3章 グローバル化のなかの世界と日本

1節 冷戦の終結と変わる世界構造

2節 冷戦の終結が与えた世界への影響

3節 超大国アメリカと中東情勢

4節 国際環境の変化と日本

5節 グローバル化による国際社会の変容

↓教科書 p.185-186, 本冊子 p.68-69 試し読み

**1 冷戦の終結と変わる世界構造**

1945年 第二次世界大戦の終結  
1949年 冷戦の開始  
1989年 冷戦の終結

冷戦の終結により、世界構造はどのように変化したのだろうか。

東欧では、1980年にポーランドでワレサ率いる自主労働組合「連帯」による民主化運動が起り、80年代のハンガリーでも経済の自由化と政治改革が進むなど、改革の動きが始まっていた。そこへ、ソ連のゴルバチョフによるペレストロイカがもたらした影響もあり、ポーランドでは、89年の選挙で非共産党政権が生まれた。これを初めとして、89年に次々と共産党政権が倒れた(東欧革命)。また、ドイツでは、東ドイツの人々が東欧経由で西ドイツへの移動が可能になった状況を受け、冷戦の象徴であった「ベルリンの壁」が、89年に開放された。そして、翌90年、東ドイツが西ドイツに併合された(東西ドイツ統一)。この年は多くの国で自由選挙が行われ、東欧の民主主義が明白となった。

ソ連のペレストロイカは、対外的には緊張緩和をもたらしたが、89年の米ソ首脳会談(マルタ会談)で冷戦終結が宣言された。国内では共産党の単一支配が廃止され、市場原理の導入が目指された。また、ソ連内の民族独立運動が高まり、リトアニアなどバルト3国がソ連からの独立を宣言した。

91年、ソ連解体の動きに危機感を抱いた保守派は、ゴルバチョフを攻撃するクーデタを試みたが、ソ連構成国であるロシア共和国のエリツィン大統領と市民らの抵抗によって失敗し、ソ連共産党は解散した。各共和国もソ連を離脱して、新たにロシア連邦を中心にいくつかの共和国が独立国家共同体(CIS)を創設し、ソ連は解体した。

また、多民族国家であったユーゴスラヴィア連邦は、政府が弱体化して民族間の対立が激化し、連邦崩壊に伴い宗教・民族・言語の違いによる問題が噴出し、

**4 国際環境の変化と日本**

冷戦終結後、日本は、主要先進国の一員として、世界の安全保障にどのように関与するかが問われるようになった。1990年にイラクがクウェートに侵襲すると、日本にも人的支援が求められ、自衛隊の派遣が検討された。しかし、法整備も不十分なうえ、国内世論の反対が強く実現しなかった。日本は自衛隊の資金協力をし、湾岸戦争後にベトナムへ掃海艇を派遣したが、アメリカは日本の貢献が不十分であると批判した。これがきっかけとなり92年、国連平和維持活動(PKO)協力が制定され、日本はカンボジアで行われていたPKOに自衛隊を派遣した。その後、武力行使を行わない自衛隊の海外派遣が世界各地で行われるようになった。

冷戦終結により、保守と革新という日本従来の国内政治の対立軸は曖昧となった。こうしたなか政治改革をめぐる野党が分裂し、野党も交えて政府の再編を目指す動きが強まった。その結果、1993年に非自民連立政権の橋本内閣が誕生し、55年体制が崩壊した。その後、日本の政党政治は連立政権の時代に入り、政党の離合集散が続いた。99年以降になると、自民党が公明党と連立して政権を担った。2009年に民主党による政権交代が実現したが、12年には再び自公連立政権が誕生し、現在まで続いている。

複雑な政治情勢を生んだ背景には、90年代初頭のバブル経済崩壊に始まった、「失われた20年」とよばれる日本経済の停滞もあった。製造業の海外移転によって産業の空洞化が進み、少子高齢化による人口減少が深刻な課題となった。これに伴う社会保障費の増大などによる財政赤字の拡大

↓教科書 p.191-192, 本冊子 p.70-71 試し読み

**4 国際環境の変化と日本**

冷戦終結後、日本は、主要先進国の一員として、世界の安全保障にどのように関与するかが問われるようになった。1990年にイラクがクウェートに侵襲すると、日本にも人的支援が求められ、自衛隊の派遣が検討された。しかし、法整備も不十分なうえ、国内世論の反対が強く実現しなかった。日本は自衛隊の資金協力をし、湾岸戦争後にベトナムへ掃海艇を派遣したが、アメリカは日本の貢献が不十分であると批判した。これがきっかけとなり92年、国連平和維持活動(PKO)協力が制定され、日本はカンボジアで行われていたPKOに自衛隊を派遣した。その後、武力行使を行わない自衛隊の海外派遣が世界各地で行われるようになった。

冷戦終結により、保守と革新という日本従来の国内政治の対立軸は曖昧となった。こうしたなか政治改革をめぐる野党が分裂し、野党も交えて政府の再編を目指す動きが強まった。その結果、1993年に非自民連立政権の橋本内閣が誕生し、55年体制が崩壊した。その後、日本の政党政治は連立政権の時代に入り、政党の離合集散が続いた。99年以降になると、自民党が公明党と連立して政権を担った。2009年に民主党による政権交代が実現したが、12年には再び自公連立政権が誕生し、現在まで続いている。

複雑な政治情勢を生んだ背景には、90年代初頭のバブル経済崩壊に始まった、「失われた20年」とよばれる日本経済の停滞もあった。製造業の海外移転によって産業の空洞化が進み、少子高齢化による人口減少が深刻な課題となった。これに伴う社会保障費の増大などによる財政赤字の拡大

**5 グローバル化による国際社会の変容**

冷戦の終結によって、市場経済の原則が世界の多くの国に受け入れられ、グローバル化が進んだ。そのため、これまで主に自国のルールに従っていた企業活動が、世界共通のルールでの競争にさらされることになり、日本の企業でも、製品の規格から会計の基準、経営手法、働き方まで、さまざまな分野でグローバルスタンダード(世界標準)に合わせるための改革が進められた。

一方、世界貿易が拡大するなか、1995年にはGATTに替わって自由貿易体制を管理する世界貿易機関(WTO)が発足した。これにより自動車分野の日本経済優位などが、WTOにおいて処理されるようになった。しかし、WTOでの交渉は時間がかかり、合意が難しくなるという問題が出てきた。そのため、2000年代以降、2か国以上の国や地域でモノやサービスの自由化を進める自由貿易協定(FTA)が結ばれるようになった。日本もアジア太平洋経済協力(APEC)諸国との間で環太平洋パートナーシップ(TPP)協定を結ぶなど、地域での経済連携を積極的に進めている。

90年代に入ると、中国やベトナムなどの社会主義国も急速な経済成長を遂げ、東アジアはヨーロッパや北アメリカと並ぶ世界経済の中心地域となった。日本と東アジア諸国は、貿易を通じてより緊密に結び付くようになり、文化交流も盛んになった。一方で、東アジア諸国ではナショナリズムも強まった。日本と中国・韓国との間では、第二次世界大戦や植民地支配に関する歴史認識の違いが課題となり、北朝鮮の交渉は、核兵器・ミサイル開発問題や日本人拉致問題もあって停滞している。また、東アジア諸国とは領土をめぐる課題もあり、これらの改善に向けた努力が続けられている。

冷戦の終結により、グローバル化が急速に進んだことがわかる。

グローバル化によって日本が世界に果たす役割が変化していったことがわかる。

国際環境の変化を踏まえて日本の役割を捉える



## 前近代史がコンパクトにまとまった巻頭の資料「地域の歩み1~5」

↓教科書 資料1-資料2, 本冊子 p.28-29 **試し読み**

### 地域の風土ページ

**東アジアの歴史**

**中国の文化を共有する世界**

東アジアは、ユーラシア大陸の東部に位置し、中国大陸、朝鮮半島、日本列島からなる。その歴史は、中国大陸の王朝の興亡と、朝鮮半島、日本列島の歴史と深く結びついている。また、中国大陸から、漢字、儒教、仏教、道教などが伝わり、東アジアの文化を共有する世界を形成してきた。

**宗教**

中国の春秋時代に生まれた孔子は、人々の徳を尊ぶことを重視し、その教えは後世に及ぼす影響が大きい。また、中国大陸から伝わり、東アジアの文化を共有する世界を形成してきた。また、中国大陸から伝わり、東アジアの文化を共有する世界を形成してきた。

**東アジアの風土**

東アジアの気候は、北緯30度から北緯60度の間にあり、四季がはっきりと区別される。また、東アジアの地形は、中国大陸の高原、山地、丘陵、平野、川谷、海浜などがあり、多様な自然環境を形成している。

↓教科書 資料3-資料4, 本冊子 p.30-31 **試し読み**

### 地域の概説ページ

**日本の前近代史が1見開きで簡潔に押さえられ、中学校の復習にもなる。**

**縄文時代** 約14,000年 - 約300年

**弥生時代** 約300年 - 約300年

**古墳時代** 約300年 - 約710年

**飛鳥時代** 約710年 - 約794年

**奈良時代** 約794年 - 約754年

**平安時代** 約754年 - 約1185年

**鎌倉時代** 約1185年 - 約1333年

**室町時代** 約1333年 - 約1568年

**徳川時代** 約1568年 - 約1868年

**大正時代** 約1868年 - 約1912年

**昭和時代** 約1912年 - 約1945年

**平成時代** 約1945年 - 約2019年

**令和時代** 約2019年 - 現在

### 地域の風土ページ

- 風土を表す地図と年表、写真とその解説から、各地域の特徴をイメージできる。
- 上段は左右を貫く年表を軸に、写真、絵画、グラフ、地図などを用いて各地域の古代～近世史をビジュアルに整理。
- 下段は各地域の前近代の大きな歴史の流れを確認できる。

### 地域の概説ページ

↓教科書 資料5-資料6, 本冊子 p.32-33 **試し読み**

**東アジアの歴史**

**中国の歴史**

中国の歴史は、約5000年前の黄河文明から始まり、周朝、秦朝、漢朝、隋朝、唐朝、宋朝、元朝、明朝、清朝と続いた。中国の歴史は、中国大陸の王朝の興亡と、朝鮮半島、日本列島の歴史と深く結びついている。

**東アジアの風土**

東アジアの気候は、北緯30度から北緯60度の間にあり、四季がはっきりと区別される。また、東アジアの地形は、中国大陸の高原、山地、丘陵、平野、川谷、海浜などがあり、多様な自然環境を形成している。

### 「地域の歩み」一覧

| 地域              | テーマ                | 教科書ページ    |
|-----------------|--------------------|-----------|
| 1 東アジアの文明       | 1 東アジアの風土と人々       | 資料1-資料2   |
|                 | 2 日本の歴史            | 資料3-資料4   |
|                 | 3 東アジアの歴史          | 資料5-資料6   |
| 2 南・東南アジアの文明    | 1 南・東南アジアの風土と人々    | 資料7-資料8   |
|                 | 2 南・東南アジアの歴史       | 資料9-資料10  |
| 3 西アジア・北アフリカの文明 | 1 西アジア・北アフリカの風土と人々 | 資料11-資料12 |
|                 | 2 西アジア・北アフリカの歴史    | 資料13-資料14 |
| 4 ヨーロッパの文明      | 1 ヨーロッパの風土と人々      | 資料15-資料16 |
|                 | 2 ヨーロッパの歴史①        | 資料17-資料18 |
|                 | 3 ヨーロッパの歴史②        | 資料19-資料20 |
| 5 南北アメリカの文明     | 1 南北アメリカの風土と人々     | 資料21      |
|                 | 2 南北アメリカの歴史        | 資料22      |



## ビジュアルに捉えられる 「生活・文化から見る日本と世界」

↓教科書 p.81-82, 本冊子 p.54-55 **試し読み**

### 生活・文化から見る日本と世界の明治期 **文明開化とジャポニスム**

導入として当時の日本人の暮らしが具体的にわかる絵画・写真を掲載。



- ↑ 1871年の神戸港 神戸や横浜など開港地は、外国船の来港により、急速に生活や街の様子が変わっていった。
- 外国人 和服の日本人と洋服の外国人が混在している。この後、日本人は洋服を生活に取り入れていく。
- 建物 洋風建築の外国領事館が立ち並び、洋風建築は、東京(→p.15)などの都市にも次々造られた。
- 馬車と人力車 欧米の馬車が日本にも持ち込まれ、それを日本風に改良した人力車も作られた。
- 船 海上には、日本古来の和船に加え、欧米からやって来た蒸気船が見られる。

### ① 西洋文化で変わる日本の生活

開国後、神戸や横浜など開港地に外国人居住地が作られ、西洋文化が日本に流入した。これにより、よばれる生活の洋風化された。

開国により世界の影響を受けて変化した生活の様子がわかる。



↑ 牛鍋を食べる男性 文明開化の下、人々は、それまで食べていなかった牛肉を口に、新聞を読み、髪の毛を結うことをやめてざんぎり頭となった。(『安愚楽編』東京大学法文学部附属明治新聞雑誌文庫蔵)

← 鉄道と郵便配達人 鉄道の敷設や蒸気船航路の開通、郵便制度の整備、そして国内の電信線や海底通信ケーブルの設置により、国内だけでなく海外からも多くの人や情報が行き交うようになった。(『開化幼学門』郵政博物館蔵)

### FILE 西洋化する日本の【時間】

江戸時代以前の人々は、日の出から日の入りまでの昼の時間と、日の入りから日の出までの夜の時間をそれぞれ六つの刻に分けて生活していた(不定時法)。そのため、季節や地域(緯度・経度)によって、昼と夜の一刻の長さは異なっていた。明治時代になり、太陽暦(西暦)が採用されると、1日は均等に24時間に分けられ、日曜日が公務の休日と定められた。この時間の西洋化の理由は、欧米との貿易における利便性、工場労働の時間管理の必要性、鉄道の運行に同一の時刻表が必要となることなどからである。こうして、人々は、国が定めた同一の時間で生活するようになった。

→ 明治時代の時計師 (『諸工業業録』国文学研究資料館蔵)



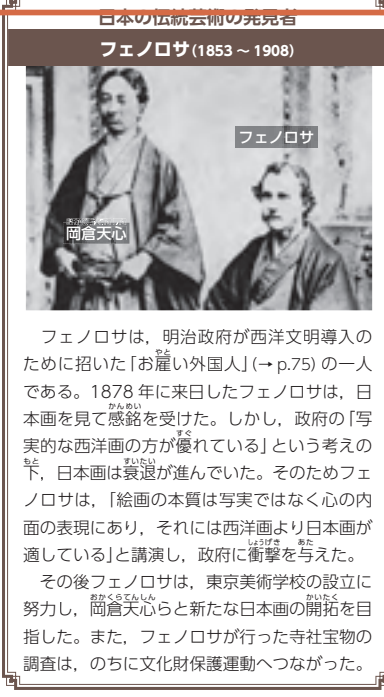
### ② 西洋の影響を受ける日本の芸術

開国後の日本には、技術や文化だけでなく、西洋芸術が入ってきた。芸術家たちはそれらの特質や技法を取り入れ、和洋折衷の芸術を生み出した。



↑ 黒田清輝作「湖畔」 パリに留学した黒田は、日本西洋画に明るい色彩の画風をもたらした。(東京国立博物館蔵 東京文化財研究所画像提供 重要文化財 1897年 縦69cm × 横84.7cm)

→ 狩野芳崖作「慈母観音」 芳崖は、フェノロサに勧められ、西洋技法を取り入れた新たな日本画を描いた。(東京芸術大学蔵 1888年 縦195.8cm × 横86.1cm)



フェノロサは、明治政府が西洋文明導入のために招いた「お雇い外国人」(→p.75)の一人である。1878年に来日したフェノロサは、日本画を見て感銘を受けた。しかし、政府の「写実的な西洋画の方が優れている」という考えの下、日本画は衰退が進んでいた。そのためフェノロサは、「絵画の本質は写実ではなく心の内面の表現にあり、それには西洋画より日本画が適している」と講演し、政府に衝撃を与えた。その後フェノロサは、東京美術学校の設立に努力し、岡倉天心らと新たな日本画の開拓を目指した。また、フェノロサが行った寺社宝物の調査は、のちに文化財保護運動へつながった。

### 全5テーマ

※各テーマは本冊子 p.4-5 を参照。

西洋の影響は生活だけでなく文化にも及んだことがわかる。

日本の文化が世界に影響を与えたことも紹介。相互的な視野から歴史を捉えられる。

### ③ 欧米で起こった日本ブーム「ジャポニスム」

輸出や万博(→p.55)を通じて欧米に日本の芸術が広まり、日本ブーム「ジャポニスム」が起こった。これは、日本製品の愛好というだけでなく、芸術技法への影響ももたらした。

↓ モネ作「ラ・ジャポネーズ」 フランスの画家モネは日本愛好家であった。当時の欧米では、このように室内で日本風の格好をする女性も見られたという。(ボストン美術館蔵 1876年 縦231cm × 横142cm)



↑ ロートレック作「ディヴァン=ジャポネ」 この多色刷りのポスターは、遠近法を無視した色使いや、大膽な構図などに、浮世絵(→p.29)からの影響が見られる。ロートレックらの芸術は「アール=ヌーヴォー」(新しい芸術)とよばれ、従来の様式にとらわれない芸術が目指された。(1893年 縦79cm × 横60cm)

### 世界の日本 アジアに広まる和製漢語

幕末から明治初期の日本では、欧米の書物が大量に翻訳された。しかし、そこに登場する概念は日本語や中国の古典にないものも多く、人々は新たな言葉を創出しながら翻訳を進めた。このように日本で作られた漢字の新語(和製漢語)は、日清・日露戦争期の中国人留学生(→p.79)などにより中国に逆輸入され、朝鮮やベトナムにも広まった。それとともに、江戸時代以前に作られた訓読みの和製漢語も、アジアに広がっていった。

↓ 英語と日本・中国・朝鮮における翻訳語 それぞれ現在使われている表記である。

| 英語           | 日本語 | 中国語 | 朝鮮語 |
|--------------|-----|-----|-----|
| politics     | 政治  | 政治  | 정치  |
| economy      | 経済  | 经济  | 경제  |
| society      | 社会  | 社会  | 사회  |
| right        | 権利  | 权利  | 권리  |
| civilization | 文明  | 文明  | 문명  |
| history      | 歴史  | 历史  | 역사  |



## 身近な視点が生徒の関心を高める 「ものから見る歴史」・「人物コラム」

↓教科書 p.121, 本冊子 p.64 **試し読み**

全9テーマ

※各テーマは本冊子 p.5 下部を参照。

ものから  
見る歴史

### FILE.6 衣服

### 女性の社会的地位の変化とファッション



1 モード大臣ともよばれたローズ=ベルタン(1747~1813) 王妃の庇護の下、次々に新しい流行を生み出した。

2 「レカミエ夫人」の肖像画(ダヴィド作) 総裁政府期から帝政期にかけて、パリ社交界で世界一の美女とよばれた女性。革命前の体を締め付けるスタイルから解放されたドレスは、離婚の自由が認められていた時期(→p.44)の女性の法的地位と呼応していた。



3 19世紀後半のパスルスタイルクリノリンスタイルでは、鯨のひげなどの枠に重ねたベチコートによって円形ドーム型に膨らませたスカートの特徴としていたが、パスルスタイルでは、スカートの後方にボリュームを持たせた。パスルスタイルも、重厚さがあり、精巧で複雑な仕立てであることには変わりなかった。



4 軍需品を製造する女性を描いたポスター(20世紀 イギリス) 「軍需品の製造を学ぼう」と訴えるポスターでは、第一次世界大戦中に「果たすべき役目を務めている」女性たちが描かれた。軍需工場働く女性たちは、働きやすい膝丈のストレートスカートに作業着をはおっている。

#### ●女性の社会的地位と衣服

フランス革命前の社会では、国王ルイ16世(→p.35)の妃マリ=アントワネットに代表されるように、王妃が服飾文化を主導していた。身分制社会の位階秩序のなかで最高位の女性である王妃は、衣装においても権威を再生産していくことが求められた。王妃が重用したのが、仕立屋で衣装デザイナーのローズ=ベルタンである。平民出身のベルタンがパリに構えた店は、「王妃風」の衣装を求めるとあふれ返った。貴族ではない人々も王妃と似た衣装を手に入れることができるというのは、身分を超えて女性たちが同じ衣装を身に着けることを可能にした点で画期的であったが、身分秩序を揺るがせると危機感を抱く貴族たちもいた。

#### ●コルセットからの解放と回帰

ベルタンは、それまでの重く身体を締め付けるドレスに替えて、より楽で快適な服装を模索し、モスリンの簡素でゆったりしたドレスを流行させた。こうした衣装の変革は、革命期に、女性の社会的地位の向上とも連動して、透けるような布地を用いた直線的で軽やかな衣装として完成された。身体を締め付けぬ衣装は、皇帝ナポレオン(→p.37)の妃ジョゼフィーヌが着用したことからエンパイアスタイルともよばれ、現代のウェディングドレスにおいても人気のあるデザインとなっている。

その一方で、女性の服装の流行において、王政復古期(→p.47)から、再びコルセットで身体を締め付けるスタイルへと回帰する動きが見られたことは、19世紀に女性が夫に従属する法的地位へと戻されたことと連動していた。19世紀半ばから20世紀初めに流行したクリノリンスタイル、パスルスタイルに代表されるように、上流階級の女性の服装は、重くて非活動的で高価でもあった。そして、美しく着飾った女性は、独立した個人としてではなく、夫の経済力を示す飾りとならされてきた。また、貧しい女性は、古着を手に入れて着るしかなかった。

#### ●第一次世界大戦と女性

総力戦の時代となった第一次世界大戦期(→p.98)には、軍事基地や軍需工場、輸送・交通機関など、それまで女性には閉ざされていた労働の場において、女性が必要とされるようになり、女性の衣服は、働きやすいものへと変化した。大きく膨らませていたスカートは、ストレートに広がるものとなり、スカート丈も、足首を覆うものからくるぶし丈へ、さらには膝丈へと短くなっていった。女性たちの働きやすい環境への要求は、女性の衣服を変える大きな力となったばかりでなく、女性の社会的地位の向上も目指された。このような風潮のなかで、北欧諸国やドイツ、ソ連では、1919年までの間に女性参政権も認められていった。

18世紀から第一次世界大戦にかけての女性の社会的地位の変化に伴って、その衣服のスタイルも変化したことを絵画とともに解説。

- 「ものから見る歴史」：衣服や感染症など、様々な身のまわりの「もの」がどのように人々の生活・文化に影響したかがわかる。
- 「人物コラム」：歴史上の人物の人柄や業績を紹介し、歴史に興味を持つきっかけになる。

**日本のケインズ**  
高橋是清(1854~1936)

アメリカで奴隷として売られるなど波乱の青年期を過ごした後、官界に入り、日銀総裁、総理大臣などを歴任した。満州事変後、大蔵大臣として積極的な財政政策を取り、不況からの脱出に成功したため、「日本のケインズ」とも称される。軍事予算の抑制に努めたことから、陸軍の青年将校に敵視され、二・二六事件(→p.129)で殺害された。

**日本で初めて女性の参政権を実現した**  
楠瀬喜多(1836~1920)

高知県の上町に住み、戸主であった喜多は、1878(明治11)年、区会議員の選挙で「戸主として納税しているのに、女だから選挙権がないというのはおかしい。本来義務と権利は両立するのが道理であり、選挙権がないなら納税しない」と果てに抗議し、拒否されると内務省に訴え出た。当時、世界でも女性参政権はアメリカのワイオミング州議会だけといわれていたなか、喜多の住む地域では80年から女性参政権が認められた。しかし4年後の法改正により、また男性しか投票できなくなった。喜多はその後、亡くなるまで女性民権家として活動を行った。(高知市立自由民権記念館蔵)

**黒人奴隷の惨状を描いた**  
ストウ(1811~96)

ストウは、奴隷制反対論者の父の下で、奴隷制反対活動の盛んな土地で育ち、奴隷制について知識を得ていた。人道主義的立場から黒人奴隷の惨状を描いた「アングル=トムの小屋」は、1852年に出版され発売後9か月で30万部が売れるベストセラーとなって、北部の奴隷制反対の世論を高めた。

高橋是清の波乱の人生や、女性参政権を日本で初めて実現した楠瀬喜多の熱意にふれることができる。

「人物コラム」だけでなく、「未来へ活かす歴史」や「世界の中の日本」といった別のコラムでも人物を紹介。

**未来へ活かす歴史** 『女性による社会運動』

明治時代、女性の社会的活動は制限されていた。衆議院議員選挙法では、女性の選挙権・被選挙権が認められず、民法(→p.74)でも、戸主を頂点とする家制度の下で、女性は婚姻や相続で不利な地位に置かれていた。しかし、平塚らいてうが1911年に雑誌「青鞥」を創刊し、「元始、女性は実に太陽であった」と宣言するなど、女性の社会運動は活発化した。第一次世界大戦後、欧米での女性参政権獲得に刺激され(→p.114)、女性の参政権運動が盛り上がった。20年には、平塚や市川房枝が新婦人協会を結成し、その努力により女性の政治集会への参加が公に可能になった。しかし、女性参政権の実現は、戦後を待たなければならなかった。

→ 平塚らいてう(1886~1971)

世界・日本から計46人を掲載。

#### ●人物コラム

|      |                |       |            |       |                |       |         |
|------|----------------|-------|------------|-------|----------------|-------|---------|
| 資料18 | カール大帝          | p.63  | 中濱万次郎      | p.116 | ウォルト=ディズニー     | p.166 | アラファト   |
| 資料20 | グロティウス         | p.66  | 榎本武揚       | p.118 | 原敬/加藤高明        | p.171 | ホー=チ=ミン |
| p.33 | ワシントン          | p.72  | 西郷隆盛/大久保利通 | p.123 | フランクリン=ローズヴェルト | p.173 | 佐藤栄作    |
| p.40 | マルクス           | p.74  | 楠瀬喜多       | p.126 | ピカソ            | p.176 | 鄧小平     |
| p.41 | ヴィクトリア女王       | p.76  | 明成皇后(閔妃)   | p.128 | 高橋是清           | p.185 | ゴルバチョフ  |
| p.50 | ガリバルディ         | p.77  | 西太后        | p.130 | 斎藤隆夫           | p.187 | マンデラ    |
| p.51 | ストウ            | p.80  | 孫文         | p.137 | 花森安治           | p.189 | バラク=オバマ |
| p.52 | マリ=キュリー        | p.82  | フェノロサ      | p.145 | チャーチル          |       |         |
| p.57 | ムハンマド=アリー      | p.107 | ウィルソン      | p.147 | 毛沢東            |       |         |
| p.58 | アフガーニー         | p.109 | 魯迅         | p.149 | マッカーサー         |       |         |
| p.60 | チュロンゴ=王(ラ=マ5世) | p.111 | ガンディー      | p.159 | フィデル=カストロ/ゲバラ  |       |         |
| p.61 | 大黒屋光太夫         | p.111 | ムスタファ=ケマル  | p.165 | ナセル            |       |         |







## 「見通し」と「振り返り」で 確かな学力が身に付く見開き構成

- 部構成だけでなく、見開き構成でも「見通し」「振り返り」を構造化。  
「読み解き」→「学習課題」→「本文」→「確認・説明」の流れで課題解決型学習に対応。
- 各見開きの導入部分にはAB判の判型を生かし、写真や風刺画、文章資料などを豊富に掲載。学習導入に資料の「読み解き」を行うことで学習テーマが明確になる。

↓教科書 p.63-64, 本冊子 p.48-49 **試し読み**

図版や資料の読み解きから学習を進められる「導入」。

学習の見通しを立てられる「学習課題」。

学習している地域を確認できる「地域インデックス」。

学習しているページの前後の出来事を確認できる工夫。

中学校の既習事項を確認できる「中学校との関連」。

**1 日本で播かれたアメリカ船(1854年)** (神奈川県歴史博物館蔵)

**史** オランダから幕府にもたらされた情報  
1843年の情報  
これまで清は(イギリス軍に)何度も打ち負け、清軍の高官は皇帝にイギリス軍にはかなわないと報告しましたが、皇帝は取り合わず…イギリス軍艦はおびたしく、皇帝も事態の沈静化のために和談を行うしかないと考えを変えました。  
(『別段風説書』より、現代語訳・一部要約)

1852年の情報  
アメリカ合衆国の政府は、交易を結ぶため日本に船を送るようです。…指揮官「ペルリ」という者が総督となったようです。…情報によれば、陸軍および攻城の武器をも積み込んでいます。  
(『別段風説書』より、現代語訳・一部要約)

**読み解き** 幕府にとって、アメリカ船の来航は突然の出来事だったのだろうか。

### 4 黒船の来航と日本の対応

**学習** 日本は、ヨーロッパ諸国の進出に対して、どのように対応したのだろうか。

**海外情報への対応** 欧米の船が日本に近づくなか、幕府は、オランダ風説書など外国からもたらされる情報や、西洋の地理書の翻訳、帰国した漂流民からの情報を通じて、ヨーロッパ諸国の世界進出への認識を深めていた。アヘン戦争で大国の清がイギリスに敗れたことが清の商人などから日本に伝わるなか、幕府は1842年に**新水給与令**を出して欧米諸国との紛争を避ける一方、より一層の海防の強化を進めた。

また、海外情報は蘭学者たちのネットワークにより日本各地にも伝わり、海外に高い関心を持つ大名も現れるようになった。水戸藩では尊王思想と外国を退けようとする攘夷が結び付いて**尊王攘夷**思想が生まれ、一方、佐賀藩や薩摩藩ではヨーロッパの思想や技術を積極的に吸収し、その進出に備えようという動きが強まった。また、これらの藩では、意見を幕政に反映させるための模索も始まっていった。

**日本の開国** ヨーロッパにて1848年からの動乱やクリミア戦争が起ること、アメリカがヨーロッパ各国の間を抜いて日本を目指した。太平洋岸への国土拡大を達成したアメリカは、**南京条約**で開港した清との貿易における中継地点と、日本近海における捕鯨のための補給地点を確保するため、日本を開国させようとして**ペリー**を派遣した。

1853年、ペリーは浦賀沖に到着した。幕府は、アメリカ船の来航をすでにオランダから通告されており、実力行使による対抗は難しいと判断して、開国を勧告するアメリカ大統領の国書を受け取った。その後、再び回答を聞きに来るといふペリーに備え、幕府は諸大名や下級の幕臣に意見を求め、朝廷にも報告した。それまで幕府が政治に関する意見をこれほど広く求めたことは無かったため、この後、朝廷や有力大名は発言力を強め、日本中の人々が身分を超えて政治に高い関心を持つようになっていった。

翌54年、幕府は**日米和親条約**を結び、外国船の補給と漂流民の保護を認めた。以後、露・英なども同様に条約を結んだ。さらにアメリカからの自由貿易への強い要請は続き、アロー戦争の推移が伝えられると、幕府は開国して貿易を行うことを決断した。こうして58年に、**日米修好通商条約**が結ばれ、ヨーロッパ諸国と同様の条約が結ばれた。諸条約には、関税自主権が無く領事裁判権を認めるなど、日本に不利な不平等項目が含まれており、その解消は明治時代の外交交渉における課題となった。

**開国の影響と近代化改革** 日本は、欧米との条約締結により、世界市場へ参加させられた。そして、貿易が活発になると国内経済は混乱した。世界的に不足した生糸や蚕紙が大量に輸出され、国内の絹織物業は原料不足となり打撃を受けた。海外で人気の茶も盛んに輸出された。一方、良質で安価な綿糸が輸入され、国内の綿関係産業も混乱した。変化に適応した新しい商人が台頭する一方、庶民は苦しい生活に追い込まれた。人々は欧米諸国に従属することを恐れ、さまざまな政治勢力となって日本の独立を維持しようと活動した。幕府をはじめ諸藩でも、欧米諸国に対抗するために軍事力強化と人材登用を中心とする**近代化改革**が進められた。幕府は欧米の学問を学ぶ**蕃書調所**や、海軍技術を学ぶ**海軍伝習所**を設置し、そこには諸藩の家臣も招かれた。さらに幕府や薩摩藩、長州藩は海外へ使節や留学生を派遣した。こうして欧米の文明に触れた人物の多くは、明治以降、近代化改革の指導者として活躍した。

63 中学校との関連 新水給与令、尊王攘夷、黒船の来航、日米和親条約、日米通商修好条約、関税自主権、領事裁判権

**歴史の選択肢** 海外対応をめぐる論争

アメリカの開国要求について、幕府が意見を求めると、諸藩からは大きく4種類の意見が提出された。朝廷や天皇は、アメリカとの自由貿易の開始には基本的に反対していたが、日米和親条約の締結についてははしかたがないと許容した。

| 日米和親条約前の1853年 |        |      |       |
|---------------|--------|------|-------|
| 受け入れ          | 拒絶     | 意見なし | 数字は藩数 |
| 許容論 14        | 非戦論 26 | 8    |       |
| 開国論           | 攘夷論    | 意見なし |       |

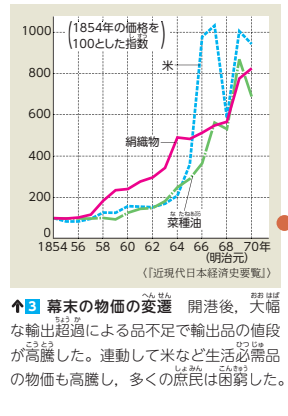
| 日米修好通商条約前の1857年 |        |      |   |
|-----------------|--------|------|---|
| 受け入れ            | 拒絶     | 意見なし |   |
| 4               | 許容論 16 | 4    | 3 |
| 開国論             | 非戦論    | 攘夷論  |   |

**2 諸大名からの意見聴取の結果** 意見なしと回答する藩や、そもそも回答がなかった藩も見られた。

**アメリカの要求を受け入れる論**  
開国論：積極的に外国と交流し、貿易を行うべきだ。  
許容論：アメリカの開国要求を認めざるをえないだろう。

**アメリカの要求を拒絶する論**  
非戦論：開国は拒絶するが、戦争も避けるべきだ。  
攘夷論：戦争となっても外国は追い出すべきだ。

**考えよう** ①四つの論はどのような理由で唱えられたのか、これまでの学習を基に考えよう。  
②意見の傾向は1853年と57年で変わっているが、その理由を考えよう。



AB判の判型を生かした豊富な側注・資料。

**幕府使節のアメリカ視察 海軍造船所の見学(1860年)**

蒸気仕掛けでさまざまな細工をする様子は、目を驚かせるようなすばらしい工程で、華舌に尽くしがたい。…大砲の弾丸が見る間に百個もできる。…この機関を我が国でも用いることができる。…この機関は計り知れないと思われる。  
(村垣鑑正の日記より、現代語訳)

**4 長州藩の留学生** 藩の命を受け、1863年からイギリスに密航留学した5人は、帰国後に長州藩の改革や明治政府の近代化で活躍した。

巻頭4や巻末3の日本の歴史年表と対応。見開きで扱っている「時代インデックス」。

**確認** ペリーが日本へとやって来た理由を、本文から書き出そう。

**説明** ヨーロッパへの対応について、p.61～62の清と日本で、異なっている点とその理由を説明しよう。

学習内容を振り返る「確認」。

習得した知識を用いて考察を深める「説明」。



## 思考力・判断力・表現力を育成する「歴史に迫る！」

●複数の資料を読み解き、なぜ当時の為政者はそのような判断を下したのかなど、当時の状況を踏まえて考察する作業を通じて思考力・判断力・表現力が育成できる。

↓教科書 p.67-68, 本冊子 p.50-51 **試し読み**

幕府の対外交渉について、歴史家たちの相反する評価を示し、思考を促す。

### 歴史に迫る! 2 幕府の対外交渉をどう評価するか



**↑ペリーの神奈川(横浜)上陸**  
1853年、ペリーが軍艦4隻を率いて浦賀沖に現れた。「鎖国」のさなかにあった日本は、この黒船来航をきっかけに、1854年に日米和親条約、1858年に日米修好通商条約を結んで、開国に踏み切った(→p.63)。しかし、この二つの条約には不平等な内容があり、その改正は日本の大きな目標となっていた。

**学習課題** 歴史家たちは、幕府が行った交渉について、主に以下のような評価を下している。あなたはどちらだと考えるだろうか。

**歴史家たちの評価**

|  |   |
|--|---|
| <b>評価 1</b><br>結果的に明治政府はこの不平等条約の改正に苦しんだ。幕府の交渉は失敗である。 | <b>評価 2</b><br>当時の状況下で最大限の努力をし、結果的に日本は植民地化をまぬがれた。交渉は失敗とはいえない。 |
|--|---|

- 手順**
- ①まず「検証 A 幕府側の考え」を検証
  - ②次に「検証 B 日米和親条約の内容」を検証
  - ③「検証 C ハリスとのやり取り」を検証
  - ④「検証 D 日米修好通商条約の内容」を検証
  - ⑤「最終課題」で考えをまとめよう!

#### 検証 A 幕府側の考え

資料① | 水野忠邦が得ていたアヘン戦争情報

清国はアヘンの取り引きを厳禁にしたことにより、イギリス人が不平を抱き、軍艦40隻余りを寧波に向かわせ、戦争を開始。寧波の一部が奪い取られたとこのことを来船者より聞いた。異国のことだが、これは自国の戒めにすべきである。浦賀の防備についての建議が未定になっているが、行き届いていない。

(1841年1月 佐渡奉行への手紙 現代語訳)



**←水野忠邦** 1834～43年まで老中を務め、天保の改革を進める。この発言後、水野は西洋兵学の研究を進め、薪水給与令(→p.63)を公布する。

資料② | 阿部正弘の諸大名への説明

つまりは和戦の二字に帰着した。…近海をはじめ防衛は万全ではない。彼ら(アメリカ)が…来年渡来しても要望の許否は明言せず、なるべく平穩に取り計らうつもりである。しかし彼らが乱暴に及ばないとも限らない。その時になって覚悟が無くては国辱ものになるだろう。…万が一戦いになった場合には、…心力を尽くし忠勤に励むべしとの將軍のおおせである。

(1853年11月1日「幕末外国関係文書之三」現代語訳)



**←阿部正弘** 1843～55年まで老中を務める。水野の対外政策を引き継ぎ、慣例を破って大型船建造の禁止を解く。

**読み解き** 資料①・②を読んで、正しいと思う方に○をしよう。  
**ポイント** 幕府は海外の情報を、(得ていた 得てなかった)。このため、海岸の防備が、(必要と考えた 不要と考えた)。

#### 検証 B 日米和親条約の内容

資料③ | 日米和親条約 (1854年) →ペリー

- 第2条 伊豆の下田、松前の箱館(函館)の両港は、アメリカ船が薪水・食料・石炭など欠乏している品を日本で調達するために限って渡来することを、日本政府は許可する。
- 第3条 アメリカ船が日本沿岸に漂着したときは救助し、漂流民を下田または箱館に護送し、アメリカ人が受け取れるようにする。
- 第9条 日本政府は、現在アメリカ人に許可していないことをほかの外国人に許可するときは、アメリカ人にも同様に許可する。
- 第11条 両国政府は、やむをえない場合には、合衆国の領事を下田に駐留させることがある。もっともそれは条約調印から18か月後でなくてはならない。



(一部要約)

**補足①** 第2条により、下田・箱館(函館)の開港が認められたが、漂流民の保護、薪水・食料・石炭の供給に限定したもので、従来の薪水給与令と変わらなかった。  
**補足②** 第9条は、片務的最恵国待遇の承認であり、欧米諸国では双務的に結ぶことが一般的になっていたことから、不平等な内容となっていた。  
**補足③** 第11条における領事の駐留については、日本語文では双方が、英語文は一方が必要とした場合となっており、結果的に領事が下田に置かれることとなった。

**読み解き** 資料③において問題となる条文はあるだろうか。また評価すべき条文はあるだろうか。

#### 検証 C ハリスとのやり取り

資料④ | アメリカ総領事ハリスの演説 (1857年)

- ①アメリカは日本を親友と思っており、かつ、アメリカは戦争で領土を獲得したことはない。
- ②西洋各国は貿易を盛んに行っており、アメリカの希望は外交官の江戸への駐留と自由貿易である。
- ③アロー戦争が終盤になり、イギリス・フランスの脅威が迫っており、アヘン貿易による害悪も危ぶまれる。
- ④アメリカとの条約があれば、欧州諸国との確執が起こった際、アメリカ大統領が仲立ちをする。



**↑ハリス** アメリカの初代日本駐在総領事。

**積極開国派の意見**  
神奈川・横浜を開港し、欧米諸国からさまざまなことを吸収して、幕府の富国強兵を成し遂げるべき。

**消極開国派の意見**  
「アメリカは非侵略国」と言っているが、風説書によれば事実ではない。また、アヘンを中国に輸出している事実もある。拒絶すれば戦争になるので、当分は穏便な処置で対応すべき。

**読み解き** 資料④を踏まえ、ハリスの演説は幕府にどのような影響を与えたと考えられるだろうか。

#### 検証 D 日米修好通商条約の内容

資料⑤ | 日米修好通商条約 (1858年)

- 第3条 下田・箱館港のほか、神奈川と長崎、新潟、兵庫を開港する。神奈川開港の6か月後に下田は閉鎖する。
- 第4条 日本に対する輸出入の商品には、別記のとおり日本政府へ関税を納めること。…アヘンの輸入は禁止する。
- 第6条 日本人に対して法を犯したアメリカ人は、アメリカ領事裁判所で調べたうえで、アメリカの法律で罰する。アメリカ人に対して法を犯した日本人は、日本の役人が調べたうえで、日本の法律で罰する。
- 第7条 開港場においてアメリカ人の歩ける範囲は…神奈川、六郷川筋を限界とし、そのほかは各方面10里とする。

**補足①** 第4条により、関税自主権を失ったが、1866年の改正までは、日本に有利な税率となっていた。商品別に値段が重さかで税率が定められたが、のちの貿易の急増で、重さによる税率の方が対応しきれなくなった。アヘンの禁止も重要であった。

**補足②** 第6条は領事裁判権についてで、当時の日本の刑罰は欧米に比べてかなり重く、このままでは欧米からの大幅な干渉が予想されたため、幕府側もこの形を望んだ。

**補足③** 第7条で外国人の歩ける範囲を決めたことにより、外国商人が居留地以外での商いができず、日本の国内市場を守ることにもつながった。

**読み解き** 資料⑤において問題となる条文はあるだろうか。また評価すべき条文はあるだろうか。

- 最終課題**
- 質問 1 あなたが資料③・資料④の条約のなかで「評価1の根拠になる」と考える条文はどれか。
- 質問 2 あなたが資料⑤・資料⑥の条約のなかで「評価2の根拠になる」と考える条文はどれか。
- 質問 3 あなたはこの幕府の対外交渉をどう評価するか、学習課題での考えを再検証してみよう。評価1と評価2の根拠となる条文にもそれぞれ触れて、説明してみよう。

条約を読み解くためのヒントとなる「補足」を掲載しているため、読み解くポイントがわかる。

幕府の対外交渉に対する評価の根拠を資料から選び取り、自分なりの評価を下すことで思考力・判断力・表現力が養える。

### 歴史に迫る! ●「歴史に迫る!」一覧 (全5テーマ)

| 教科書ページ    | テーマ                        |
|-----------|----------------------------|
| p.43-44   | フランス革命は人権宣言の理念をどこまで実現できたのか |
| p.67-68   | 幕府の対外交渉をどう評価するか            |
| p.101-104 | 二十一ヶ条要求の何を問題とすべきか          |
| p.139-140 | チェンバレンの政策をどう評価するか          |
| p.179-182 | 黒人差別の克服にはどのような取り組みが必要なのか   |



## 思考力・判断力・表現力を育成する「歴史の選択肢」

●学習している時代に国内外で議論となった歴史上の出来事を取り上げ、当時の人々の意見と選択を考察するコーナー。

↓教科書 p.64, 本冊子 p.49 **試し読み**

**歴史の選択肢** 海外対応をめぐる論争

アメリカの開国要求について、幕府が意見を求めると、諸藩からは大きく4種類の意見が提出された。朝廷や天皇は、アメリカとの自由貿易の開始には基本的に反対していたが、日米和親条約の締結についてははしかたがないと許容した。

| 日米和親条約前の1853年 |        |      |   |
|---------------|--------|------|---|
| 受け入れ          | 拒絶     | 意見なし | 4 |
| 2 許容論 14      | 非戦論 26 | 8    |   |

| 日米修好通商条約前の1857年 |        |      |   |
|-----------------|--------|------|---|
| 受け入れ            | 拒絶     | 意見なし | 7 |
| 4               | 許容論 16 | 4 3  |   |

↑2 諸大名からの意見聴取の結果、意見なしと回答する藩や、そもそも回答がなかった藩も見られた。

**アメリカの要求を受け入れる論**  
開国論：積極的に外国と交流し、貿易を行うべきだ。  
許容論：アメリカの開国要求を認めざるをえないだろう。

**アメリカの要求を拒絶する論**  
非戦論：開国は拒絶するが、戦争も避けるべきだ。  
攘夷論：戦争となっても外国は追い出すべきだ。

**考えよう** ①四つの論はどのような理由で唱えられたのか、これまでの学習を基に考えよう。  
②意見の傾向は1853年と57年で変わっているが、その理由を考えよう。

開国にあたって唱えられた4つの論調の理由と、2つの条約についての意見の変化の理由を考察できる。

↓教科書 p.128, 本冊子 p.67 **試し読み**

**歴史の選択肢** 中国大陸進出に対する日本国内の反応

1920年代までは、満洲を中国の一部だと認める新聞紙が多かったが、満洲事変発生後、ほぼ全紙が日本の軍事行動を自衛だと擁護し、満洲の独立を認める論調になった。国民の多くも同調したため、幣原外相(→p.110)は事変不拡大の方針を維持できなくなった。事変を批判したのは、吉野作造(→p.117)、石橋湛山(→p.104)らごく少数であった。

**陸軍少佐が地方の農民に向けて行った演説(1930年ごろ)**  
諸君は五反歩の土地をもって、息子を中学にやれるか、娘を女学校に通わせられるか。ダメだろう。…他人のものを失敬するのは褒めたことではないけれども、生きるか死ぬかという時には背に腹はかえられないから、あの満蒙の沃野を頂戴しようではないか。  
\*約0.5ヘクタール (加藤陽子「満洲事変から日中戦争へ」)

**満洲事変に対する石橋湛山の意見(1931年9月26日)**  
この問題の解決が困難なのは、つまり満蒙が中国の領土であるからだ。…中国人が、彼らの領土と信じる満蒙に、日本の主権の拡張を嫌うのは理屈ではなく、感情である。…いくら善政を敷かれても、日本国民は、日本国民以外の者の支配を受けることを快いと感じないように、中国国民にもまた同様の感情があることを許さねばならぬ。

**考えよう** なぜ、日本国民は中国大陸への進出を支持したのか考えよう。

満洲に対する2つの意見を比較して、なぜ多くの国民は中国大陸進出に同調したのかを考察できる。

### 「歴史の選択肢」一覧 (全8テーマ)

| 教科書ページ | テーマ                                  |
|--------|--------------------------------------|
| p.64   | 海外対応をめぐる論争                           |
| p.78   | 日露戦争に関するさまざまな意見                      |
| p.124  | 世界革命論か一国社会主義論か                       |
| p.128  | 中国大陸進出に対する日本国内の反応                    |
| p.150  | 全面講和と多数講和                            |
| p.160  | 核戦争への恐怖 米ソの指導者たちの決断                  |
| p.162  | 旧安保条約の課題と改定をめぐる闘争                    |
| p.174  | 沖縄の本土復帰は達成したかー沖縄の基地問題から「沖縄の本土復帰」を考える |

## 資料の収集・整理・分析の技能が習得できる「技能を磨く」

●資料を読み解く手法や情報の集め方・まとめ方などを解説。探究活動や探究科目の基礎になる。

↓教科書 p.7, 本冊子 p.34 **試し読み**

**技能を磨く①** 資料の特質と読み解き

過去を知るための資料にはさまざまなものがあるが、資料にはそれぞれ特質があり、読み取れることや、読み取る際に注意すべき点に違いがある。それぞれの特質に注意しながら、資料を活用していこう。

● **図像資料**

**絵画** 絵画は、その絵画の制作者の考えだけでなく、依頼者の考えが反映されることがある。事実に忠実に描かれているように見えても、事実に反することが描かれていることもある。

**↑1 ナポレオンを描いた二つの絵画** (左:ダヴィッド作「サンベルナル峠でアルプスを越える第一統領」マルメゾン博物館蔵 1800年 縦261cm×横221cm、右:ドラロッシュ作「アルプスを越えるボナパルト」ルーヴル美術館蔵 1848~50年 縦289cm×横222cm)

**読み解き** 二つの絵が描かれた時代はどのような時代だったのか、時代背景の違いから、この絵の意図を考えてみよう(→p.35~38)。

①人物のイメージに注目  
二つの絵は、ナポレオン(→p.37)という人物をどのような人物として描こうとしているか、という点で表現が異なっている。

②作者や依頼者に注目  
左の絵は、ナポレオンの支持者であったスペイン王が依頼した作品であり、右の絵は、ナポレオンの死後にアメリカ人とイギリス人が依頼した作品である。

**絵画の読み解きにおいて注目すべきポイントを示しているので、資料を読み解く手法が具体的にわかる。**

**風刺画・ポスター**  
風刺画は人物や事件などを誇張してユーモラスに描かれた絵であり、ポスターは見る者に対して、意見を訴えるために作られたものである。このため、この二つは必ずしも事実を正確に伝えているわけではないが、制作者の考えが明確になるため、当時の社会を知るうえで重要な資料になる。

**写真**  
写真は実際の光景をそのまま映し出すため、正確に事実を伝えるように見える。しかし、撮影者の意図により、写したいものだけ写すことが可能であり、また、あとから加工されることもある。

**↑2 明治時代の欧化政策に関する風刺画(ビゴール作)** **読み解き** この風刺画は、当時の日本の社会をどのように風刺しているだろうか。

**←3 太平洋戦争(→p.186)でビルマの油田を攻撃した日本兵** **読み解き** 真の兵士たちは、勇戦勇死、どちらに見えるか。見た人は戦争にどのような印象を持っていたか。

**技能を磨く**

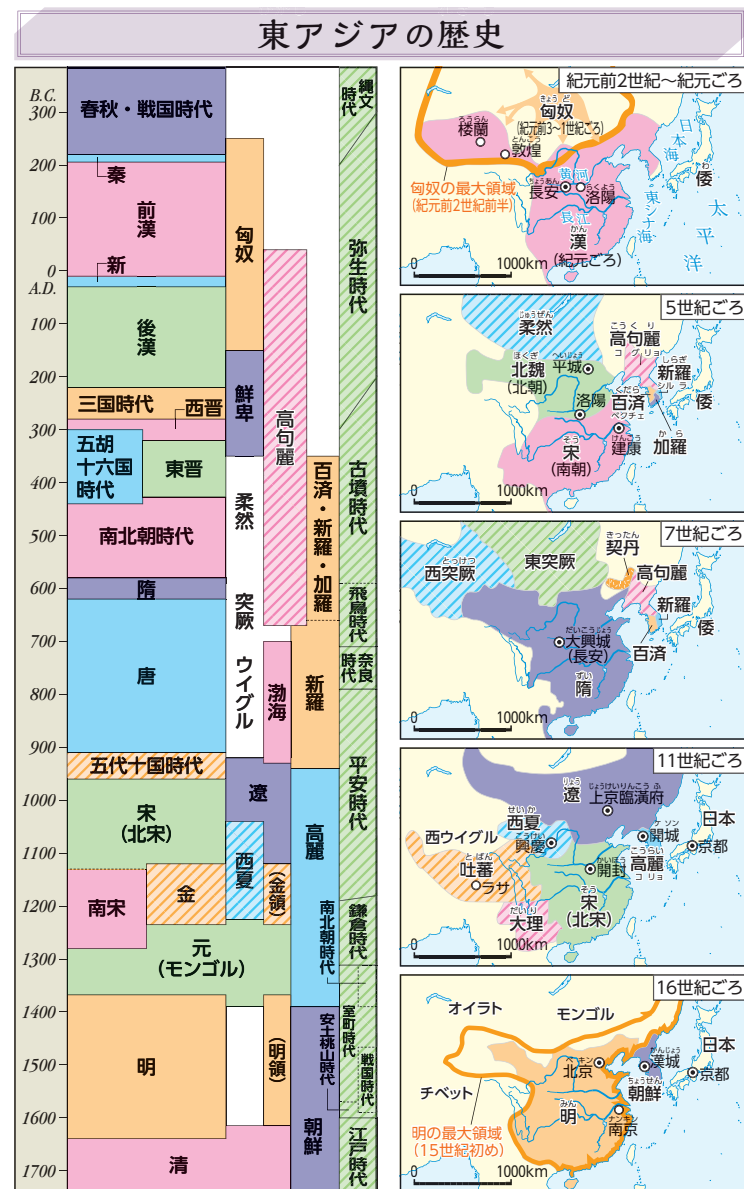
●「技能を磨く」一覧 (全5テーマ)

| 教科書ページ | テーマ             |
|--------|-----------------|
| p.7-8  | 資料の特質と読み解き      |
| p.9    | 資料の比較・関連付け      |
| p.85   | 情報の集め方          |
| p.86   | 情報のまとめ方 意見交換の方法 |
| p.198  | レポートや小論文の書き方    |



## 地域の歩み 1 東アジアの文明

### 1 東アジアの風土と人々



東アジアとはどのような地域なのか、風土や文化の面から理解できる。

### 中国の文化を共有する世界 —東アジアの風土と人々

東アジアは、ユーラシア大陸東部の中国を中心として、朝鮮半島や、日本列島などからなる。その北部の砂漠・草原地帯では遊牧が、東北部の森林地帯では狩猟が営まれ、黄河流域と中国東部の平原地帯では畑作が中心となり、あわやきびなどの雑穀が栽培される。一方、長江流域やそれより南、日本・朝鮮半島南部などは、季節によって風向きが変化するモンスーン(季節風)の影響を受ける温暖・湿潤の地域で、水田稲作が発達した。殷で生まれた文字を源流とする漢字、漢代に大きく成長を遂げた儒教、内陸アジアを通じて伝来し中国化した仏教、法制度の律令制などといった中国文化は、やがて東アジア諸地域や、ベトナム北部にも波及して、共通の文化要素を持つ東アジア文化圏を形成することになった。

#### 儒教

**創始者** 孔子(前551?～前479)  
 中国の春秋時代に生きた孔子は、家族への愛情を基礎として、その家族道徳を国家まで広げる思想を説いた。弟子により孔子の教えや行動は『論語』としてまとめられ、その教えは発展した(儒家)。漢代には官僚が学ばべき教えに定められ、民衆にもその考えが広まった。後に東アジア諸国にも広まり、影響を与えた。

**史料** 論語(為政第二三)  
 孔子は言った。人々を導く際に法律や制度のみを用いて、統制のため刑罰ばかりを行えば、人々はその抜け道を恥もなく探すだろう。徳(思いやり、愛情)をもって人々を導き、礼(敬意、礼儀)をもって統制すれば、人々は恥を知り、みずから身を正すだろう。

↓1 水田を耕す農耕民(中国南部)



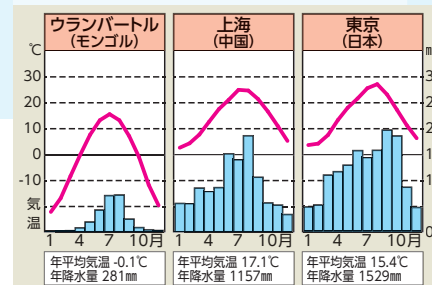
↓2 草原地帯の遊牧民(モンゴル)



地図と写真、雨温図で東アジアの地形や気候の様子を確認できる。



↓4 ウランバートル ↓5 上海 ↓6 東京



川によるさまざまな地域名  
 江は長江のことで、江南はその下流域の南側の地を指す。ほかにも、黄河の南北を指す河南・河北や、淮河(淮水)の南北を示す淮南・淮北などがある。



←7 孔子廟(中国) 儒教の祖である孔子をまつる孔子廟は、中国はもとより世界各地に建てられている。写真は孔子旧宅に建てられた最初の孔子廟で、歴代の中国皇帝によって代々保護された。



←8 仏国寺(韓国) 新羅が朝鮮半島を統一した後、751年に建てられた仏教寺院。寺院の木造部分は、豊臣秀吉による朝鮮侵攻の際に焼失し、現在では石造部分のみが当時の姿を残している。



↓9 法隆寺(日本) 607年に聖徳太子(厩戸王)が建立したと伝えられる仏教寺院。金堂(左)と五重塔(右)は、現存する世界最古の木造建築として有名である。



## 2 日本の歴史

ワ 獲  
カ 加  
タ 多  
ケ 支  
ル 鹵  
大 王



↑2 日本最古の仏像 609年の作。仏教は6世紀半ばに伝来し、8世紀に聖武天皇により全国へ広まった。(奈良県 飛鳥寺)



ポイントを押さえた写真・年表で前近代史をダイジェストで把握できる。



↑5 元軍と戦う武士 この時、防衛に当たった武士に、鎌倉幕府が恩賞の領地を十分に与えられなかったことが、幕府滅亡の遠因となった。



↑6 長篠の戦い 1575年の、織田・徳川連合軍と武田軍の戦い。強力な武田の騎馬隊に対して、信長は西洋由来の新兵器である鉄砲を使い、勝利した。(「長篠合戦図屏風」徳川美術館蔵)



↑7 ポルトガル人の地図に記された石見銀山 17世紀半ば、日本は世界の銀の3分の1を産出したといわれ、多くは中国に輸出された。主要な銀山であった石見の名前は、ヨーロッパにまで広まった。



↑8 江戸城 江戸幕府の代々の将軍が暮らした。左下には朝鮮通信使(→p.22)が描かれている。天守は1657年に焼失し、その後は再建されなかった。(「江戸図屏風」(部分) 国立歴史民俗博物館蔵)

←1 稲荷山古墳出土の鉄剣 5世紀後半の鉄剣。ヤマト王権の王ワカタケルの名が刻まれる。同様のものは九州でも見つかり、ヤマト王権の勢力の広がりがうかがえる。(国宝 埼玉県行田市 文化庁所有 埼玉県立さきたま史跡の博物館提供)



↑3 遣唐使船(復元) 唐や朝鮮の物品・文化のみならず、シルクロード(→資料2)をたどってきたインド・アジアの品々ももたらされた。

| 縄文時代             | 弥生時代                  | 古墳時代                | 飛鳥時代           | 奈良時代        | 平安時代          | 鎌倉時代           | 南北朝時代                   | 室町時代                   | 戦国時代                 | 安土桃山時代                 | 江戸時代                |
|------------------|-----------------------|---------------------|----------------|-------------|---------------|----------------|-------------------------|------------------------|----------------------|------------------------|---------------------|
| 0                | 0                     | 500                 | 500            | 750         | 1000          | 1200           | 1400                    | 1400                   | 1600                 | 1600                   | 1600                |
| ○ 稲作が伝わる         | 239 邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る  | ○ ヤマト王権による統一が進む     | 593 聖徳太子摂政となる  | 645 大化の改新   | 710 平城京遷都     | 794 平安京遷都      | 1192 源頼朝、征夷大将軍になる(鎌倉幕府) | 1333 鎌倉幕府の滅亡           | 1467 応仁の乱(～77) 盛んになる | 1603 徳川家康、征夷大将軍に(江戸幕府) | 1635 武家諸法度、参勤交代の制度化 |
| ○ 各地にクニが出来る      | 57 倭奴国王が後漢に朝貢し、金印を授かる | ○ 古墳が造られ始める         | 538(552?) 仏教伝来 | 701 大宝律令定まる | ○ 藤原氏の摂関政治始まる | 1086 白河上皇院政を開始 | 1180 源氏・平氏の争乱(～85)      | 1338 足利尊氏、征夷大将軍に(室町幕府) | 1543 鉄砲伝来            | 1592, 97 豊臣秀吉の朝鮮侵攻     | ○ 江戸幕府、貿易制限を進める     |
| ※年表内の赤字は、国や政權を示す |                       | ○ 中国・朝鮮の文化が伝来(漢字など) | 630 遣唐使の派遣始まる  | 894 遣唐使の停止  | ○ 武士の登場       | ○ かな文字の使用      | 1274, 81 蒙古襲来(元寇)       | 1378 足利義満、室町に幕府移転      | 1549 ザビエルによりキリスト教伝来  | ○ 朱印船貿易盛ん              |                     |

中学校で学んだ日本の前近代史を復習できる。

### ◆ 日本の始まりと大陸との交流

日本列島では、3世紀後半、近畿地方の豪族を中心にヤマト王権が成立した。ヤマト王権は、中国への朝貢(→資料5)や、大陸から知識人の受け入れを行い、進んだ技術や制度、漢字や仏教などの文化を取り入れ発展した。8世紀初めにヤマト王権は、唐を模した律令国家体制を確立し、貴族に唐風の国際的な文化が広がった。そして、8世紀末に平安京(現在の京都)が都とされ、以降1000年以上天皇の御所が置かれた。9世紀に唐が衰退したため遣唐使は停止したが、大陸との交流が続くなかで、独自の価値観を見いだそうとする国風文化が生まれた。

### ◆ 武家政権・鎌倉幕府の成立

9～10世紀に現れた武士は、武士団を作って成長し、天皇や貴族の権力争いに関わって政治的な力も付けていった。12世紀後半、二大武士団である源氏と平氏の争いを源氏が制し、天皇・貴族の権力を利用して武家政権の鎌倉幕府を成立させた。政治の中心は天皇・貴族から武士へ移っていった。13世紀の末には、モンゴルによる中国王朝の元が2度にわたって博多に襲来したが、幕府はこれを退けた(蒙古襲来)。鎌倉幕府の時代、日本は中国王朝との正式な国交は持たなかったが、両国の民間商人の間では盛んに交易が行われた。

### ◆ 室町幕府と日明貿易

14世紀半ば、鎌倉幕府は滅ぼされ、足利氏による武家政権の室町幕府が開かれた。3代将軍義満は、海禁政策(→資料6)を採る中国の明と交易を行うため冊封を受けることを選び、15世紀初めに朝貢形式の日明貿易を開始した。このころ東アジアから東南アジアの海域では明を中心とする交易網が広がっており、室町幕府もその一角として15世紀を通して積極的な交易を行った。この時期、琉球王国も、明・日本・朝鮮・東南アジアを結ぶ中継貿易の地として繁栄した。また、蝦夷地のアイヌの人々と日本列島の人々の間でも交易が行われた。

### ◆ 西洋との出会いと全国統一の完成

15世紀半ばの応仁の乱のころから、各地の戦国大名がそれぞれの地域を治める戦国時代となった。一方、大航海時代(→資料19)が始まりヨーロッパ商人が日本に到来すると、戦国大名は彼らとの貿易を行った(南蛮貿易)。鉄砲などさまざまな西洋の文物が日本に伝わり、キリスト教も九州を中心に広がった。16世紀半ば、戦国大名の織田信長は全国統一に乗り出し、それを継いだ豊臣秀吉が統一を完成させた。やがて秀吉の死後に台頭した徳川家康が、豊臣勢力に勝利し、1603年に全国統一政権の江戸幕府を開いた。こうして江戸時代が始まった。



### 3 東アジアの歴史

東アジアの対外関係の理解に必要な冊封関係のしくみを押さえられる。

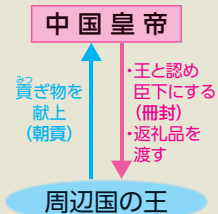
世界遺産

↑1 兵馬俑坑 中国を初めて統一した秦の始皇帝の陵墓付近には、大量の俑(土製の副葬品)が埋められた。兵士の俑は、高さ約180cmで、総数は約6000体である。

#### 朝貢と冊封関係

漢以降の多くの中国王朝は、貢ぎ物を持参(朝貢)した周辺諸国の支配者に対し、相手をその国の支配者と認めたとす、名目上中国皇帝の臣下とした(冊封)。これにより、東・東南アジアには中国を頂点とする独自の国際秩序が形成された。これを冊封関係という。

また、中国王朝は、朝貢に対し、貢ぎ物の数倍の返礼品を与えたため、このやりとりを朝貢貿易ともいう。



#### →2 冊封関係のしくみ

←3 『清明上河図』 宋(北宋)の都、開封のにぎわいを描いた絵巻物である。(故宮博物院蔵)



↑4 宋代の科挙 宋(北宋)以降、科挙は原則誰でも受験できるようになり、宰相になることも可能であった。これは皇帝みずから行う最終試験の様子である。



↑5 モンゴル帝国の軍団 馬と弓を自在に操る遊牧民の軍団は、銃の発明以前の戦争において非常に強力であった。

→6 万里の長城 現存する長城は、そのほとんどが明によって修復されたものである。



世界遺産



↑7 明軍と倭寇 倭寇は中国沿岸などで略奪・私貿易を行う集団で、14世紀は日本人が、16世紀は中国人が主体であった。

→8 北京の紫禁城 明の皇帝の宮殿である紫禁城は、清(→p.25)の時代も皇帝の居所とされた。現在は故宮博物院となっている。



世界遺産

B 東アジア

| 前2000                       | 前1000        | ←B.C. 0 A.D.→           | 500                        | 1000            | 1200                 | 1400                 | 1600                             |                      |                          |                                    |                      |                      |                   |                       |                         |                        |                           |                                    |                               |                    |                        |                                     |                   |                         |                        |                                |                          |                          |
|-----------------------------|--------------|-------------------------|----------------------------|-----------------|----------------------|----------------------|----------------------------------|----------------------|--------------------------|------------------------------------|----------------------|----------------------|-------------------|-----------------------|-------------------------|------------------------|---------------------------|------------------------------------|-------------------------------|--------------------|------------------------|-------------------------------------|-------------------|-------------------------|------------------------|--------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 前6000ごろ<br>黄河流域で<br>農耕が行われる | 前17世紀<br>殷成立 | 前11世紀<br>周成立<br>(~前256) | 前770<br>春秋・戦国時代<br>(~前221) | 前221<br>秦が中国を統一 | 前202<br>前漢成立<br>(~8) | 25<br>後漢成立<br>(~220) | 220<br>三国時代<br>(魏・呉・蜀)<br>(~280) | 25<br>後漢成立<br>(~220) | 304<br>五胡十六国時代<br>(~439) | 439<br>北魏が華北を統一<br>南北朝時代<br>(~589) | 581<br>隋成立<br>(~618) | 618<br>唐成立<br>(~907) | 676<br>新羅、朝鮮半島を統一 | 755<br>安史の乱<br>(~763) | 907<br>五代十国時代<br>(~979) | 918<br>高麗成立<br>(~1392) | 960<br>宋(北宋)成立<br>(~1127) | 1127<br>金、華北を支配<br>南宋成立<br>(~1276) | 1206<br>チンギス=ハン即位<br>モンゴル帝国成立 | 1264<br>フビライ、大都に遷都 | 1271<br>元成立<br>(~1368) | 1274, 81<br>フビライの日本遠征<br>(蒙古襲来, 元寇) | 1276<br>元, 南宋を滅ぼす | 1292<br>朝鮮成立<br>(~1910) | 1368<br>明成立<br>(~1644) | 1405<br>鄭和の南海遠征<br>明への朝貢が盛んになる | 1457<br>ポルトガル人、マカオの居住権獲得 | 1644<br>明の滅亡<br>清の中国支配進む |

中国を中心とした前近代の東アジアの歴史を概観できる。

#### ◆中国文明の始まりと統一国家の誕生

ユーラシア大陸東部では、前6000年ごろまでに黄河と長江流域で農耕が始まり、やがて都市国家が生まれた。前8世紀から戦乱の時代となり、混乱のなかさまざま思想が生まれ、その一つが後の儒教(→資料1)となった。前3世紀に初の統一王朝である秦が誕生し、その王は皇帝と名乗った。続く漢は、冊封と朝貢を開始し、東アジアの国際秩序の原型を作った。

一方、北アジアは遊牧民が住む地であり、中国王朝にとって、たびたび侵襲してくる遊牧民への対処が課題であった。秦は長城を築いて対処し、続く王朝でもこれが活用された。

#### ◆東アジアの大王朝の繁栄

3~6世紀の中国は分裂の時代となった。このころ仏教(→資料8)が東アジアに広がり、中国で道教も成立した。6世紀末に中国を統一した隋は、多くの優れた国家制度を整備し、儒教の試験で官僚登用を行う科挙制度を始めた。続く唐は、300年続く大王朝となり、都の長安には世界各地の人々が集まった。隋の制度を受け継ぎ、律(刑法)・令(行政法)を体系化した唐の制度は、東アジア諸国に大きな影響を与えた。

朝鮮半島では、7世紀に新羅が統一を達成した。その後、10世紀に成立した高麗は、唐の制度に基づき律令を制定した。

#### ◆モンゴル帝国の登場と拡大

唐のあとには宋が続き、10世紀後半に宋が中国を統一した。宋は文官を重視し、積極的に科挙を行った。宋の時代には、経済が発展し都市文化が発達した。一方で軍力は弱体化し、12世紀には遊牧民に領土の北側を奪われた。

13世紀、モンゴルの指導者チンギス=ハンが登場し、周辺諸国へ侵襲して、ユーラシア大陸東西に広がるモンゴル帝国が築かれた。第5代フビライは国号を元と改め、宋(南宋)を滅ぼした。これにより元は、初の遊牧民による中国統一王朝となり、日本やベトナムを除く東アジアのほぼ全域を支配した。

#### ◆明の興隆と東アジア

14世紀には漢人王朝の明が建ち、元を北方に追いやった。明は、儒教を重んじ、皇帝独裁による国内統治を行った。モンゴルとの対立は続き、明は万里の長城の修復によりこれに対抗した。また、明は、倭寇への対処のため、貿易を冊封した国との朝貢貿易に限定し、民間の自由な海上貿易を禁止する海禁を実施した。そのため、琉球王国やマラッカ王国は、朝貢貿易で得た物資で他国と交易する中継貿易を行い、繁栄した。

朝鮮半島では、14世紀末、高麗の後に朝鮮が成立し、15世紀には独自の文字の訓民正音(ハングル)が制定された。



## 技能を磨く① 資料の特質と読み解き

過去を知るための資料にはさまざまなものがあるが、資料にはそれぞれ特質があり、読み取れることや、読み取る際に注意すべき点に違いがある。それぞれの特質に注意しながら、資料を活用していこう。

### ● 画像資料

資料の種類ごとに特質を読み解く際の注意点がわかる。

**絵画** 絵画は、その絵画の制作者の考えだけでなく、依頼者の考えが反映されることがある。事実に忠実に描かれているように見えても、事実に反することが描かれていることもある。



↑1 ナポレオンを描いた二つの絵画(左 ダヴィド作「サンベルナール峠でアルプスを越える第一統領」マルメゾン博物館蔵 1800年 縦261cm×横221cm、右 ドラロッシュ作「アルプスを越えるボナパルト」ルーヴル美術館蔵 1848～50年 縦289cm×横222cm)



読み解き 二つの絵が描かれた時代はどのような時代だったのか、時代背景の違いから、この絵の意図を考えてみよう(→p.35～38)。

#### ①人物のイメージに注目

二つの絵は、ナポレオン(→p.37)という人物をどのような人物として描こうとしているか、という点で表現が異なっている。

#### ②作者や依頼者に注目

左の絵は、ナポレオンの支持者であったスペイン王が依頼した作品であり、右の絵は、ナポレオンの死後にアメリカ人とイギリス人が依頼した作品である。

### 風刺画・ポスター

風刺画は人物や事件などを誇張してユーモラスに描かれた絵であり、ポスターは見る者に対して、意見を訴えるために作られたものである。このため、この二つは必ずしも事実を正確に伝えているわけではないが、制作者の考えが明確に出るため、当時の社会を知るうえで重要な資料になる。



→2 明治時代の欧化政策に関する風刺画(ビゴー作) 読み解き この風刺画は、当時の日本の社会をどのように風刺しているだろうか。

### 写真

写真は実際の光景をそのまま映し出すため、正確に事実を伝えていられるように見える。しかし、撮影者の意図により、写したいものだけ写すことが可能であり、また、あとから加工されることもある。



←3 太平洋戦争(→p.132)でビルマの油田を攻撃する日本兵 読み解き この写真の兵士たちは、勇敢と臆病、どちらに見えるだろうか。見た人は戦争についてどのような印象を持つだろうか。

### ● 文書資料(史料)

個人的に書かれた文書 例：日記、手紙、はがき

#### ①書き手と受け取り手に注目

この文章を書いた人物は、第16代アメリカ合衆国大統領、リンカン(→p.51)である。受け取り手のグリーリーは有名な新聞の編集者である。

#### ②書き手の考えが出ている部分に注目

リンカンが奴隷解放令を出す前に、どのような考えがあったかがわかる文章になっている。

#### 史料] リンカンの手紙 (1862年8月22日)

ホレス=グリーリー殿

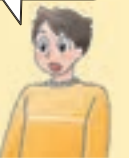
…この戦争における私の至高の目的は連邦を救うことであり、奴隷制度を救うことでも破壊することでもありません。もし私が、一人の奴隷も解放することなく連邦を救えるならば、私はそうするでしょう。また私が、すべての奴隷を解放することによって連邦を救えるならば、そうするでしょう。…私が奴隷制度と黒人のために行うことは、連邦を救うのに役立つからそうするのであり、私が行わないことは、それが連邦を救うことに役立つとは思えないから行わないのです。(中條献訳)

個人的に書かれた文書は、書いた人物の経験や考えがそこに表れることが多い。ただし、手紙やはがきの場合、それを受け取る人物によって、書き手の文章が変わることがあることに注意が必要である。日記も読まれることを意識しているかどうかで、書き方が変わることもある。

#### ③時期や年代に注目

この文章が書かれた1862年はちょうど南北戦争の最中。リンカンは翌63年に奴隷解放宣言を行う。

知っていることと少し違うね。



読み解き 受け取り手であるホレス=グリーリーが、どのような人物かで、書かれている意味は変わるだろうか。例えば、グリーリーがリンカンの親友だったらどうだろうか。また、グリーリーが奴隷解放反対の人物だったらどうだろうか。

実際の文書資料(史料)を使って、読み解くための具体的なポイントを示しており、資料の見方がわかる。

多数に向けて書かれた文書 例：憲法・法令、条約、外交文書、新聞記事、雑誌記事、演説、役所の書類

憲法や法令などの文章は、あるべき姿を示したものとなっている。逆をいえば、現状がそうでないから出されることが多い。ただし、慣例となっていたことを文章化して明確に示したという場合もある。

新聞記事や演説などは、読み手や聞き手に対して主張を伝えるものになっており、当時の人々の考えが分かる資料になっている。ただし、主張に合わない事実や内容はあまり触れられないという側面もある。

役所の書類は、活動の記録であり、あまり書き手の考えが盛り込まれない傾向にある。

#### ①時期や年代に注目

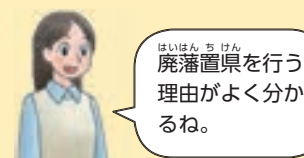
これは廃藩置県(→p.71)を行う際に出された明治天皇の意思を示した文章である。

#### ②書き手の考えが出ている部分に注目

ここでは、当時の状況と問題点、廃藩置県を行う理由が明確に示されている。

#### 史料] 廃藩置県の詔 (1871(明治4)年7月14日公布)

朕(私)は以前に諸藩からの版籍奉還の申し出を受け入れ、新たに知藩事を任命し、各人をその職に就かせた。しかし、数百年も古いしきたりが続いたこともあり、名目だけで実態が伴わない者もいた。…よって今、さらに藩を廃して県を置くこととする。これは余計なことを省いて簡略化することであり、有名無実の弊害を取り除き、政令が多方面から出されるような問題をなくそうとするものである。汝ら(あなたたち)群臣はその朕の意思を体現するように努めなさい。(『太政官日誌』現代語訳)



読み解き この詔に書かれた「群臣」とは、具体的にはどのような人々を指しているだろうか(→p.71～72)。

読み解き この詔に書かれた「群臣」とは、具体的にはどのような人々を指しているだろうか(→p.71～72)。



## 2部 近代化と私たち

### 序章 近代化への問い

#### ◆ 19世紀の世界 ～これから学ぶ時代を眺めてみよう！～

19世紀になると、欧米諸国で近代化が進み、イギリスを先頭に対外進出が進んだ。アメリカも、19世紀末に帝国主義国の一員となり対外進出を始めた。この結果、アジア・アフリカや太平洋地域の島々までもが欧米諸国を頂点とする世界市場・世界的分業体制に組み込ま

同時代の世界と日本の動きが確認できる年表と世界地図を、部の冒頭に掲載。

れ、世界が一体化する地球社会が始まった。そのなかで19世紀のアジアは、植民地支配を拡大する欧米諸国とそれに抵抗する諸国・諸民族とがせめぎあう場となった。インドや中国などで欧米の支配が進む一方、日本の明治維新など、自らの手で近代化を進める動きも始まった。



| 年       | 1800     | 20           | 40        | 60       | 80   | 1900    |
|---------|----------|--------------|-----------|----------|------|---------|
| 日本      | 江戸時代     |              | 開国        | 戊辰戦争     | 明治時代 | 大日本帝国憲法 |
| 東アジア    | 清        |              | アヘン戦争     | アロー戦争    | 日清戦争 | 日露戦争    |
| 南・東南アジア | ムガル帝国    |              | インド大反乱    | 英領インド帝国  | 清仏戦争 | 中華民国    |
| 西アジア    | オスマン帝国   |              | タンジマート    | モロハト憲法   |      | 辛亥革命    |
| ヨーロッパ   | フランス革命   | ナポレオン戦争      | ウィーン体制    | クリミア戦争   | 露土戦争 | 普仏戦争    |
| 南北アメリカ  | アメリカ独立戦争 | ラテンアメリカ諸国の独立 | イギリスの産業革命 | 1848年の革命 | 南北戦争 | 第2次産業革命 |
| アフリカ    |          |              | ゴールドラッシュ  | 南北戦争     |      | アフリカ分割  |





## 2部の導入 「近代化」について考察していこう!

キーワード 交通と貿易



(マスプロ美術館蔵)

↑1 日本橋方面から望む銀座のれんが通り (19世紀後半) 考察 江戸時代の様子(→p.1)と比較して、人々の生活はどのように変化したのか、交通・建築・服装などに注目して考えよう。

キーワードに関連した資料を掲載。下の年表のどこにあてはまるかを考えて、「やってみよう」で作業しながら時代を概観できる。



↑2 寺子屋の様子 考察 江戸時代の教育と明治時代以降の学校教育では、どのような違いがあるか、考えよう。

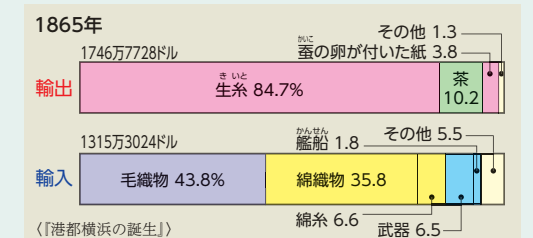


↑4 開港後の横浜の様子 考察 開国後の外国との交流により、日本の貿易や交通はどのように変化していったのか、考えよう。

→3 工場制手工業 考察 近代化する前の日本では、大量の製品を作るためにどのようなしくみを取り入れていたのか、考えよう。



(国立公文書館蔵)



↑5 横浜港からの輸出入品

### やってみよう

図1~18の資料は、年表のどの時代の資料になるだろうか。年表上の( )の中に番号を入れてみよう。

|    |               | 江戸時代        |      |                    |      |             |  |              |  |
|----|---------------|-------------|------|--------------------|------|-------------|--|--------------|--|
|    |               | 1800        | 1810 | 1820               | 1830 | 1840        |  |              |  |
| 日本 | 1792 ラクスマン来航  |             |      |                    |      |             |  |              |  |
|    | 1804 レザノフ来航   |             |      |                    |      |             |  |              |  |
|    |               | 寺子屋の開設盛ん( ) |      | 工場制手工業の生産広まる( )    |      | 1825 異国船打払令 |  | 1837 大塩平八郎の乱 |  |
| 世界 | 1789 フランス革命開始 |             |      |                    |      |             |  |              |  |
|    | 1804 ナポレオン皇帝に |             |      |                    |      |             |  |              |  |
|    |               |             |      | 1825 イギリスで世界初の鉄道開通 |      |             |  | 1842 新水給与令   |  |
|    |               |             |      |                    |      |             |  | 1840 アヘン戦争   |  |

### 歴史ウォーミングアップ①

## 中学校の学習を踏まえつつ 6つのキーワードを基に歴史学習を始めよう!

これから「近代化」に関する学習が始まります。p.15~18の導入では右に書かれた6つのキーワードとそれに関する資料を掲載しています。これらのキーワードに関する資料と、「近代化」には、どのような関係があるのか、資料を見ながら考えよう。

また、このページは、中学校で学習した歴史事項を振り返ることもできます。この6つのキーワードが中学校で学習した事項の何と関連しているか、確認しながら読み進めよう。

- キーワード① 交通と貿易 ..... 1, 4, 6
- キーワード② 産業と人口 ..... 12
- キーワード③ 権利意識と政治参加や国民の義務 ..... 8, 9
- キーワード④ 学校教育 ..... 7
- キーワード⑤ 労働と家族 ..... p.19
- キーワード⑥ 移民 ..... 13

「近代化」の学習のポイントとなる6つのキーワードを提示。問いの設定につながり、中学校の復習もできる。

### 江戸幕府による支配(→p.21~24)

江戸時代、幕藩体制と貿易統制の下、社会は安定し、身分に基づく社会が定着していた。五街道や水上航路などの交通網が整備されたことで、産物が各地に行き渡るようになり、商業も栄えた。また、武士から庶民まで教育が盛んで、高い識字率を誇っていた。こうした繁栄のなか、日本独自の文化が発達することとなった。

### 欧米諸国における「近代化」(→p.33~54)

欧米諸国では、フランス革命に代表される市民革命と、イギリスに始まる産業革命をきっかけとして、自由・平等の考えの下に人々を「国民」として一つにまとめる近代

国家の建設が進められた。工業が発達した欧米諸国は、安い原料の入手先と市場を求めて世界各地に進出し、アジアやアフリカに植民地を拡大していった。

### 開国と幕府の終わり(→p.61~66)

日本では、たび重なる欧米船の来航や、アヘン戦争での清の敗北の情報を得て、欧米諸国との在り方が問われるようになった。そうしたなか、アメリカのペリーが日本へ来航した。幕府は開国を決断し、欧米諸国と自由貿易に関する条約を結んだ。しかし、貿易が始まると、安い外国製品が国内に流入し、生糸などの国内製品は海外に流出して、日本の経済は大混乱に陥った。



# 2部序章 近代化への問い

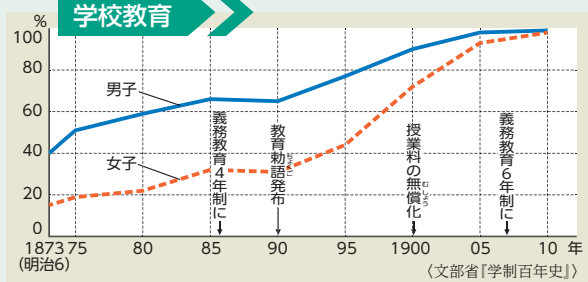
### 交通と貿易



←6 イギリスから輸入された日本初の蒸気機関車

考察 日本では、どのような所を結ぶために鉄道が建設されたのか、考えよう。  
(埼玉県 鉄道博物館蔵)

### 学校教育



↑7 就学率の変化 考察 なぜ明治政府は学制を導入したのだろうか。また導入したことによって、人々にどのような変化があったのか、考えよう。

### 権利意識と政治参加や国民の義務



### 権利意識と政治参加や国民の義務



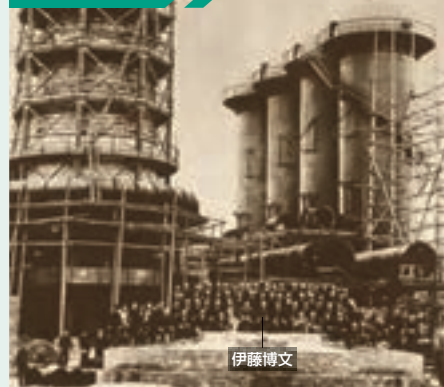
←8 自由民権運動の演説会と↑9 明治時代の選挙の様子 考察 自由民権運動を経て、議会が出来たことで、人々の声は政治に届くようになったのか、考えよう。



↑10 日清戦争(1894年)の風刺画(左)と↑11 日露戦争(1904年)の風刺画(右) (ビゴ一作)

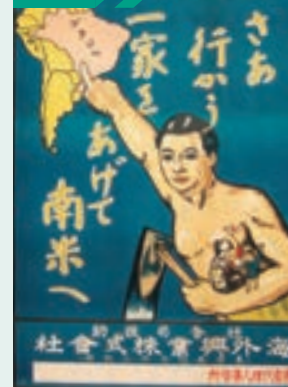
考察 風刺画は、日本を取り巻くどのような関係を表現しているのか、また、日清戦争と日露戦争では、どのような違いがあるのか、考えよう。

### 産業と人口



←12 官営八幡製鉄所 (1900年 伊藤博文視察時) 考察 日本の工業化はどのように進んでいくのか、考えよう。  
(日本製鉄株式会社 九州製鉄所 所蔵)

### 移民



←13 移民を呼びかけるポスター 考察 人々が移民として海外に出る動機は何だったのか、考えよう。  
(東京都 外務省外交史料館蔵)

| 年    | 日本                     | 世界                        |
|------|------------------------|---------------------------|
| 1850 | 1853 ペリー来航             |                           |
| 1855 | 1854 日米和親条約            |                           |
| 1860 | 1858 日米修好通商条約          | インド大反乱                    |
| 1865 | 1860 桜田門外の変            | 太平天国の乱                    |
| 1870 | 1867 大政奉還・王政復古         | 1861 アメリカ南北戦争<br>イタリア王国成立 |
| 1875 | 1872 学制公布<br>1871 廃藩置県 | 1871 ドイツ帝国成立              |
| 1880 | 1873 徴兵令<br>1877 西南戦争  | 1882 三国同盟                 |
| 1885 | 1881 国会開設の勅諭           |                           |

中学校で学習した日本の近代史の流れが端的に復習できる。

一方、欧米諸国と実際に交戦し、攘夷の難しさを実感した薩摩藩と長州藩は、同盟を結んで倒幕運動を開始した。幕府は大政奉還で状況の転換を図るが、薩長により妨げられ、戊辰戦争を経て江戸幕府は滅亡した。

### ◆ 明治政府の挑戦 (→ p.71 ~ 72)

新たに誕生した明治政府は、天皇の名において、政府が直接全国を治める中央集権国家の建設に乗り出した。また、同時に、欧米諸国をモデルとして近代国家づくりに取り組んだ。富国強兵を実現するため、廃藩置県や古い身分制の廃止、地租改正・徴兵制・学制など、諸政策を次々に実施した。これらの急速な変化に対して、民衆

は文明開化の名の下に一部を生活のなかに受け入れつつ、時には大きな一揆を起こして抵抗を示した。

### ◆ 近代国家に向かう日本 (→ p.73 ~ 74)

明治政府は、立憲政治の確立と欧米諸国との不平等条約の改正に向けて動き出した。その一方、琉球・北海道を日本に組み入れ、みずからの主権の及ぶ国境の画定も進めた。さらに、朝鮮・中国とは近代的な条約を結んだ。

同じころ、政治に対する国民の不満は、西南戦争を境に、武力を伴う争いから国会の開設を要求する自由民権運動へと変化した。この要求に対し、明治政府は、大日本帝国憲法を制定し、続いて帝国議会も開設した。

### ◆ 帝国主義と日本 (→ p.75 ~ 80)

近代化を進めた日本は、しだいに朝鮮を影響下に置こうと考えるようになり、清との間で日清戦争が起こった。さらに朝鮮・中国東北部(満州)などをめぐってロシアとの間で日露戦争が起こった。二つの戦争に勝利した日本は、欧米諸国との条約改正を実現し、列強の仲間入りを果たした。一方で、戦争で権利を得た台湾や朝鮮を植民地化して、帝国主義の道を歩んでいくようになった。こうした動きに対し、朝鮮では各地で日本への抵抗運動が起こり、改革が迫られた中国では、辛亥革命が起こって、アジア初の共和国である中華民国が成立した。

### ◆ 日本の産業革命 (→ p.75 ~ 78)

日本の近代化が急速に進んだ背景には、繊維工業に代表される軽工業と鉄鋼業に代表される重工業の発展があった。この過程で、財閥が形成され、産業技術や科学が急速に発展した。こうした発展の一方、劣悪な条件下で働かされる小作農民や工場労働者の存在もあり、足尾銅山などでの公害も発生するようになった。国内で十分な生活ができない者のなかには、ハワイなど、海外に移民として渡る者も現れた。これら労働・公害・貧困などの問題は社会問題として認識されるようになり、しだいに改善が叫ばれるようになっていった。



### 歴史ウォーミングアップ②

6つのキーワードから問いを表現してみよう!

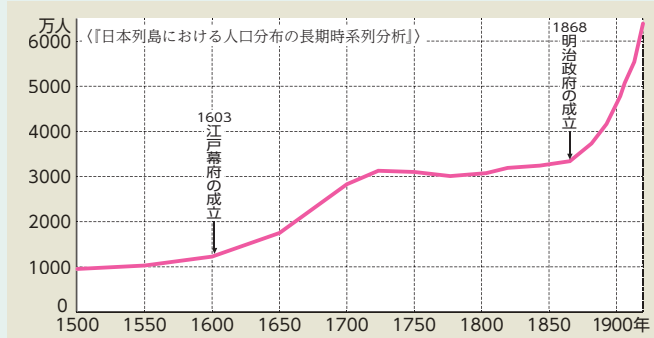
この部で学習する「近代化」の時代の生活や社会の変化について考えるために、p.15で提示した6つのキーワードと、それに関連するp.15～18の資料の中から、あなたが最も興味があるものを選んでみよう。そして、その資料やそのほかの資料から読み取って疑問に思った点を挙げてみよう。

その際、2つのキーワードを関連させたり、1つのキーワードの中でも複数の資料を見比べたりするなど、さまざまな視点の資料から疑問を見つけよう。

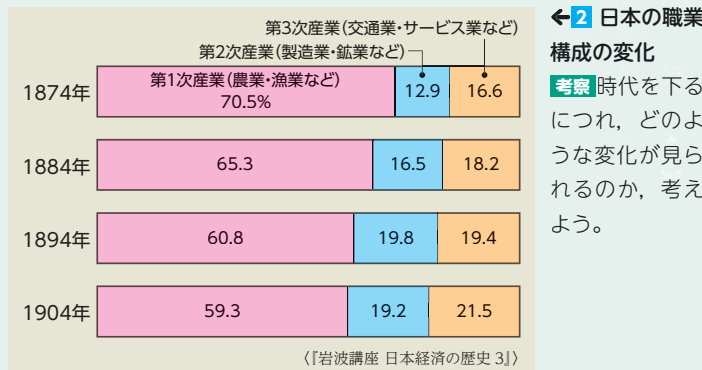
例えば 「労働と家族」や「産業と人口」に関する資料から…



↑1 工場で働く人々 (1880年代, 着色写真) **考察** 彼女たちは、何を作る工場で働いているのか、考えよう。



↑3 日本の人口変化



### ←2 日本の職業構成の変化

**考察** 時代を下るにつれ、どのような変化が見られるのか、考えよう。

これらの資料から読み取って、疑問に感じた点を挙げてみよう。

例: なぜ、女性ばかりが工場で働いているのだろうか?

### ■ ほかのキーワードを関連させると…

これらの資料と併せて、例えばキーワード「移民」に着目し、主な国・地域からの人口移動を示す資料 (→ p.54) から読み取って、疑問に感じた点を挙げてみよう。

例: なぜ、発展していく日本から移民が行われるのだろうか?

また、ほかのキーワードを関連させた視点からも資料を読み解き、疑問を出してみよう。

→ 「権利意識と政治参加や国民の義務」を関連させた疑問の例:

例: 工場で働く人々は、どのような権利を求めたのだろうか?

❗ やってみよう あなたも、6つのキーワードに関する資料から読み取り、疑問を持った点を挙げ、下の空欄に書いてみよう。

キーワード「\_\_\_\_\_」(と「\_\_\_\_\_」)  
 に関する資料「\_\_\_\_\_」や  
 「\_\_\_\_\_」などから読み取って感じた疑問点  
 \_\_\_\_\_

この疑問点を念頭に置いて、これから「近代化と私たち」の学習を進めていこう。

ウォーミングアップ①(本冊子p.38を参照)を踏まえ、キーワードと関連資料から疑問点を出し、「近代化」を学んでいく際の問いを自分で設定できる。

## 2部 近代化と私たち

# 1章

## 江戸時代の日本と結び付く世界

1章の学習課題

18世紀の日本やアジア、ヨーロッパは、それぞれどのように結び付いていたのだろうか。



章の導入として、江戸時代の日本の、世界との交易に関する絵画資料の読み解きができる。

### 資料から考えてみよう

- A 図1はどのような場所を描いた絵だろうか。
- B 図1で望遠鏡をのぞいている人は、どのような立場の人だろうか。
- C 図2に描かれている輸入品は、それぞれこの国の交易品だろうか。

↑1 物見台で船の入港を待つ人々

→2 輸入品の下見 船が運んできた輸入品には、絹織物・書籍・陶磁器・毛皮・象牙などが見られる。



### 現在とのつながり

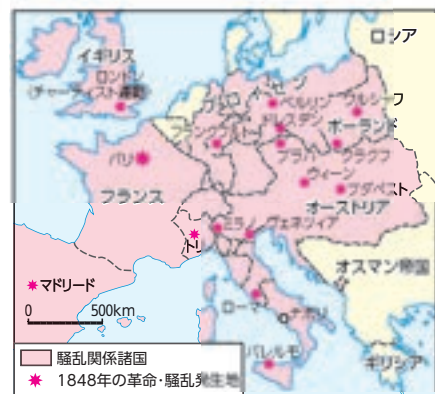
現在、私たちの周りにはアジアから輸入されてきた商品であふれている。これからさらにその傾向は強くなると考えられている。

2部1章は、主に18世紀のアジアとそのなかの日本について学んでいくが、18世紀においてもアジア諸国の間でさまざまな商品がやり取りされていたことが分かっている。また、この時代には、ヨーロッパもアジアの交易ネットワークの中に入り込んできており、さらに広い世界の結び付きもみられる。この章では、その様子について注目して学んでいこう。

←3 日本の衣料品店の様子 中国で作られた衣料品も多いが、近年はバングラデシュなどでも生産されている。

これから学ぶ日本とアジアとの結び付きを意識させる導入。





↑2 二月革命の広まり

←1 『諸国民の春』 この言葉は1818年にドイツの自由主義者が最初に使用したが、革命と民族主義運動が高揚するヨーロッパを象徴する言葉となり、流行した。

読み解き 行進している人々が掲げているのは、どの国の国旗だろうか。また、なぜこれらの国々の国旗が掲げられているのだろうか。

## 1 1848年～近代ヨーロッパの転換点

学習課題 1848年を境に、ヨーロッパではどのような社会に変化していったのだろうか。

前のできごと ヨーロッパ→p.41  
ヨーロッパ→p.49 次のできごと

① 英語では民族・国民・国家、どれも「nation」であり、どの意味に重点が置かれるかは状況によって異なる。チェコ・ハンガリー・ポーランドなど他民族に支配されている地域では民族主義に、他方ドイツやイタリアでは統一国家を実現することに重点が置かれた。

七月革命と二月革命 ウィーン会議後、フランスでは王政が復活していたが、貴族や教会を優遇するなどしだいに反動化し、議会と対立した。1830年7月、民衆蜂起により国王が追放され(七月革命)、自由主義的なルイ=フィリップを新国王として迎えた(七月王政)。制限選挙制は引き継がれ、産業革命が本格化するなかで、富裕な商工業者や金融業者が政治的発言力を強めた。これに対し市民や労働者による選挙権の拡大と議会の改革を求める運動が広がった。48年2月、共和主義者と社会主義者が協力してパリで蜂起し、革命に成功した(二月革命)。成立した第二共和政では社会主義者が歴史上初めて政府に加わり、男子普通選挙も行われたが、急進的な改革を望まない農民や穏健共和派と対立し、政権から除かれた。

三月革命とウィーン体制の崩壊 二月革命は、ドイツ・オーストリアにも波及した。ウィーン民衆の蜂起でメッテルニヒが亡命し、ベルリンでも市民や労働者が蜂起して、プロイセン国王に憲法制定を迫った(三月革命)。ウィーン体制が崩壊し、ハンガリーの独立運動やイタリアの統一運動など、各地の自由主義・民族主義運動が高まるなか、フランクフルト国民議会が開かれ、ドイツの統一と憲法が議論された。

19世紀の節目となった1848年 1848年は、近代ヨーロッパの転換点となった。産業革命で後発となった国々でも資本主義が確立・



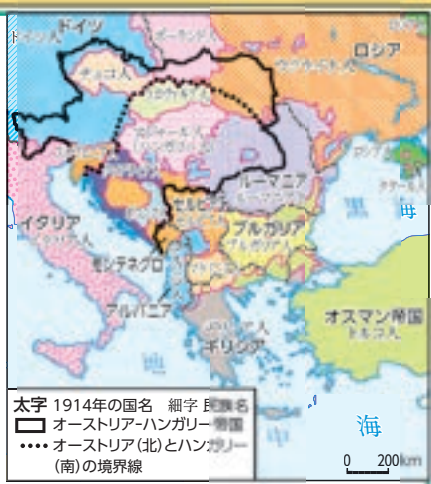
↑3 フランクフルト国民議会 フランクフルト国民議会では、統一の中心をオーストリアとする大ドイツ主義と、プロイセンとする小ドイツ主義が対立し、統一はならなかった。(→p.49)

「現代の諸課題」(民族問題)にもつながる国民国家形成についてのコラム。

### 未来へ活かす歴史

#### 国民国家形成の陰で

プロイセン主導のドイツ統一からはじき出されたオーストリアは、ハンガリー人(マジャール人)に自治を認める妥協をして、オーストリア=ハンガリー(二重)帝国を成立させた(→p.49)。この妥協は、帝国の支配民族であるドイツ人と非スラヴ系のハンガリー人のパランスの下で帝国内のスラヴ系諸民族を支配するものだった。法律上、国内の諸民族は平等とされ、それを保障する政治や教育のしくみも導入されたが、その実現は容易ではなかった。帝国の崩壊後、スラヴ系諸民族はみずからの国民国家を建国したが(→p.108)、それらは実際には多くの少数民族を含み、後に激しい民族問題を引き起こした(→p.186)。



↑4 バルカン半島の民族分布



↑5 ミュシャ作『スラヴィア保険相互銀行のためのポスター』アール=ヌーヴォー(→p.82)の画家として知られるミュシャは、オーストリア支配下のチェコで生まれ、スラヴ民族の独立を訴える作品も数多く手がけた。

展開し、これに伴って労働運動、社会主義運動が各国で強まった。これらの運動との対立関係から、それまで市民革命を主導してきた資本家は、貴族など旧支配層と結んで国家と産業の発展を目指すように変わっていった。また、種々の集団の利害を代表する政党が生まれ、議会が最も重要な政治的決定機関となっていくなかで、選挙権の拡大をはじめ、自由・平等の原理が広がり、市民社会への歩みが決定的となった。

ナショナリズムと国民国家 19世紀後半の新たな状況のなかで政治を導いたのは、一つの民族(国民)が一つの国家(国民国家)をつくることを理想とする、ナショナリズムだった。しかし、実際にはオーストリアのように、国内にはさまざまな民族が混じり合って住んでおり、そのなかで多数派を占める民族が国家を運営した。このため、国民国家において国境を画定し領土内のすべての人々を国民として統合しようとする過程で、少数民族や少数集団が抑圧されたり、言語や宗教を同じくする従来の地域的まとまりが破壊されたりするなどの問題が生じた。

フランス第二帝政の成立 フランスでは、二月革命後、大統領選挙でレイ=ナポレオンが当選し、1852年には皇帝となってナポレオン3世と称した(第二帝政)。彼は国内産業の保護・育成に努めるとともに、海外進出を積極的に行った。英露の影響の少ない東南アジアへ進出し、清と対決しながらベトナムの一部やカンボジアを支配下に置いて仏領インドシナ連邦の建設に着手した。イギリスに次ぐ植民地保有国の地位を築いたが、普仏(プロイセン=フランス)戦争の敗北により、帝政は崩壊した。屈辱的な講和条件を知ったパリ民衆が蜂起し、史上初の労働者の政権とよばれるパリ=コミュンが成立してパリを支配したが、2か月後、臨時政府軍に鎮圧され、75年に第三共和政の憲法が成立した。

### 世界の日本 ナポレオン3世と江戸幕府

対外政策の成功によってフランス国内での支持を得ていたナポレオン3世は、貿易拠点の確保のため、幕末期の江戸幕府にも接近した。幕府に対して、軍事顧問の派遣(→p.65)のほか、横須賀製鉄所設立のための支援などを行った。しかし、メキシコへの出兵の失敗やヨーロッパ情勢への対応から日本への介入の余地がなくなり、戊辰戦争に対しては、国家としてはイギリスなどと足並みをそろえ、中立策を取った。



↑6 ナポレオン3世から贈られた軍服を着る徳川慶喜

確認 ナショナリズムについての説明を、本文から書き出そう。

説明 1848年は近代ヨーロッパの転換点とはどのようなことか、説明しよう。

ナポレオン3世と江戸幕府の関わりが世界史の観点からわかるコラム。





←1 スエズ運河 レセップスが1869年に開通させた、地中海と紅海を結ぶ全長163kmのエジプトの運河。ヨーロッパからのインド航路(→p.12)は、南アフリカの喜望峯回りに比べ、時間を約40%短縮できた。建設の際、エジプトはAなど外国から多大な借金をした。



←2 レセップス (1805~94) Aの外交官。

読み解き なぜ、Aの三色旗が掲げられているのだろうか。



↑3 近代化したオスマン帝国軍 軍隊の近代化は、19世紀初頭から試みられたが、旧来の軍人(イエニチェリ)が反発していた。30年代にエジプト軍に敗北したことを機に、タンジマートで徴兵制の導入や軍備の増強が進んだ。



↑4 オスマン帝国の実効支配地域の縮小

## 1 「西洋の衝撃」と西アジアの変化

学習課題 イスラム諸国は、ヨーロッパ諸国の進出により、どのような影響を受けたのだろうか。

前のできごと 西アジア→p.27  
 次のできごと 西アジア→p.95

衰退するオスマン帝国 18世紀後半、近代化が進むヨーロッパ諸国は、自由貿易をうたって本格的にアジアに進出した。アジア諸国は、強大な武力を持つヨーロッパ諸国に対抗しつつ、自身の存続と発展を図らなくてはならなくなった。これを一般的に「西洋の衝撃」とよぶ。

18世紀のオスマン帝国は、地方の有力者が強大化し、オスマン政府の支配が全域に行き届かなくなっていた。この状況を見て、ヨーロッパ諸国はオスマン帝国への進出を強めた。1798年、ナポレオンらフランス軍が、イギリスのインドへの道をはばむため、オスマン帝国領のエジプトを3年間占領した。エジプトの権力構造は混乱し、フランス軍撤退後にはオスマン軍人ムハンマド・アリーが実権を握った。彼は、徴兵制により軍を近代化してオスマン政府を圧倒し、エジプトに事実上の独立王朝を築いた。

一方、クリミア半島では、ロシアが南下してオスマン帝国とたびたび争い、属国を奪い続けた。さらに、ギリシア人が独立戦争を開始し、ロシアやイギリスの軍事介入を得て独立を達成した。このほかにも、多民族国家であるオスマン帝国の各地で、諸民族が独立運動を起こした。

オスマン帝国の模索 危機に直面したオスマン帝国は、1839年にタンジマートとよばれる近代化改革を開始した。この改革では、オスマン帝国の住民は宗教にかかわらず法の下に平等であるというオスマン主義の下、国民の一体化が目指された。政治や教育の面の近代化改革が行われ、中央集権的な官僚機構や、近代的な軍隊・法律が整えられた。76年には、オスマン帝国初の憲法(ミドハト憲法)が制定された。これは、国民の平等、議会制、言論の自由などを保障したものだ。しかし、スル

タン専制により中断させられ、1908年まで憲法は停止したままとなった。一方、オスマン帝国は、イギリスと1838年に通商条約を結んだが、これは不平等条約であった。オスマン帝国はほかのヨーロッパ諸国とも同様の通商条約を結び、その結果として外国製品への依存が高まり、伝統産業が衰退した。さらに、クリミア戦争による出費なども重なって、オスマン帝国は破産状態となり、産業・経済の近代化も進まなかった。

エジプトとイランの近代化の模索 ヨーロッパの資本を招き入れ、近代化を進めたエジプトは、商品作物の綿花生産を拡大していった。しかし、スエズ運河建設の途中から、イギリスやフランスからの借金を始め、アメリカ南北戦争の終結による綿花価格の下落も影響し、1876年に財政破綻した。借金が返済不能になると、エジプトは英仏に国家財政を押しやられ、実質的に支配された。アフガーニーは、これをイスラム世界全体の危機ととらえ、オスマン帝国やエジプトという枠を超えてイスラムの一体化を目指すパン=イスラム主義を説いた。一方、軍人オラービーは81年に「エジプト人のためのエジプト」を叫び英仏への反乱を起こしたが、翌82年鎮圧され、イギリスはエジプトを占領し保護国とした。

イランでは、サファヴィー朝に替わったカージャール朝がロシアやイギリスの圧力にさらされた。ロシアとの戦争でカフカス地方を失ったイランは、ヨーロッパ諸国と結んだ不平等な通商条約により、ヨーロッパへの経済的な従属が強まっていった。90年、イランはイギリス商人にたばこの生産・流通の独占を認めたが、政府への全国的な抗議運動が起こり、イギリスの利権は撤廃された。こうしてイランは独立を保ち、憲法制定や議会開設が目指されるようになって、1905年のイラン立憲革命につながった。

これ以後イギリスは、さらに自国に有利に改変した不平等条約をアジア諸国に押し付け、世界的な自由貿易のしくみを作り出していった。

エジプトの近代化を進めた ムハンマド・アリー (1769~1849)

現在のギリシアに位置する町で生まれたアルバニア人のアリーは、オスマン軍人としてフランス軍と戦うためにエジプトに渡った。フランス軍撤退後の混乱のなかで頭角を現し、エジプトの総督となった。フランスの協力を得て、徴兵制、検地と農作物の国家専売制、綿花栽培の奨励、西欧技術導入のための学校設立など、明治政府の富国強兵・殖産興業(→p.75)と同じような政策を、日本より半世紀早く実施した。1830年代、近代化の進んだエジプト軍は、オスマン帝国軍を簡単に打ち破ってシリアを占領し、一時はオスマン帝国の首都イスタンブルも脅かした。危機感を覚えたイギリスやロシアが40年に介入して、エジプト軍をシリアから撤退させた。

ムスリムの団結を訴えた アフガーニー (1838/39~97)

イランに生まれ、インド・エジプト・フランス・ロシアなど各地をめぐる歩いた。そうしたなか、ヨーロッパの帝国主義的な侵略にさらされるムスリムの状況を見て、人々が個別に抵抗するのではなく、全世界のムスリムが民族の違いを超えて一致団結すべきだと主張した(パン=イスラム主義)。パリで刊行したアラビア語の雑誌は、遠方のインドネシアでも熱心に読まれるなど、世界各地のムスリムに強い影響を与えた。最後はパン=イスラム主義の宣伝のため、オスマン帝国スルタンに客人として招かれ、イスタンブルで没した。

確認 オスマン帝国が行った近代化政策についての説明を、本文から書き出そう。  
 説明 オスマン主義とパン=イスラム主義の違いを説明しよう。

「西洋の衝撃」とよばれる欧米の進出が、日本を含むアジア諸国に迫ってきたことがわかる。



資料や本文から江戸時代の日本が事前に欧米の動きを察知していたことがわかる。



**史料** **オランダから幕府にもたらされた情報**  
 1843年の情報  
 これまで清は(イギリス軍に)何度も打ち負け、清軍の高官は皇帝にイギリス軍にはかなわないと報告しましたが、皇帝は取り合わず…イギリス軍艦はおびただしく、皇帝も事態の沈静化のためには和談を行うしかないと考えを変えました。  
(「別段風説書」より、現代語訳・一部要約)

1852年の情報  
 アメリカ合衆国の政府は、交易を結ぶため日本に船を送るようです。…指揮官「ペルリ」という者が総督となったようです、…情報によれば、陸軍および攻城の武器をも積み込んでいます。  
(「別段風説書」より、現代語訳・一部要約)

**読み解き** 幕府にとって、アメリカ船の来航は突然の出来事だったのだろうか。

↑1 日本で描かれたアメリカ船(1854年) (神奈川県立歴史博物館蔵)

## 4 黒船の来航と日本の対応

**学習課題** 日本は、ヨーロッパ諸国の進出に対して、どのように対応したのだろうか。

前のできごと 日本→p.61  
日本→p.65 次のできごと

- 1 幕府が、長崎のオランダ商館長に提出させた、海外事情に関する報告書(→p.22)。
- 2 薩摩藩、佐賀藩、長州藩などを中心に、財政再建とヨーロッパ技術の導入といった改革が進んだ。薩摩藩や長州藩では、実力のある下級武士の登用も行われた。これらの改革の成功は、軍事力の強化につながり、しだいに政局を動かすようになっていった。

**海外情報への対応**  
 欧米の船が日本に近づくなか、幕府は、オランダ風説書など外国からもたらされる情報や、西洋の地理書の翻訳、帰国した漂流民からの情報を通じて、ヨーロッパ諸国の世界進出への認識を深めていた。アヘン戦争で大国の清がイギリスに敗れたことが清の商人などから日本に伝わるなか、幕府は1842年に**新水給与令**を出して欧米諸国との紛争を避ける一方、より一層の海防の強化を進めた。  
 また、海外情報は蘭学者たちのネットワークにより日本各地にも伝わるようになり、海外に高い関心を持つ大名も現れるようになった。水戸藩では尊王思想と外国を退けようとする攘夷が結びついて**尊王攘夷**思想が生まれ、一方、佐賀藩や薩摩藩ではヨーロッパの思想や技術を積極的に吸収し、その進出に備えようという動きが強まった。また、これらの藩では、意見を幕政に反映させるための模索も始まっていった。

**日本の開国**  
 ヨーロッパにて1848年からの動乱やクリミア戦争が起ること、アメリカがヨーロッパ各国の間を突いて日本を目指した。太平洋岸への国土拡大を達成したアメリカは、**南京条約**で開港した清との貿易における中継地点と、日本近海における捕鯨のための補給地点を確保するため、日本を開国させようと**ペリー**を派遣した。

1853年、ペリーは浦賀沖に到着した。幕府は、アメリカ船の来航をすでにオランダから通告されており、実力行使による対抗は難しいと判断して、開国を勧告するアメリカ大統領の国書を受け取った。その後、再び回答を聞きに来るといふペリーに備え、幕府は諸大名や下級の幕臣に意見を

**日米の架け橋となった**  
**中濱万次郎(1827?～98)**

土佐の漁師であったが、14歳の時(1841年)に嵐で遭難し、太平洋の無人島でアメリカの捕鯨船に助けられた。そのままアメリカに渡った万次郎は、その船の名前からジョン=マンとよばれ、働きながら英語を学び、52年に故郷の土佐へ帰ることができた。ペリー来航後には幕臣となり、60年に幕府の使節団の通訳として、再びアメリカに渡った。明治維新後は、番書調所の流れを継ぐ開成学校(後の東京大学)の教授も務めた。

### 歴史の選択肢 海外対応をめぐる論争

アメリカの開国要求について、幕府が意見を求めると、諸藩からは大きく4種類の意見が提出された。朝廷や天皇は、アメリカとの自由貿易の開始には基本的に反対していたが、日米和親条約の締結についてはしかたがないと許容した。

**アメリカの要求を受け入れる論**  
 開国論：積極的に外国と交流し、貿易を行うべきだ。  
 許容論：アメリカの開国要求を認めざるをえないだろう。

**アメリカの要求を拒絶する論**  
 非戦論：開国は拒絶するが、戦争も避けるべきだ。  
 攘夷論：戦争となっても外国は追い出すべきだ。

**考えよう** ① 四つの論はどのような理由で唱えられたのか、これまでの学習を基に考えよう。  
 ② 意見の傾向は1853年と57年で変わっているが、その理由を考えよう。

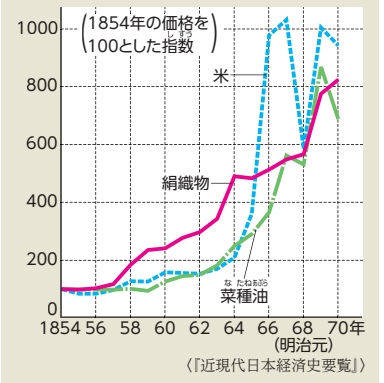
| 日米和親条約前の1853年 |     |      |   |
|---------------|-----|------|---|
| 数字は藩数         |     |      |   |
| 受け入れ          | 拒絶  | 意見なし | 4 |
| 2             | 14  | 26   | 8 |
| 開国論           | 攘夷論 | 意見なし |   |

| 日米修好通商条約前の1857年 |     |      |   |
|-----------------|-----|------|---|
| 受け入れ            | 拒絶  | 意見なし | 7 |
| 4               | 16  | 4    | 3 |
| 開国論             | 非戦論 | 攘夷論  |   |

(本庄栄治郎「日本経済思想史研究」)

↑2 諸大名からの意見聴取の結果意見なしと回答する藩や、そもそも回答がなかった藩も見られた。



求め、朝廷にも報告した。それまで幕府が政治に関する意見をこれほど広く求めたことは無かったため、この後、朝廷や有力大名は発言力を強め、日本中の人々が身分を超えて政治に高い関心を持つようになっていった。

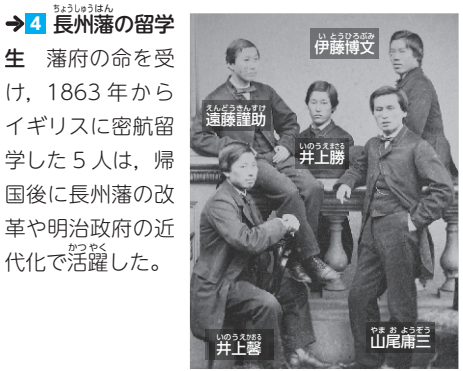
翌54年、幕府は**日米和親条約**を結び、外国船の補給と漂流民の保護を認めた。以後、露・英などとも同様に条約を結んだ。さらにアメリカからの自由貿易への強い要請は続き、アロー戦争の推移が伝えられると、幕府は開国して貿易を行うことを決断した。こうして58年に、**日米修好通商条約**が結ばれ、ヨーロッパ諸国とも同様の条約が結ばれた。諸条約には、関税自主権が無く領事裁判権を認めるなど、日本に不利な不平等項目が含まれており、その解消は明治時代の外交交渉における課題となった。

**開国の影響と近代化改革** 日本は、欧米との条約締結により、世界市場へ参加させられた。そして、貿易が活発になると国内経済は混乱した。世界的に不足した生糸や蚕卵紙が大量に輸出され、国内の絹織物業は原料不足となり打撃を受けた。海外で人気の茶も盛んに輸出された。一方、良質で安価な綿糸が輸入され、国内の綿関係産業も混乱した。変化に適応した新しい商人が台頭する一方、庶民は苦しい生活に追い込まれた。

人々は欧米諸国に従属することを恐れ、さまざまな政治勢力となって日本の独立を維持しようと活動した。幕府をはじめ諸藩でも、欧米諸国に対抗するために軍事力強化と人材登用を中心とする**近代化改革**が進められた。幕府は欧米の学問を学ぶ番書調所や、海軍技術を学ぶ海軍伝習所を設置し、そこには諸藩の家臣も招かれた。さらに幕府や薩摩藩、長州藩は海外へ使節や留学生を派遣した。こうして欧米の文明に触れた人物の多くは、明治以降、近代化改革の指導者として活躍した。

**史料** **幕府使節のアメリカ視察 海軍造船所の見学(1860年)**

蒸気仕掛けでさまざまな細工をする様子は、目を驚かせるようなすばらしい工程で、筆舌に尽くしがたい。…大砲の弾丸が見る間に百個もできる。…この機関を我が国でも用いることができれば、国益は計り知れないと思われる。  
(村垣範正の日記より、現代語訳)



3 民衆は、苦しい生活のなかで幕府の改革のために次々と重税を課されたことで、幕府への支持を急速に弱めていった。知識人や豪農たちのなかには、みずから集めた情報や国学などの学問を通じて政治体制への批判力を高め、草莽の志士として活動する者も現れた。

**確認** ペリーが日本へとやって来た理由を、本文から書き出そう。

**説明** ヨーロッパへの対応について、p.61～62の清と日本で、異なっている点とその理由を説明しよう。



## 歴史に迫る! 2

### 幕府の対外交渉をどう評価するか



**▲ペリーの神奈川(横浜)上陸**  
1853年、ペリーが軍艦4隻を率いて浦賀沖に現れた。「鎖国」のさなかにあった日本は、この黒船来航をきっかけに、1854年に日米和親条約、1858年に日米修好通商条約を結んで、開国に踏み切った(→p.63)。しかし、この二つの条約には不平等な内容があり、その改正は日本の大きな目標となっていた。

**学習課題** 歴史家たちは、幕府が行った交渉について、主に以下のような評価を下している。あなたはどちらだと考えるだろうか。

**歴史家たちの評価**

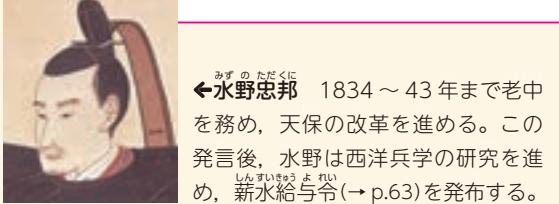
| 評価 1                                  | 評価 2   |
|---------------------------------------|--|
| 結果的に明治政府はこの不平等条約の改正に苦しんだ。幕府の交渉は失敗である。 | 当時の状況下で最大限の努力をし、結果的に日本は植民地化をまぬかれた。交渉は失敗とはいえない。 |

- 手順**
- ①まずは「検証A 幕府側の考え」を検証
  - ②次に「検証B 日米和親条約の内容」を検証
  - ③「検証C ハリスとのやり取り」を検証
  - ④「検証D 日米修好通商条約の内容」を検証
  - ⑤「最終課題」で考えをまとめよう!

### 検証 A 幕府側の考 幕府の対外交渉について、歴史家たちの相反する評価を提示し、思考を促す。

**資料① | 水野忠邦が得ていたアヘン戦争情報**

清国はアヘンの取り引きを厳禁にしたことにより、イギリス人が不平を抱き、軍艦40隻余りを寧波に向かわせ、戦争を開始。寧波の一部が奪い取られたとのことを来船者より聞いた。異国のことだが、これは自国の戒めにすべきである。浦賀の防衛についての建議が未定になっているが、行き届いていない。  
(1841年1月 佐渡奉行への手紙 現代語訳)



**←水野忠邦** 1834～43年まで老中を務め、天保の改革を進める。この発言後、水野は西洋兵学の研究を進め、薪水給与令(→p.63)を發布する。

**資料② | 阿部正弘の諸大名への説明**

つまりは和戦の二字に着した。…近海をはじめ防御は万全ではない。彼ら(アメリカ)が…来年渡来しても要望の許否は明言せず、なるべく平穏に取り計らうつもりである。しかし彼らが乱暴に及ばないとも限らない。その時になって覚悟が無くては国辱ものになるだろう。…万が一戦いになった場合には、…心力を尽くし忠勤に励むべしとの將軍のおおせである。  
(1853年11月1日「幕末外国関係文書之三」現代語訳)



**←阿部正弘** 1843～55年まで老中を務める。水野の対外交渉を引き継ぎ、慣例を破って大型船建造の禁止を解く。

**読み解き** 資料①・②を読んで、正しいと思う方に○をしよう。  
**ポイント** 幕府は海外の情報を、(得ていた 得てなかった)。このため、海岸の防備が、(必要と考えた 不要と考えた)。

資料から幕府側の考えを整理できる。

### 検証 B 日米和親条約の内容

**資料③ | 日米和親条約 (1854年) →ペリー**



- 第2条 伊豆の下田、松前の箱館(函館)の両港は、アメリカ船が薪水・食料・石炭など欠乏している品を日本で調達するために限って渡来することを、日本政府は許可する。
- 第3条 アメリカ船が日本沿岸に漂着したときは救助し、漂流民を下田または箱館に護送し、アメリカ人が受け取れるようにする。
- 第9条 日本政府は、現在アメリカ人に許可していないことをほかの外国人に許可するときは、アメリカ人にも同様に許可する。
- 第11条 両国政府は、やむをえない場合には、合衆国の領事を下田に駐留させることがある。もっともそれは条約調印から18か月後でなくてはならない。  
(一部要約)

実際の条約文を読み解き、問題点と評価すべき点を洗い出せる。

- 補足①** 第2条により、下田・箱館(函館)の開港が認められたが、漂流民の保護、薪水・食料・石炭の供給に限定したもので、従来の薪水給与令と変わらなかった。
- 補足②** 第9条は、片務的最恵国待遇の承認であり、欧米諸国では双務的に結ぶことが一般的になっていたことから、不平等な内容となっていた。
- 補足③** 第11条における領事の駐留については、日本語文では双方が、英語文は一方が必要とした場合となっており、結果的に領事が下田に置かれることとなった。

**読み解き** 資料③において問題となる条文はあるだろうか。また評価すべき条文はあるだろうか。

### 検証 C ハリスとのやり取り

**資料④ | アメリカ総領事ハリスの演説 (1857年)**



- ①アメリカは日本を親友と見ており、かつ、アメリカは戦争で領土を獲得したことはない。
- ②西洋各国は貿易を盛んに行っており、アメリカの希望は外交官の江戸への駐留と自由貿易である。
- ③アロー戦争が終盤になり、イギリス・フランスの脅威が迫っており、アヘン貿易による害悪も危ぶまれる。
- ④アメリカとの条約があれば、欧州諸国との確執が起こった際、アメリカ大統領が仲立ちをする。  
(一部要約)

**積極開国派の意見**  
神奈川・横浜を開港し、欧米諸国からさまざまなことを吸収して、幕府の富国強兵を成し遂げるべき。

**消極開国派の意見**  
「アメリカは非侵略国」と言っているが、風説書によれば事実ではない。また、アヘンを中国に輸出している事実もある。拒絶すれば戦争になるので、当分は穏便な処置で対応すべき。

**読み解き** 資料④を踏まえ、ハリスの演説は幕府にどのような影響を与えたと考えられるだろうか。

- 最終課題**
- 質問 1** あなたが資料③・資料④の条約のなかで「評価1の根拠になる」と考える条文はどれか。
- 質問 2** あなたが資料⑤・資料⑥の条約のなかで「評価2の根拠になる」と考える条文はどれか。
- 質問 3** あなたはこの幕府の対外交渉をどう評価するか、学習課題での考えを再検証してみよう。評価1と評価2の根拠となる条文にもそれぞれ触れて、説明してみよう。

### 検証 D 日米修好通商条約の内容

**資料⑤ | 日米修好通商条約 (1858年)**

- 第3条 下田・箱館港のほか、神奈川と長崎、新潟、兵庫を開港する。神奈川開港の6か月後に下田は閉鎖する。
- 第4条 日本に対する輸出入の商品には、別記のとおり日本政府へ関税を納めること。…アヘンの輸入は禁止する。
- 第6条 日本人に対して法を犯したアメリカ人は、アメリカ領事裁判所で調べたうえで、アメリカの法律で罰する。アメリカ人に対して法を犯した日本人は、日本の役人が調べたうえで、日本の法律で罰する。
- 第7条 開港場においてアメリカ人の歩ける範囲は…神奈川、六郷川筋を限界とし、そのほかは各方面10里とする。  
(一部要約)

**補足①** 第4条により、関税自主権を失ったが、1866年の改正までは、日本に有利な税率となっていた。商品別に値段が重さかで税率が定められたが、のちの貿易の急増で、重さによる税率の方が対応しきれなくなった。アヘンの禁止も重要であった。

**補足②** 第6条は領事裁判権についてで、当時の日本の刑罰は欧米に比べてかなり重く、このままでは欧米からの大幅な干渉が予想されたため、幕府側もこの形を望んだ。

**補足③** 第7条で外国人の歩ける範囲を決めたことにより、外国商人が居留地以外での商いができず、日本の国内市場を守ることにもつなげた。

**読み解き** 資料⑤において問題となる条文はあるだろうか。また評価すべき条文はあるだろうか。

幕府の対外交渉に対する評価の根拠を資料から選び取り、自分の考えをまとめられる。





明治天皇

内閣総理大臣

**史料** 大日本帝国憲法(1889年)

第1条 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第4条 天皇ハ八國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ上ニ依リ之ヲ行フ

第11条 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第28条 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第29条 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行\*集會及結社ノ自由ヲ有ス \*圖書の印刷や発行

←1 大日本帝国憲法の発布(1889年)  
〔憲法発布式之図〕東京都立中央図書館蔵

読み解き 大日本帝国憲法は、誰から与えられ、誰を中心とした憲法なのだろうか。

## 2 近代国家を目指す日本

**学習課題** 日本は、近代国家となるために、どのような政策を進めていったのだろうか。

前のできごと 日本→p.71 日本→p.75 次のできごと

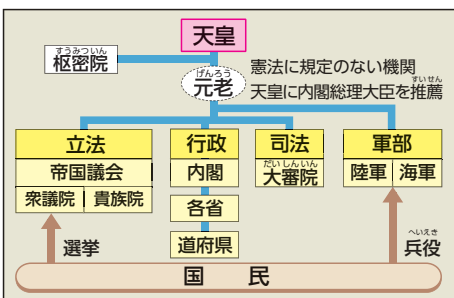
### 世界の日本 伊藤がヨーロッパで学んだ立憲政治

憲法調査のために渡欧した伊藤は、まずベルリン大学のグナイストから「憲法は国民精神の表れ」という教えを受けた。他方、ウィーン大学のシュタインからは、議会制度と行政の調和による国の全体像を学んだ。

こうして伊藤は、立憲政治は憲法の制定のみで実現できるものではなく、議会制度などの国のしくみと、それを運用する行政制度の整備が必要と学んだ。さらには、それを運営していく人々の養成と教育が重要と学び取った。



→2 留学中の伊藤博文



←3 大日本帝国憲法の下での国のしくみ

### 立憲体制への道のり

征韓論をめぐる政変によって政府が分裂したことで、藩閥政府への批判が高まり、人々の政治参加を求める自由民権運動が本格化した。これに対して新政府は、1875年に、しだいに立憲体制に移行するという方針を示し、準備を始めた。五箇条の誓文に「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」と掲げられたように、国民の政治参加を認め、議政体を採用することは、新政府にとっても大きな目標であった。

一方、自由民権運動を進める民権派は、私立学校の設立や演説会を通じて、フランス人権思想や欧米議会制度のしくみを広め、地租の引き下げを求め、有力農民なども参加して全国的な運動となっていった。そして、板垣退助が結成した愛国社をルーツとする国会期成同盟によって、80年に国会開設請願書が提出されると、国民の政治参加を求める気運はさらに高まり、私擬憲法の起草を通じての民間での憲法論議が盛んになった。

この自由民権運動の盛り上がりに対し、新政府の指導層である伊藤博文らは、81年に政府内で急進的に議院内閣制を求める大隈重信らの意見を排除する一方で、90年の議会開設を天皇の名で国民に約束した(国会開設の勅諭)。こうして、新政府は、立憲体制に向けて大きく動き出した。

1882年、伊藤は、立憲制度導入のため、ヨーロッパに渡って諸外国の政治や制度の調査を行い、翌83年に帰国すると、必要な制度改革を進めていった。85年には内閣制度が導入され、今日まで続く内閣総理大臣を首班とする政府の在り方が形づくられた。伊藤を中心に憲法草案が作成され、89年2月11日、天皇が定める憲法と

### 日本で初めて女性の参政権を実現した

楠瀬喜多(1836~1920)



高知県の上町に住み、戸主であった喜多は、1878(明治11)年、区会議員の選挙で「戸主として納税しているのに、女だから選挙権がないというのはおかしい。本来義務と権利は両立するのが道理であり、選挙権がないなら納税しない」と県に抗議し、拒否されると内務省に訴えた。当時、世界でも女性参政権はアメリカのワイオミング州議会だけといわれていたなか、喜多の住む地域では80年から女性参政権が認められた。しかし4年後の法改正により、また男性しか投票できなくなった。喜多はその後、亡くなるまで女性民権家として活動を行った。(高知市立自由民権記念館蔵)

### 未来へ活かす歴史 「日本国民」とされるアイヌの人々

19世紀以降、世界各地での国民国家形成の過程で、先住民(→p.52)などマイノリティとよばれる人々が「国民」として統合された。日本の場合、北海道や千島列島などに先住するアイヌの人々(→p.22)は「日本国民」に同化させられた。新政府は、アイヌ古来の風習や言語を禁止し、日本語教育などを行い、保護の名目で「北海道旧土人保護法」を公布した。アイヌの人々は従来の生活や文化を保つことが難しくなった。教育はアイヌの人々だけの学校で行われ、その後1937年に通常の学校に通学できるようになったが、学内では差別があった。現在では、2007年の国連での「先住民の権利に関する国際連合宣言」採択を受け、翌年アイヌの人々を「先住民族」とすることを求める国会決議がなされ、2019年のアイヌ施策推進法にて「先住民族」と明記された。



(北海道大学附属図書館蔵)

→4 アイヌ学校(北海道江別市対雁)

して大日本帝国憲法が発布され、翌90年の帝国議会の開設へと至った。これは、欧米以外の国において、当時唯一の立憲政治の始まりであった。

しかし、90年に行われた最初の衆議院議員総選挙では、高額納税者の成年男性にしか選挙権は与えられず、有権者は国民の1%程度でしかなかった。また、北海道や沖縄県の人々には参政権がなく、国政に関わることができなかった。同時期のイギリスでは、国民の約19%が選挙権を有しているのと比べると低い数値であったが、イギリスも制限選挙であり、選挙権の拡大は、各国が抱える共通の課題であった。

憲法制定と共に諸法典も整備され、日本の近代法制度が出来上がった。民法については、フランス法学者ポアソナードが起草した法典が90年に公布されたが、日本人の法学者から反対が出され、結局日本人の手による新しい民法典が98年に施行された。

### 日本の国境画定

近代国民国家は、主権を有し、それを構成する国民と主権が及ぶ領土を持つ。新政府も近隣国との領土画定に努めた。北方ではロシアと、幕府が結んだ日露通好(和親)条約による択捉島・得撫島間の国境画定に続き、樺太・千島交換条約を結び、日本は樺太を放棄し千島列島を得た。琉球については、日本と清の両属関係であったが、琉球諸島の船が台湾に漂着した際、乗組員が殺害される事件が起こった。日本は抗議して、1874年に台湾出兵を行ったが、これに対し清が事実上の賠償金を支払ったため、日本は琉球が日本領となったと見なして79年に沖縄県を設置した。小笠原諸島は、幕末に幕府が英米両国へ日本領であることを通告しており、76年に国際法に基づき領有が認められた。さらに日本は、95年に尖閣諸島の沖縄県への編入、次いで1905年に竹島の島根県への編入を閣議決定し、自国の領土とする意思を公式に示した。



- 1 ロシア 1855年 日露通好(和親)条約 1872年 琉球藩設置
- 2 清 1875年 樺太・千島交換条約 1879年 沖縄県設置
- 3 朝鮮 1871年 日清修好条規 1895年 尖閣諸島を沖縄県に編入
- 4 琉球諸島 1874年 台湾出兵 1876年 英・米が日本の領有を承認
- 5 台湾 1875年 江華島事件 1905年 島根県に編入
- 6 竹島 1876年 日朝修好条規

### ←5 明治初期の日本の国境と外交

2 国際法上、どの国にも属さない土地を、最初に領有の意思を持って占有すると、その土地は占有した国家の領土になるとされている。

**確認** 日本が政治制度を整えるために、開設や発布したものを、本文から時系列順に書き出そう。

**説明** 近代国家となった日本の政治に、国民はどの程度参加することができたのだろうか、説明しよう。



## 生活・文化から見る日本と世界② 明治期 文明開化とジャポニスム

〔摂州神戸海岸繁栄之図〕神戸市立博物館蔵



- ↑1 1871年の神戸港 神戸や横浜など開港地は、外国船の来港により、急速に生活や街の様子が変わっていった。
- あ 外国人 和服の日本人と洋服の外国人が混在している。この後、日本人は洋服を生活に取り入れていく。
- い 建物 洋風建築の外国領事館が立ち並び、洋風建築は、東京(→p.15)などの都市にも次々造られた。
- う 馬車と人力車 欧米の馬車が日本にも持ち込まれ、それを日本風に改良した人力車も作られた。
- え 船 海上には、日本古来の和船に加え、欧米からやって来た蒸気船が見られる。

### ① 西洋文化で変わる日本の生活

開国後、神戸や横浜など開港地に外国人居留地が作られ、西洋文化が日本に流入した。これにより、文明開化とよばれる生活の洋風化がもたらされた。



↑2 牛鍋を食べる男性 文明開化の下、人々は、それまで食べていなかった牛肉を口に、新聞を読み、髪の毛を結うことをやめてざんざり頭となった。(『安愚楽鍋』東京大学法文学部附属明治新聞雑誌文庫蔵)

↑3 鉄道と郵便配達人 鉄道の敷設や蒸気船航路の開設、郵便制度の整備、そして国内の電信線や海底通信ケーブルの設置により、国内だけでなく海外からも多くの人や情報が行き交うようになった。

### FILE 西洋化する日本の【時間】

江戸時代以前の人々は、日の出から日の入りまでの昼の時間と、日の入りから日の出までの夜の時間をそれぞれ六つの刻に分けて生活していた(不定時法)。そのため、季節や地域(緯度・経度)によって、昼と夜の一刻の長さは異なっていた。

明治時代になり、太陽暦(西暦)が採用されると、1日は均等に24時間に分けられ、日曜日が公務の休日と定められた。この時間の西洋化の理由は、欧米との貿易における利便性、工場労働の時間管理の必要性、鉄道の運行に同一の時刻表が必要となることなどからである。こうして、人々は、国が定めた同一の時間で生活するようになった。

#### →4 明治時代の時計師



現在の「時間」の概念が明治期の人々の生活・文化を変えた西洋化の一つの現れであったことがわかる。近代化の理解がさらに深まる。

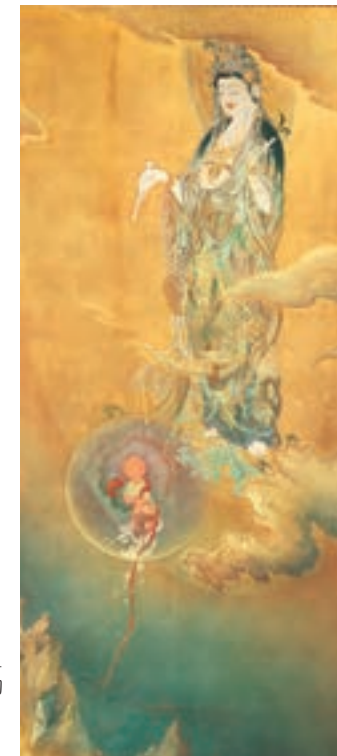
### ② 西洋の影響を受ける日本の芸術

開国後の日本には、技術や文化だけでなく、西洋芸術が入ってきた。芸術家たちはそれらの特質や技法を取り入れ、和洋折衷の芸術を生み出した。



↑5 黒田清輝作『湖畔』 パリに留学した黒田は、日本西洋画に明るい色彩の画風をもたらした。(東京国立博物館蔵 東京文化財研究所画像提供 重要文化財 1897年 縦69cm×横84.7cm)

→6 狩野芳崖作『悲母観音』 芳崖は、フェノロサに勧められ、西洋技法を取り入れた新たな日本画を描いた。(東京芸術大学蔵 1888年 縦195.8cm×横86.1cm)



#### 日本の伝統芸術の発見者

フェノロサ(1853~1908)



フェノロサは、明治政府が西洋文明導入のために招いた「お雇い外国人」(→p.75)の一人である。1878年に来日したフェノロサは、日本画を見て感銘を受けた。しかし、政府の「写実的な西洋画の方が優れている」という考えの下、日本画は衰退が進んでいた。そのためフェノロサは、「絵画の本質は写実ではなく心の内面の表現にあり、それには西洋画より日本画が適している」と講演し、政府に衝撃を与えた。

その後フェノロサは、東京美術学校の設立に努力し、岡倉天心らと新たな日本画の開拓を目指した。また、フェノロサが行った寺社宝物の調査は、のちに文化財保護運動へつなげた。

### ③ 欧米で起こった日本ブーム「ジャポニスム」

輸出や万博(→p.55)を通じて欧米に日本の芸術が広まり、日本ブーム「ジャポニスム」が起こった。これは、日本製品の愛好というだけでなく、芸術技法への影響ももたらした。

↓7 モネ作『ラ=ジャポネーズ』 フランスの画家モネは日本愛好家であった。当時の欧米では、このように室内で日本風の格好をする女性も見られたという。(ボストン美術館蔵 1876年 縦231cm×横142cm)



↑8 ロートレック作『ディヴァン=ジャポネ』 この多色刷りのポスターは、遠近法を無視した色使いや、大胆な構図などに、浮世絵(→p.29)からの影響が見られる。ロートレックらの芸術は「アール=ヌーヴォー」(新しい芸術)とよばれ、従来の様式にとらわれない芸術が目指された。(1893年 縦79cm×横60cm)

日本の芸術だけでなく、言葉もアジア諸国に影響を与えたことがわかる。

### 世界の日本 アジアに広まる和製漢語

幕末から明治初期の日本では、欧米の書物が大量に翻訳された。しかし、そこに登場する概念は日本語や中国の古典にないものも多く、人々は新たな言葉を創出しながら翻訳を進めた。

このように日本で作られた漢字の新語(和製漢語)は、日清・日露戦争期の中国人留学生(→p.79)などにより中国に逆輸入され、朝鮮やベトナムにも広まった。それとともに、江戸時代以前に作られた訓読みの和製漢語も、アジアに広まっていった。

↓9 英語と日本・中国・朝鮮における翻訳語 それぞれ現在使われている表記である。

| 英語           | 日本語 | 中国語 | 朝鮮語 |
|--------------|-----|-----|-----|
| politics     | 政治  | 政治  | 정치  |
| economy      | 経済  | 经济  | 경제  |
| society      | 社会  | 社会  | 사회  |
| right        | 権利  | 权利  | 권리  |
| civilization | 文明  | 文明  | 문명  |
| history      | 歴史  | 历史  | 역사  |









フランス外務大臣  
ブリアン  
アメリカ國務長官  
ケロッグ

↑1 不戦条約の締結(1928年 フランス パリ)

読み解き 二つの史料から、不戦条約にはどのような課題点があるといえるだろうか。

**史料** 不戦条約(1928年)

第一条 締約国は、国際紛争解決のために戦争に訴えることを非難し、かつ、その相互の関係において国家政策の手段として戦争を放棄することを、その各々の人民の名において厳粛に宣言する。

第二条 締約国は、相互間に発生する紛争または衝突の処理または解決を、その性質または原因の如何を問わず、平和的手段以外で求めないことを約束する。  
(上原良子 訳)

**史料** 日本人の国際法学者による批評

不戦条約が禁止する「国家政策の手段」としての戦争は、実際、今日では見つけられず、どの戦争も自衛のためとして、少なくとも自衛の名において、遂行されるだろう。加えて、自衛が果たして自衛なのかは、個人間の正当防衛が裁判所によって判定されるのとは異なり、戦争を遂行する国自身が判定するのだから、自衛戦争を適法と認める不戦条約の下では、ほとんどすべての戦争は、適法の戦争として公認されるのである。  
(信夫淳平「戦時国際法講義」より要約)



| 年月      | 値段(マルク)         |
|---------|-----------------|
| 1919.12 | 0.8             |
| 1921.12 | 3.9             |
| 1922.12 | 163.15          |
| 1923.4  | 474             |
| .7      | 3,465           |
| .8      | 69,000          |
| .9      | 1,512,000       |
| .10     | 1,743,000,000   |
| .11     | 201,000,000,000 |
| .12     | 399,000,000,000 |
| 1924.1  | ※レンテンマルク 0.3    |

↑2 1kgのライ麦パンの値段(ドイツ)  
und Chronik



↑4 イギリスの女性参政権運動(1910年) 女性参政権運動を行ったことや、大戦中に徴兵制の実施などで男性労働者が出征した後、女性が労働力として活躍したことにより、その社会的地位が高まった(→p.98)。

国際紛争の解決手段としての戦争の違法化という現代につながる国際条約が史上初めて誕生したことがわかる。

ないと定め、戦争の違法化という新しい考え方を示した。しかし、自衛のための戦争を認めていたことから、解釈をめぐっては不明確な点を残した。

また20年代のヨーロッパでは、今日のヨーロッパ連合(EU)につながるパン=ヨーロッパ主義の考え方も生まれた。こうした国際協調の試みの一方で、戦後の国際体制への不満から、ドイツやイタリアなど、各国国内ではナショナリズムを掲げた大衆運動が台頭した。

**大衆の政治参加** この時期には人々の政治参加も各国で進んでいた。19世紀半ばには、アメリカやフランスで財産による制限選挙から男子普通選挙への移行が進んだが、アメリカでは黒人は除外されたままであった。女性の参政権運動は、19世紀後半、教育・職業の機会均等を求める女性運動と連携して行われた。その結果、世紀末には男女共学や女性の大学進学が始まり、看護師やタイピストなど新職種も誕生した。また、第一次世界大戦での社会進出によって、一部で女性も参政権を獲得した。

大戦中の借金が残り経済不振が続いたイギリスでは、国民が総力戦を担ったことから1918年に成年男性と共に女性にも選挙権が拡大した。その結果、戦後の国民の不満は労働党を躍進させ、24年には初めて労働党内閣が出現し、社会政策の充実が図られた。また、カナダやオーストラリアなど自治領に本国と同等の権利を認め、帝国から「イギリス連邦」となった。

こうして19世紀末以後、特権的な人々だけではなくすべての人々に社会の運営が委ねられたことで、大衆の意思が政治に大きな影響力を持つようになった。人々の持つ多様な要求を調整しながら国家を運営する必要から、イギリスを模範として、各国で政党政治に基づく議会制民主主義が発展した。また、大衆の政治参加や女性運動は日本へも波及した。

大衆の政治参加への動きが世界で広がり、日本にも同様の動きが波及したことがわかる。

1924年、アメリカの銀行家ドーズを委員長とする賠償特別委員会は、当分の間ドイツの賠償金の年間支払い額を減額するなど現実的な計画を立てた。この結果、ドイツの支払いも再開して、ルールからの撤退もなされた。

## 4 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加

学習課題 第一次世界大戦後、人々はどのようなことを望んだのだろうか。

前のできごと ヨーロッパ・アメリカ-p.107  
ヨーロッパ・アメリカ-p.115 次のできごと

### 未来へ活かす歴史 福祉国家の誕生

1919年 ヴァイマル憲法(ドイツ) 第151条 経済生活の秩序は、すべての人に、人たるに値する生存を保障することを目指す、正義の諸原則に適合するものでなければならない。

1946年 日本国憲法(日本) 第25条 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

19~20世紀にかけてヨーロッパでは、工業化や都市化などによって労働問題や社会問題が深刻化し、国家はその対応を迫られた。国家は労働・福祉・保健といったさまざまな領域で社会政策を展開した。特にヴァイマル憲法は、国民の社会的「生存権」(社会権の一つ)を認め、そのことが国家の基本原則とされた初めての憲法であり、各国の憲法にも影響を与えた。青少年や母性の保護、必要な生活費への配慮、労働者の権利の保障などを内容としたヴァイマル憲法は福祉国家の誕生とよびにふさわしいものであった。

**戦後ドイツの混乱と復興** 大戦後のヨーロッパでは当初、ソ連と社会主義に期待を寄せる人々と、これを脅威と見なし反発する人々が政治的に激しく対立した。ドイツでは共和国設立が宣言され、民主的なヴァイマル憲法が制定された(ヴァイマル共和国)。しかし敗戦と革命後の混乱は続き、ヴェルサイユ体制に対しても国民の不満が高まった。他方、フランスは、ドイツに対して強気な姿勢を示し、賠償不履行を口実にベルギーと共に工業地域のルール地方を占領した。これに対し、ドイツの労働者は仕事を放棄して対抗したため、極端な物価の上昇(インフレーション)を招き、ドイツ国民の生活は大きく混乱した。シュトレーゼマン首相は、新通貨レンテンマルクの発行によってインフレを終わらせ、その後外相となり西欧諸国との協調外交を進めた。さらに、ドーズ案が成立したことで、ドイツにアメリカの経済力に支えられた復興と安定化への道が開かれた。

**平和を模索する国際秩序の構築** 1925年にはヨーロッパの集団安全保障体制を定め、ロカルノ条約が成立した。この条約により、ドイツの西側国境の現状維持が保障され、翌26年にドイツの国際連盟加入が実現した。しかし、東側国境を保障しなかったことはソ連の不信を招いた。28年にはフランスとアメリカの提唱により、日本を含めた15か国によって不戦条約がパリで結ばれた。これは、国際紛争の解決に戦争を手段とし

| 年    | 国名             |
|------|----------------|
| 1893 | ニュージーランド       |
| 1917 | ロシア(ソ連)        |
| 1918 | イギリス、ドイツ       |
| 1919 | オーストリア、オランダ    |
| 1920 | アメリカ           |
| 1934 | トルコ            |
| 1944 | フランス           |
| 1945 | 日本、イタリア、インドネシア |
| 1947 | 中国             |
| 1948 | 大韓民国           |
| 1971 | スイス            |

↑5 各国の女性参政権の認められた年  
読み解き 1917年のロシア、1918年のイギリスとドイツ、1920年のアメリカでの女性の参政権の獲得には、どのような出来事が関連していると考えられるだろうか。

確認 ロカルノ条約と不戦条約についての説明を書き出そう。

説明 第一次世界大戦後、各国で大衆の政治参加はどのように進んだか、説明しよう。





↑2 フォード社の広告 (1926年)

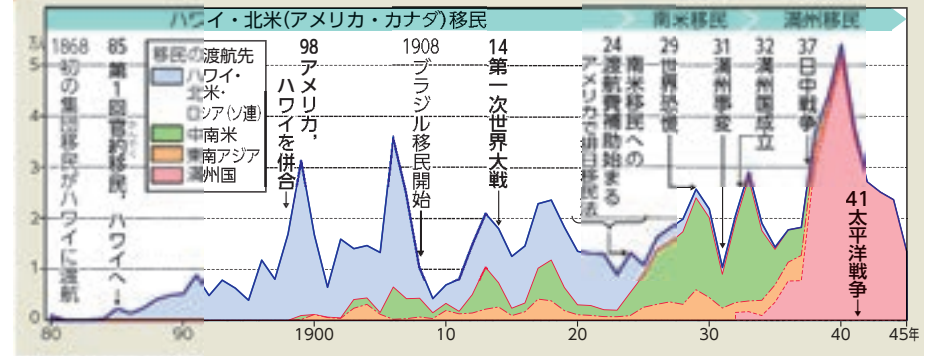
### ←1 自動車の普及

読み解き 同じ車が大量に路上を走るようになったのは、どのような生産・販売システムがあったのだろうか。

### 世界の日本 アメリカでの日本移民排斥

明治維新以降、日本の人口は一貫して増加し、働き口を求める海外への移民も増え続けた。1868 (明治元) 年に初の集団移民が渡航して以来、19 世紀日本人移民の大多数が向かう先はハワイであった。その後、移民先は北米にも広がったが、アメリカでは、日露戦争に勝利した日本への警戒 (→ p.79) もあり、しだいに日本人排斥の風潮が高まった。そのため日米紳士協約が結ばれ、日本政府は対米移民を自主的に制限した。しかし、アメリカ国内にはその実効性に不満を持つ人々がいたため、1924 年に日本人移民を完全に禁止する排日移民法が成立した。以後日本人移民は、中南米や満州に向かっていった (→ p.128)。

→6 ハワイのさとうきび畑で働く日本人女性労働者



↑5 日本人移民数の推移

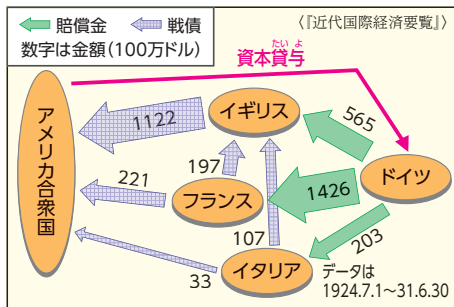


↑7 排日移民法に抗議する人々 (東京)

## 5 大衆社会の出現とアメリカの繁栄

学習課題 第2次産業革命以降、欧米などで形成された大衆社会とは、どのようなものだろうか。

前のできごと 日本→p.109, ヨーロッパ・アメリカ→p.113  
日本→p.117, ヨーロッパ・アメリカ→p.123 次のできごと



↑3 アメリカとヨーロッパの関係



↑4 クー=クラックス=クラン (KKK) の集会  
1920 年代には白人以外の、黒人やアジア人を排除しようとする組織が活発化した。背景には、移民法の成立をはじめとする黒人や移民に対する差別や敵意が強まったことがあった。

### 大衆社会の出現

19 世紀末から 20 世紀初めは、西ヨーロッパを先頭に、現在へとつながる社会のしくみが築かれた時代だった。西ヨーロッパでは、第 2 次産業革命による生産拡大と賃金の上昇、植民地からの収益などが国民の生活水準の上昇と均一化をもたらした。この結果、農民・労働者など職業的な枠を超えた新しい集団 (大衆) が国民の多くを占める大衆社会が成立した。

また、第 2 次産業革命によって新商品が大量生産されるようになった。商品は各国で発展した百貨店などによって消費者に橋渡しされ、大量消費の時代が始まった。それはまた、大衆文化の始まりでもあった。労働時間の短縮で余暇が生じ、海水浴場や遊園地、旅行社などのレジャー産業が発展した。安価な新聞・雑誌や大衆小説が登場し、サッカー・テニスなどの近代スポーツ、ポピュラー音楽や映画なども普及した。文化的な諸要素もまた大衆向けの「商品」となり、消費されるようになったのである。ただし、こうした動きが見られたのは、先進資本主義国だけであった。

### 繁栄するアメリカ

アメリカは、第一次世界大戦中に自国が戦場とならなかつたこともあり、連合国へ物資を提供し、多くの資金を貸与した。また、戦後は戦勝国への賠償金に苦しむドイツにも資金を貸した。こうして、国際金融の中心は、イギリスのロンドンからアメリカのニューヨークに移り、経済や文化の面でアメリカは繁栄の時代を迎えた。

アメリカにおける大衆社会の出現がわかる。

国内では、第一次世界大戦前から政府の機能が強化され、独占資本による市場の支配を抑えながら所得格差や労働条件の改善が行われた。その結果、白人のホワイトカラー層を中心に購買力のある人々が增大していた。

そして、広告を用いる大量販売にも支えられ、自動車や冷蔵庫・洗濯機といった電気製品が効率的・合理的に大量生産されて急速に普及し、アメリカ的生活様式が確立した。映画やラジオといった新しいマスメディアが用いられ、映画やジャズ音楽などアメリカの大衆娯楽は世界へ広がった。

しかし、こうした繁栄は主にアングロ=サクソン系プロテスタントの白人中産階級のものであり、その社会のなかには社会主義を敵視する気運が高まり、黒人やアジア系などの移民を排斥しようとする動きも強まった。

### マスメディアの発達と大衆社会

先進国での大衆社会の成立には、マスメディアの発達も大きな役割を果たした。各国で義務教育が整備され識字率が上がると、各国で巨大な発行部数を誇る新聞が生まれた。マスメディアの発達は、情報を握る少数の人々による大衆操作の危険をはらみながら、考え方の面での国民統合を進めた。一方、大都会のなかでかつての共同体的な結び付きを失い、巨大な情報に覆われた大衆社会では、人々はアイデンティティ喪失の危険性にさらされるようになった。

日本でも、第一次世界大戦と前後して、大衆社会が形成され、都市部の大衆の生活を支えるマスメディアや文化も発達した。新聞のなかには部数が 100 万部を超えるものが現れ、1 冊 1 円の円本や文庫本が発刊された。1925 年には、日本でもラジオ放送が開始された。

日本でも同時期に大衆社会が形成されたことがわかる。

① 不特定多数の大衆に向けて情報を発信する媒体を指す。

### 多くのアニメーション映画を生み出したウォルト=ディズニー (1901~66)

ウォルト=ディズニーの代表的なキャラクターは、1928 年に短編アニメーション映画に登場すると、アメリカ国民の心を捉え、世界恐慌 (→ p.123) のなかでも人気を博した。また、アニメーション映画の新技术を次々に導入し、これを新しいメディアへと発展させ、そのキャラクターを絵本や雑誌、キャラクター商品として売り出した。戦後はテーマパークも建設し、20 世紀の大衆消費文化をけん引した。

確認 大衆社会の特徴についての説明を、本文から書き出そう。

説明 マスメディアの発達はどのような問題を生み出したか、説明しよう。





### 史料 吉野作造の民本主義

民本主義とは、法律の理論上主権が誰にあるかを問うのではなく、ただその主権を行使するにあたって、主権者は、当然一般民衆の福利と意向を重んじることを方針とすべきという主義である。つまり、国権の運用に関してその指導的標準となるべき政治主義であって、主権が君主にあるのか人民にあるのかを問うところではない。  
(「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」『中央公論』1916年1月号より要約)



↑2 吉野作造 (1878～1933) 宮城県出身の政治学者。東京帝国大学法学部教授。「大正デモクラシー」をけん引した論客で、民本主義を提唱した。

←1 普通選挙を求めて集会参加をする人々 (1919年)

読み解き 民本主義のどのような点が、普通選挙を求める人々に受け入れられたのだろうか。

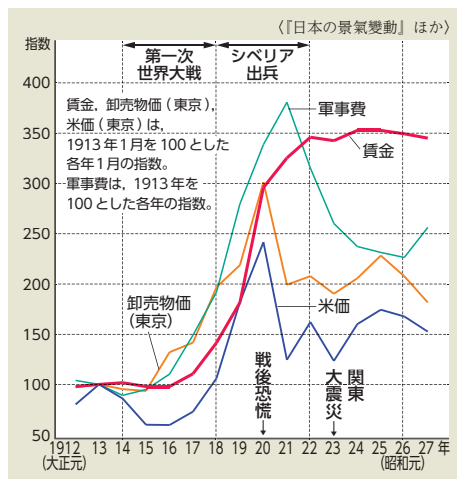
## 6 日本における大衆社会の形成

学習 日本では、どのようにして大衆社会が形成されていったのだろうか。

前のできごと 日本→p.115 日本→p.127 次のできごと

① 政治の目的は民衆の幸福にあり、政策決定は民意に従うべきであるとする考え方。吉野は、民主主義という言葉を使い、主権がどこにあるかをあえて問わないことによって、大日本帝国憲法の下での政党政治発展を図った。

② 統治権(主権)は国家に属し、天皇は憲法に基づいて統治権を行使する国家の最高機関であるとする学説。「大正デモクラシー」の時期には通説的位置を占めたが、1930年代になると軍部や右翼から攻撃された(→p.129)。



↑3 第一次世界大戦期とその後の物価指数

### 世論の発達と 政党内閣の発展

世界で広がっていた大衆の政治参加の動きは、日本でも始まっていた。日本では、大正時代に入ると、世論を政治に反映しようとする動きが本格化した。陸軍や藩閥を基盤とした桂太郎内閣が成立すると、1912年から翌年にかけて、これに反対する第1次護憲運動が起こり、同内閣は総辞職へと追い込まれた(大正政変)。大衆運動によって内閣が倒れたのは、日本の憲政史上初めてであった。

以後、政党を中心とした政治運営が進み、「大正デモクラシー」とよばれる民主主義的な風潮が強くなっていった。このころ、政治学者の吉野作造は民本主義、憲法学者の美濃部達吉は天皇機関説を唱え、政党政治発展のための理論的な根拠を示した。

第一次世界大戦中、日本は好景気(大戦景気)に沸いたが、庶民は物価上昇に苦しみ、18年には、シベリア出兵をきっかけとして、米の安売りを求める暴動が発生した。この米騒動によって藩閥を基盤とした内閣が退陣し、立憲政友会党首の原敬が内閣を組織した。原内閣は、閣僚の大部分を政友会員が占める、初めての本格的な政党内閣であった。「平民宰相」とよばれた原は、世論の支持を背景に、選挙法改正による選挙権の拡張、陪審制の導入、高等教育機関の拡充、地方のインフラ整備などを推進した。

### 「憲政の常道」の時代

原内閣のあとは再び非政党による短命政権が続いたが、1924年に政党勢力が普通選挙の実施を掲げて第2次護憲運動を起こした。そして総選挙に勝利し、憲政会党首の加藤高明が首相に就任した。翌25年、加藤内閣は、満25歳以上の男性に選挙権を

### 未来へ活かす歴史 女性による社会運動

明治時代、女性の社会的活動は制限されていた。衆議院議員選挙法では、女性の選挙権・被選挙権が認められず、民法(→p.74)でも、戸主を頂点とする家制度の下で、女性は婚姻や相続で不利な地位に置かれていた。しかし、平塚らいてうが1911年に雑誌『青鞥』を創刊し、「元始、女性は実に太陽であった」と宣言するなど、女性の社会運動は活発化した。第一次世界大戦後、欧米での女性参政権獲得に刺激され(→p.114)、女性の参政権運動が盛り上がった。20年には、平塚や市川房枝が新婦人協会を結成し、その努力により女性の政治集会への参加が公に可能になった。しかし、女性参政権の実現は、戦後を待たなければならなかった。



→4 平塚らいてう(1886～1971)

与える男子普通選挙を実現させた。一方で、社会主義者への取り締まりを強化する声も強まり、同年に治安維持法も成立させた。その後同法は改定によって刑罰が強化され、社会運動全般の取り締まりに利用されていった。

加藤内閣以降約8年間、憲政会(後に立憲民政党)と立憲政友会が交互に政権を担当する時代が続いた。第1党の党首が内閣を組織する慣例は、「憲政の常道」とよばれ、主要新聞や知識人から支持された。しかし、その慣例が出来たものの、首相は元老とよばれる長老政治家によって決定されており、総選挙の影響力はまだ不十分であった。

普通選挙法によって有権者数は従来の約4倍に増加し、世論の政治への影響力は増した。ただし、民意が政治に反映されやすくなったため、地方への利益誘導や汚職が盛んになるなど、政党政治の発展には負の側面もあった。また、反対党の国際協調外交や軍縮を軟弱だとして批判するなど、政党が政権獲得という党の利益を優先したことは、かえって国民の政党への信頼感を低下させ、後に軍部への期待を高めていく結果となった。

### 大衆社会の形成と 社会運動の発展

大戦中の好景気は、農村から都市への人口移動や都市の急速な発展をもたらした。大学や専門学校が増設され、男女共に進学率は高まった。都市に住み、学校教育で育った大衆が、有権者として政治に参加し、社会運動の担い手ともなった。

第一次世界大戦以降、ロシア革命、大戦景気による労働者の増加をきっかけに、日本でも労働運動や社会主義運動が活発化した。大戦後のヨーロッパでの活動に刺激されて、さまざまな女性運動も発展したほか、全国水平社、北海道アイヌ協会、日本農民組合などによる、社会・経済的弱者や差別を受ける立場の地位向上などを求める運動も広がった。

2章の 第一次世界大戦後に形成された国際協調体制と民族自決は、世界平和の実現にどの程度貢献できたのか、あ世界の流れを受けて日本でも、大衆の政治参加の動きが起きていたことがわかる。

### 政党政治発展の立て役者

原敬(1856～1921)と加藤高明(1860～1926)

原は、戊辰戦争で敗れた盛岡藩(現在の岩手県)出身で、苦学して新聞記者になり、外交官などを経て立憲政友会に入った。実権を握っていた元老や陸軍と時に妥協しつつも、厳しく対抗し、政党政治への転換を実現した。加藤は、東京大学卒業後、三菱に入社し、駐英大使などを歴任した。その後イギリス流の政党政治実現を目指して政界に転じ、大隈内閣では外相として二十一か条要求を押し進めた(→p.102)。憲政会を、立憲政友会に対抗する二大政党の一翼に育て上げ、首相時代には国際協調外交(幣原外交)を推進した(→p.110)。



↑5 原敬



↑6 加藤高明



↑7 街かどに貼られた普通選挙の候補者ポスター

### 史料 治安維持法(1925年)

第一条 国体\*を変革し又は私有財産制度を否認することを目的として結社を組織し又は情を知りて之に加入したる者は十年以下の懲役又は禁錮に処す \*ここでは天皇制を指す

### 史料 改正治安維持法(1928年)

第一条 国体を変革することを目的として結社を組織したる者又は結社の役員その他指導者たる任務に従事したる者は死刑又は無期若しくは五年以上の懲役若しくは禁錮に処し情を知りて結社に加入したる者又は結社の目的遂行の爲にする行為を為したる者は二年以上の有期の懲役又は禁錮に処す...

確認 「憲政の常道」に関する説明を本文から書き出そう。

説明 大正時代の日本でデモクラシーは実現したといえるのか、あなたの考えとその理由を説明しよう。



## FILE.6 衣服

### 女性の社会的地位の変化とファッション

ものから  
見る歴史



←1 モード大臣ともよばれたローズ=ベルタン(1747～1813)王妃の庇護の下、次々に新しい流行を生み出した。

→2 「レカミエ夫人」の肖像画(ダヴィド作) 総裁政府期から帝政期にかけて、パリ社交界で世界一の美女とよばれた女性。革命前の体を締め付けるスタイルから解放されたドレスは、離婚の自由が認められていた時期(→p.44)の女性の法的地位と呼応していた。



←3 19世紀後半のパスルスタイルクリノリンスタイルでは、鯨のひげなどの枠に重ねたペチコートによって円形ドーム型に膨らませたスカートの特徴としていたが、パスルスタイルでは、スカートの後方みにボリュームを持たせた。パスルスタイルも、重厚さがあり、精巧で複雑な仕立てであることには変わりなかった。

#### ●女性の社会的地位と衣服

フランス革命前の社会では、国王ルイ16世(→p.35)の妃マリ=アントワネットに代表されるように、王妃が服飾文化を主導していた。身分制社会の位階秩序のなかで最高位の女性である王妃は、衣装においても権威を再生産していくことが求められた。王妃が重用したのが、仕立屋で衣装デザイナーのローズ=ベルタンである。平民出身のベルタンがパリに構えた店は、「王妃風」の衣装を求め人であふれ返った。貴族ではない人々も王妃と似た衣装を手に入れることができるというのは、身分を超えて女性たちが同じ衣装を身に着けることを可能にした点で画期的であったが、身分秩序を揺るがせると危機感を抱く貴族たちもいた。

#### ●コルセットからの解放と回帰

ベルタンは、それまでの重く身体を締め付けるドレスに替えて、より楽で快適な服装を模索し、モスリンの簡素でゆったりしたドレスを流行させた。こうした衣装の変革は、革命期に、女性の社会的地位の向上とも連動して、透けるような布地を用いた直線的で軽やかな衣装として完成された。身体を締め付けない衣装は、皇帝ナポレオン(→p.37)の妃ジョゼフィーヌが着用したことからエンパイアスタイルともよばれ、現代のウェディングドレスにおいても人気のあるデザインとなっている。



←4 軍需品を製造する女性を描いたポスター(20世紀 イギリス) 「軍需品の製造を学ぼう」と訴えるポスターでは、第一次世界大戦下に「果たすべき役目を務めている」女性たちが描かれた。軍需工場働く女性たちは、働きやすい膝下丈のストレートスカートに作業着をはおっている。

その一方で、女性の服装の流行において、王政復古期(→p.47)から、再びコルセットで身体を締め付けるスタイルへと回帰する動きが見られたことは、19世紀に女性が夫に従属する法的地位へと戻されたことと連動していた。19世紀半ばから20世紀初めに流行したクリノリンスタイル、パスルスタイルに代表されるように、上流階級の女性の服装は、重くて非活動的で高額でもあった。そして、美しく着飾った女性は、独立した個人としてではなく、夫の経済力を示す飾りと見なされていた。また、貧しい女性は、古着を手に入れて着るしかなかった。

#### ●第一次世界大戦と女性

総力戦の時代となった第一次世界大戦期(→p.98)には、軍事基地や軍需工場、輸送・交通機関など、それまで女性には閉ざされていた労働の場において、女性が必要とされるようになり、女性の衣服は、働きやすいものへと変化した。大きく膨らませていたスカートは、ストレートに広がるものとなり、スカート丈も、足首を覆うものからくるぶし丈へ、さらには膝下丈へと短くなっていった。女性たちの働きやすい環境への要求は、女性の衣服を変える大きな力となったばかりでなく、女性の社会的地位の向上も目指された。このような風潮のなかで、北欧諸国やドイツ、ソ連では、1919年までの間に女性参政権も認められていった。

3部2章で学んだ女性の社会的地位の変化を、ファッションの視点から捉えられる。

## 3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち

# 3章 日本の行方と第二次世界大戦

3章の学習課題 大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのだろうか。



ヒトラーを支持する大衆の様子を動画で視聴できる。



↑2 ヒトラーの選挙ポスター(1932年) 「われら最後の望み ヒトラー」と書かれている。

↑1 ナチ党の収獲祭で参加者に握手をするヒトラー(1937年) ナチ党の党大会や収獲祭の写真には、このように多くの人々が写っているものも多い。

#### 資料から考えてみよう

- A 図1から、ヒトラーについてどのような印象を受けただろうか。また、そのような印象を持った根拠は写真のどこにあるだろうか。
- B 図2で、民衆はどのように描かれているだろうか。
- C 図1と2を見た当時の人々は、ヒトラーをどのようにとらえたと考えられるだろうか。

#### 現在とのつながり

現在の私たちは、第二次世界大戦の反省から、多くのことを学ばべきだと知っている。しかし、私たちが同じ場所、同じ時代に生きていたら、時代の流れに逆らうことはできるだろうか。

3部3章は、世界恐慌から第二次世界大戦が終結するまでの流れを中心に学んでいく。戦争に至るまでの動きや戦争に対して当時の人々はどのように関わっていたのか。この章では、その様子に注目して学んでいこう。

←3 集会を行うギリシアの極右政党(2019年) 現在でも不況などの危機になると極右政党や、排外主義・暴力で解決しようとする勢力が台頭する。





↑1 満洲事変を擁護する新聞記事(『東京日日新聞』1931年10月27日)



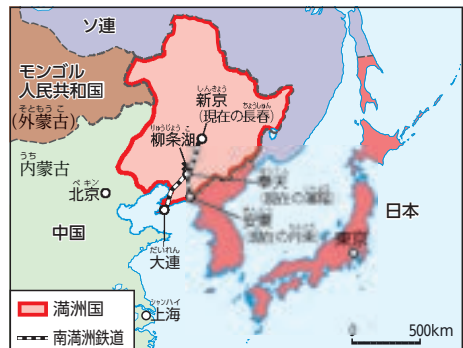
↑2 日本の行動を非難する風刺画(1933年 アメリカ)

読み解き 図1の記事では、満洲とその権益をどのようなものだとみなしているだろうか。また、日本の行動に対する海外の反応はどのようなものだろうか。

### 3 政党政治の断絶と満洲事変

学習課題 なぜ、日本は満洲へ進出したのだろうか。

前のできごと 日本→p.117, 東アジア→p.109  
日本・東アジア→p.129 次のできごと



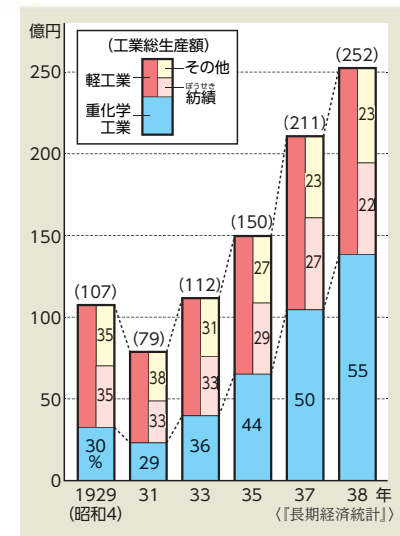
↑3 建国時の満洲国の範囲

- 1 日本の権益はロシア権益を引き継ぐものだったが、二十一か条要求で、改めて確認され延長されていた(→p.102)。
- 2 日露戦争後、満鉄の鉄道守備隊と、遼東半島の日本の租借地の守備隊を合わせて編制された軍。
- 3 事変とは、宣戦布告なき国家間の軍事衝突・戦闘を意味する。日本政府は、当初不拡大を表明しており、不戦条約違反を問われたり、国際連盟から批判されたりすることを避けたかったため、事変という呼称を使用した。

**世界恐慌と日本** 第一次世界大戦後の日本は、ヨーロッパ経済の回復によって慢性的な不況に悩まされた。関東大震災が経済に大打撃を与え、その後の混乱などから金融恐慌が発生した。1929年に成立した浜口雄幸内閣は、緊縮財政によって経済再建を図ったが、翌30年には世界恐慌の影響も到来し、日本は昭和恐慌とよばれる深刻な不況に見舞われた。日本の生糸や綿製品の輸出は激減し、失業者は250万人にも達した。不況を打開できない政府や政治家に対して国民の不満が高まり、政治不安からテロが横行した。浜口首相は東京駅で狙撃されて重傷を負い、辞任に追い込まれた。32年5月15日には、犬養毅首相が海軍の青年将校らによって暗殺された。この五・一五事件によって、政党政治の時代は終わった。以後、軍部が政治的に台頭し、政党もテロを恐れて無力化した。

**満洲事変** 日露戦争で獲得した満洲の日本人社会も、不況に見舞われていた。現地では、国民政府や中国人商工業者による日本への対抗策も展開され、日本の権益が失われるという人々の危機感が増していた。この事態に日本政府が有効策を講じられなかったため、軍部や右翼を中心に軍事的手段を用いて危機の打開を図ろうとする声が高まった。この状況を利用したのが、満洲と内モンゴル東部を日本領とすべきであるという「満蒙領有論」を主張し始めていた関東軍であった。

1931年9月18日、関東軍は奉天(瀋陽)郊外の柳条湖で南満洲鉄道株式会社(満鉄)の線路を爆破する事件を起こし、中国側が行ったことだと主



↑4 重化学工業の発展

**歴史の選択肢** 中国大陸進出に対する日本国内の反応

1920年代までは、満洲を中国の一部だと認める新聞紙が多かったが、満洲事変発生後、ほぼ全紙が日本の軍事行動を自衛だと擁護し、満洲の独立を認める論調になった。国民の多くも同調したため、幣原外相(→p.110)は事変不拡大の方針を維持できなくなった。事変を批判したのは、吉野作造(→p.117)、石橋湛山(→p.104)らごく少数であった。

**陸軍少佐が地方の農民に向けて行った演説(1930年ごろ)**  
諸君は五反歩の土地をもって、息子を中学にやれるか、娘を女学校に通わせられるか。ダメだろう。…他人のものを失敬するのは褒めたことではないけれども、生きるか死ぬかという時には背に腹はかえられないから、あの満蒙の沃野を頂戴しようではないか。  
\*約0.5ヘクタール (加藤陽子『満洲事変から日中戦争へ』)

**満洲事変に対する石橋湛山の意見(1931年9月26日)**  
この問題の解決が困難なのは、つまり満蒙が中国の領土であるからだ。…中国人が、彼らの領土と信じる満蒙に、日本の主権の拡張を嫌うのは理屈ではなく、感情である。…いくら善政を敷かれても、日本国民は、日本国民以外の者の支配を受けることを快いと感じないように、中国国民にもまた同様の感情があることを許さねばならぬ。

考えよう なぜ、日本国民は中国大陸への進出を支持したのか考えよう。

張して攻撃を始め、満洲を占領した(満洲事変)。翌32年、日本軍はこの地に満洲国をつくり、清朝最後の皇帝であった溥儀を執政(34年より皇帝)としたが、実権は関東軍を中心とした日本側が握っていた。

この事態に対し中国は、国際連盟に提訴して紛争の解決を図った。国際連盟はリットン調査団を派遣し、満洲の主権は中国にあるとする一方で、実質的に日本の権益を認める内容の報告を発表した。しかし33年、国際連盟総会で満洲国の不承認が可決されると、日本は、国際連盟主導による経済制裁などを回避する思惑もあり、連盟を脱退した。

こうした日本の軍事行動は、中国における現状維持などを決めた九か国条約に違反しており、また、不戦条約締結後の国際秩序を崩す最初の行動となった。軍事的制裁手段を持たない国際連盟は有効な手段を取れず、その権威を低下させ、国際協調体制は大きく揺らぐこととなった。

**日本の経済回復** 日本国内では、多くの新聞が満洲事変を積極的に支持し、昭和恐慌に苦しむ国民も軍が不況を打開することを期待した。満洲事変後に蔵相を歴任した高橋是清は、政府支出を増大し、大規模な公共投資を行った。この結果日本は、資本主義国のなかで真っ先に不況から立ち直った。既成財閥主導の下で重化学工業が発展し、急成長した新興財閥は朝鮮・満洲との経済的結び付きを強化した。しかし綿製品などの輸出増大により、ブロック経済を採ったイギリスなどとの貿易摩擦は深刻になった。一方、目的を達成した関東軍は、共産党との対立を抱えた中国国民党軍と、1933年に停戦協定を結び、中国と満洲国の間に中立地帯を設定した。以後日本は、軍事的手段による勢力拡張を抑制し、満洲国の育成に力を注ぎ、日本からの移民政策を推し進めた。

- 4 1933年3月に正式に脱退を通告し、1935年に発効した。
- 5 平和的な制裁手段が検討された結果、1935年にアメリカで交戦国への武器の輸出を禁じた中立法が作られるなど、経済的な制裁が整備されていった。
- 6 世界恐慌後の不況のなかで、三井、三菱、住友などの財閥が市場を独占するようになった。財閥は、持ち株会社を通じて多くの企業を傘下に収め、支配を強化した。

**日本のケインズ**  
高橋是清(1854~1936)

アメリカで奴隷として売られるなど波乱の青年期を過ごした後、官界に入り、日銀総裁、総理大臣などを歴任した。満洲事変後、大蔵大臣として積極的な財政政策を取り、不況からの脱出に成功したため、「日本のケインズ」とも称される。軍事予算の抑制に努めたことから、陸軍の青年将校に敵視され、二・二六事件(→p.129)で殺害された。

**確認** 日本は軍事行動はどのような条約に違反していたか、本文から書き出そう。

**説明** なぜ、日本人々は、軍部による満洲への進出を止めることができなかったのか、あなたの考えを説明しよう。





ベルリンの壁の開放の様子を動画で視聴できる。



◀1 「ベルリンの壁」の開放(1989年) 1961年に築かれたコンクリートの壁は、89年11月に東ドイツにおける民主化運動の高まりのなかで壊され、開放された。壁の崩壊は冷戦終結の象徴であり、翌90年に東西ドイツの統一が実現した。その後、壁は撤去されたが、一部は記念碑として残されている。

読み解き 「ベルリンの壁」が開放されたとき、人々はどう感じたのだろうか。壁の建設の時期(→p.145)と比較して考えてみよう。

## 1 冷戦の終結と変わる世界構造

学習課題 冷戦体制が終結したことで、世界構造はどのように変化したのだろうか。

前のできごと ヨーロッパ・アメリカ→p.177  
ヨーロッパ→p.193, アメリカ→p.189 次のできごと

**東欧革命とソ連の解体** 東欧では、1980年にポーランドでワレサ率いる自主労組「連帯」による民主化運動が起こり、80年代のハンガリーでも経済の自由化と政治改革が進むなど、改革の試みが始まっていた。そこへ、ソ連のゴルバチョフによるペレストロイカが始まった影響もあり、ポーランドでは、89年の選挙で非共産党政権が生まれた。これを初めとして、89年に次々と共産党政権が倒れた(東欧革命)。また、ドイツでは、東ドイツの人々が東欧経由で西ドイツへの移動が可能になった状況を受け、冷戦の象徴であった「ベルリンの壁」が、89年に開放された。そして、翌90年、東ドイツが西ドイツに併合された(東西ドイツ統一)。この年は多くの国で自由選挙が行われ、東欧の脱社会主義が明白となった。

ソ連のペレストロイカは、対外的には緊張緩和をもたらし、89年の米ソ首脳会談(マルタ会談)で冷戦終結が宣言された。国内では共産党の単一支配が廃止され、市場原理の導入が目指された。また、ソ連内の民族独立運動が高まり、リトアニアなどバルト3国がソ連からの独立を宣言した。

91年、ソ連解体の動きに危機感を抱いた保守派は、ゴルバチョフを軟禁するクーデタを試みたが、ソ連構成国であるロシア共和国のエリツィン大統領と市民らの抵抗によって失敗し、ソ連共産党は解散した。各共和国もソ連を離脱して、新たにロシア連邦を中心にいくつかの共和国が独立国家共同体(CIS)を創設し、ソ連は解体した。

また、多民族国家であったユーゴスラヴィア連邦は、政府が弱体化して分裂した。連邦崩壊に伴い宗教・民族・言語の違いによる問題が噴出し、

**冷戦を終わらせた書記長**  
ゴルバチョフ(1931～2022)

ブッシュ(米) ゴルバチョフ(ソ)

1985年書記長に就任したゴルバチョフは、グラスノスチ・ペレストロイカによって体制の改革に乗り出し、「歴史の空白を埋めよ」と過去の政策の見直しを進め、結果的にそれは91年8月のクーデタ、その後のソ連解体につながるようになった。「ベルリンの壁」が開放された直後の1989年12月に、ゴルバチョフは、アメリカのブッシュ大統領とマルタ島で会談し、両者が「冷戦は終わった」と宣言した。その後、冷戦終結に貢献したとしてノーベル平和賞を受賞した。

## グローバル化に伴う地域統合をEU誕生を事例に学べる。

未来へ活かす

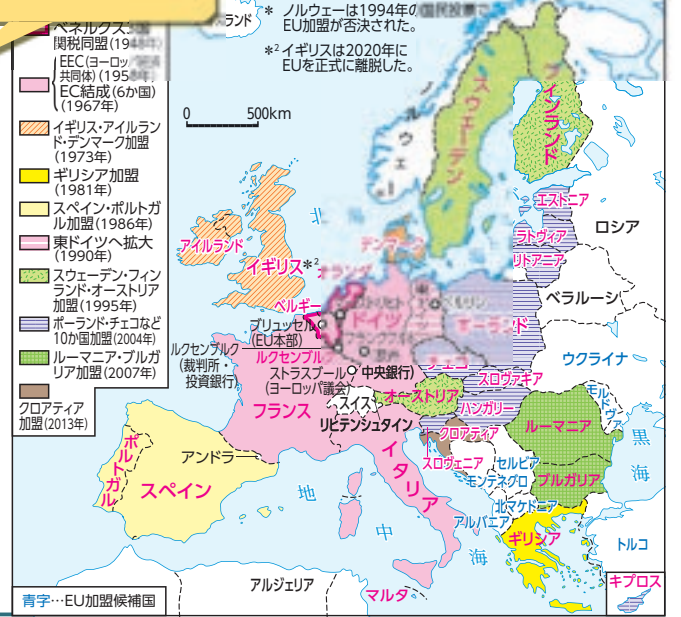
### 拡大するヨーロッパ連合(EU)と国際情勢の変化

冷戦後のグローバル化の進展に伴い、地域統合は、国境を越えた地域の広がりのなかで経済活動を活性化させるとともに、大きな市場を背景にこれを管理する役割を負った。特に1993年に誕生したEUは、単一通貨(ユーロ)を導入し、2004年には、かつての東欧の旧共産圏へ一気に拡大した。しかし2010年代に入るとギリシアの財政赤字を引き金にユーロ危機に陥り、大量の難民の流入やEU内部の経済格差、EUの理念などに関する考え方の違いは内部対立を生んだ。イギリスのEU離脱(→p.193)など混迷は深まるが、戦争という過去を乗り越え新しい政治と経済を模索するEUへの期待も大きい。



◀2 欧州中央銀行(2002年) ユーロは、世界市場において単独で競うには小さすぎる国(通貨)でも、EUとして結束することで競争力を高められるということを世界に証明した。

▶3 ヨーロッパ連合(EU)の拡大



ボスニア・ヘルツェゴヴィナやコソヴォで激しい民族紛争が起こった。一方、93年にはチェコとスロヴァキアが平和的に分離した。

### グローバル化と世界構造の変化

ソ連と東欧の社会主義政権の崩壊によって、資本主義対社会主義といったイデオロギーの対立や、国家を単位とした国際社会の様子は変化し、国境を越えた活動がより活発となった。こうして世界規模に市場が拡大して世界の一体化が進み、経済や文化において相互に依存を強めていくグローバル化が急速に進んだ。

冷戦は核戦争の危機をもたらしたが、一方で勢力均衡による安定を生み出してもいた。しかし、冷戦終結によって、その枠組みのなかで抑えられていた地域紛争や民族間の対立といった問題が世界各地で生じるようになった。ソ連解体後、軍事・政治的にはアメリカが唯一の超大国となり、アメリカを中心に国際秩序が形成されるとも考えられたが、経済的にはほかの地域や国も力を付けてきており、地域の安定や紛争の解決のために、新たな国際的枠組みや協力が求められるようになった。

### 地域統合の進展

冷戦の終結とグローバル化の進展は、国家の枠を超えた地域経済圏を形成する地域統合の動きも加速させた。特に二度の世界大戦と冷戦の対立の主な舞台であったヨーロッパでは、1993年にマーストリヒト条約が発効して、ECがヨーロッパ連合(EU)へと発展し、多くの構成国で単一通貨(ユーロ)の導入が進んだ。旧社会主義国家を加えて拡大するEUは、2020年時点で27か国となり、単なる経済圏にとどまらず、外交や安全保障の共通化による一層の統合の深化を目指しているが、EUへの権限移譲に反対する動きも起こっている。

### 未来へ活かす歴史 ユーゴスラヴィアの解体

ユーゴスラヴィアは、「七つの国境、六つの共和国、五つの民族、四つの言語、三つの宗教、二つの文字、一つの国家」と称された、多民族の連邦制国家であった。社会主義政権崩壊のなかで、セルビア共和国に属するコソヴォ自治州に起こった民族対立を契機に、各共和国では民族主義的傾向の強い政権が誕生した。経済的に先進的なスロヴェニア、クロアチアなどが次々と独立し、連邦は解体した。民族対立がおおられ、激しい民族紛争と「民族浄化」など多くの犯罪行為が行われた。

#### ◀4 ユーゴスラヴィアの解体



確認 グローバル化の説明を、本文から書き出そう。

説明 冷戦の終結によって、なぜ地域紛争が勃発したり、地域統合が進んだりするのか、説明しよう。





←↑1 アメリカの雑誌に載せられたクウェートの広告(1991年5月27日) 日本は、湾岸戦争の多国籍軍に約1兆7千億円の資金援助を行ったものの、アメリカ中心の多国籍軍に対する感謝を表したこの広告には、日本の国名がなかった。



↑2 湾岸戦争後の自衛隊派遣に反対する人々(1991年)

読み解き 政府は、人々の反対にもかかわらず、なぜ自衛隊の派遣を決めたのだろうか。

| 開催年                           | 名称             | 参加国・地域数 | 主な交渉事項   |
|-------------------------------|----------------|---------|--|
| 第1回                           | 1947年 ジュネーブ    | 23      | 鉱工業品   |
| 1948年1月 関税と貿易に関する一般協定(GATT)発足 |                |         |  |
| 第7回                           | 1973~79年 東京    | 102     | 鉱工業品、補助金、ダンピング禁止                                 |
| 第8回                           | 1986~94年 ウルグアイ | 123     | 鉱工業品、補助金、ダンピング禁止、農業、サービス、知的所有権、紛争解決処理            |
| 1995年1月 世界貿易機関(WTO)発足         |                |         |  |
| 第9回                           | 2001年~         | ドoha    | 鉱工業品、補助金、ダンピング禁止、農業、サービス、知的所有権、紛争解決処理、貿易円滑化、環境問題 |

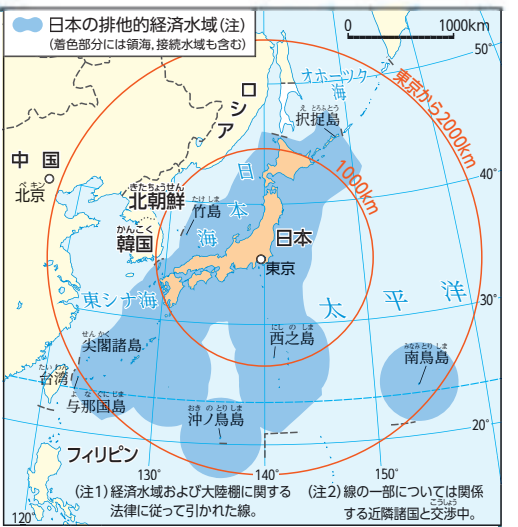
↑4 自由貿易体制 関税などの貿易障壁を最小限にし、自由貿易のルール作りをする国際組織として、WTOが発足した。しかし、加盟国が増加し、先進国と新興国との対立も課題となっている。

**未来へ活かす歴史**

### 日本の領土と周りの国々

北方領土は、現在までロシアが不法占拠を続けており、そのため日中間では平和条約が締結されないままとなっている。竹島は、サンフランシスコ条約締結時に、日本の領土として扱われていたが(→p.150)、韓国は竹島に警備隊員などを常駐させ、灯台を設置するなど不法占拠を続けている。尖閣諸島については領土問題は存在しないが、中国や台湾が領有を主張している。特に海洋進出を目指す中国では、反日運動が発生するなど、日本の領有に強く反発している。

→5 日本の排他的経済水域



## 4 国際環境の変化と日本

学習 国際環境の変化によって、日本の政治や社会は、どのように変わったのだろうか。

前のできごと 日本・東アジア→p.187  
日本・東アジア→p.193 次のできごと

### 未来へ活かす歴史

#### カンボジアPKO派遣

カンボジアでは、1978年末のベトナム侵攻後、内戦が勃発したが、冷戦の終結もあり、91年に終結した。国連は、暫定政府が成立するまでの間、国連平和維持活動(PKO)を行うことを決定した。日本は、PKO協力法に基づき、92年、文民警察官と自衛隊を現地に派遣し、1200名あまりの自衛隊員が道路や橋の修理といったインフラ整備に携わった。冷戦の終結後、世界各地で民族紛争などが増加したため、日本も内容に合わせて自衛隊を派遣するなど多くのPKO活動に携わっている。PKO活動への参加は、日本が国際社会の一員として、世界の平和と安全に貢献していく手段として、運用されている。



↓3 道路を整備する自衛隊員(1992年)

**冷戦終結後の国際貢献** 冷戦終結後、日本は、主要先進国の一員として、世界の安全保障にどのように関与するかが問われるようになった。1990年にイラクがクウェートに侵攻すると、日本にも人的支援が求められ、自衛隊の派遣が検討された。しかし、法整備も不十分なうえ、国内世論の反対が強く実現しなかった。日本は巨額の資金協力をを行い、湾岸戦争後にペルシア湾へ掃海艇を派遣したが、アメリカは日本の貢献が不十分であると批判した。これがきっかけとなり92年、国連平和維持活動(PKO)協力法が制定され、日本はカンボジアで行われていたPKOに自衛隊を派遣した。その後、武力行使を伴わない自衛隊の海外派遣が世界各地で行われるようになった。

**連立政権時代と社会構造の変容** 冷戦終結により、保守と革新という日本従来の国内政治の対立軸は曖昧となった。こうしたなか政治改革をめぐって自民党が分裂し、野党も交えて政界の再編を目指す動きが強まった。その結果、1993年に非自民連立政権の細川護熙内閣が誕生し、55年体制が崩壊した。その後、日本の政党政治は連立政権の時代に入り、政党の離合集散が続いた。99年以降になると、自民党は公明党と連立して政権を担った。2009年に民主党による政権交代が実現したが、12年には再び自公連立政権が誕生し、現在まで続いている。

複雑な政治情勢を生んだ背景には、90年代初頭のバブル経済崩壊に始まった、「失われた20年」とよばれる日本経済の停滞もあった。製造業の海外移転によって産業の空洞化が進み、少子高齢化による人口減少が深刻な課題となった。これに伴う社会保障費の増大などによる財政赤字の拡大

も、現在に続く問題となっている。

### グローバル経済の進展と日本

冷戦の終結によって、市場経済の原則が世界の多くの国に受け入れられ、グローバル化が進展した。そのため、これまで主に自国のルールに従っていた企業活動が、世界のルールでの競争にさらされることになり、日本の企業でも、製品の規格から会計の基準、経営手法、働き方まで、さまざまな分野でグローバルスタンダード(世界標準)に合わせるための改革が進められた。

一方、世界貿易が拡大するなか、1995年にはGATTに替わって自由貿易体制を管理する世界貿易機関(WTO)が発足した。これにより自動車分野の日米経済摩擦などが、WTOにおいて処理されるようになった。しかし、WTOでの交渉は時間がかかり、合意が難しくなるという問題が出てきた。そのため、2000年代以降、2か国以上の国や地域でモノやサービスの自由化を進める自由貿易協定(FTA)が結ばれるようになった。日本もアジア太平洋経済協力(APEC)諸国との間で環太平洋パートナーシップ(TPP)協定を結ぶなど、地域での経済連携を積極的に進めている。

### 日本と東アジアの関係

90年代に入ると、中国やベトナムなどの社会主義国も急速な経済成長を達成し、東アジアはヨーロッパや北アメリカと並ぶ世界経済の中心地域となった。日本と東アジア諸国は、貿易を通じてより緊密に結び付くようになり、文化交流も盛んになった。一方で、東アジア諸国ではナショナリズムも強まった。日本と中国・韓国との間では、第二次世界大戦や植民地支配に関する歴史認識の違いが課題となり、北朝鮮の交渉は、核兵器・ミサイル開発問題や日本人拉致問題もあって停滞している。また、東アジア諸国とは領土をめぐる課題もあり、これらの改善に向けた努力が続けられている。

### 情報のグローバル化を進めた【インターネット】

インターネットは、それまで研究機関を結ぶ情報ネットワークとして発展していた。90年代半ばに、インターネット上の文章・画像などを関連付けて表示するウェブが開発されると、インターネットはさまざまな用途に応用されるようになった。さらには、これらの活用を前提とした一般消費者向けのパソコンが開発されると、企業や家庭にインターネットの利用が急激に浸透し、国境や時間に関係なくさまざまな情報が伝達できる時代となった。これと同時に、パソコンやモバイルなどの情報機器が急速に進歩して、世界中の人々に普及していった。

↓6 インターネットの活用が広まるきっかけとなったウィンドウズ95の発売(1995年)



確認 日本が自由貿易を進めるために取り組んだことを本文から書き出そう。

説明 グローバル化が進むなかで、日本はどのような役割を果たすべきか、その目的と課題について説明しよう。

「グローバル化」によって日本が世界に果たす役割が変化していったことがわかる。





# 教科書内容の理解を助ける 充実のコンテンツ



スマートフォン  
からも閲覧可能。

●教科書巻頭7「QRコードについて」や、教科書の裏表紙のQRコードを読み取ることでアクセス可能。



\*QRコードを読み取り、表示されたウェブサイトへアクセスした際には、通信料がかかる場合があります。  
\*QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



## 動画

教科書に📷のマークがある写真に関連する動画を18点収録。

|   | テーマ                   |    | テーマ              |
|---|-----------------------|----|------------------|
| 1 | 第一次世界大戦中に工場働く女性(アメリカ) | 10 | 西ドイツに亡命する東ドイツの兵士 |
| 2 | 民衆に向かって演説するレーニン       | 11 | サンフランシスコ講和条約調印   |
| 3 | フォードの自動車工場(1928年)     | 12 | 東京オリンピック         |
| 4 | ナチ党のパレード              | 13 | イラン=イスラーム革命      |
| 5 | 混乱するニューヨーク証券取引所       | 14 | ベルリンの壁の開放        |
| 6 | ナチ党支配下のドイツ            | 15 | 天安門事件            |
| 7 | 昭和天皇と面会する溥儀(1935年)    | 16 | 倒壊する世界貿易センタービル   |
| 8 | 真珠湾攻撃の被害              | 17 | 湾岸戦争             |
| 9 | 原爆で破壊された広島市街          | 18 | アメリカを目指す移民       |



▲「ベルリンの壁の開放」の例

◀掲載している動画



## 地図

現在の世界地図のほか、部の導入で掲載している世紀別の世界全図を10点収録。



## 一問一答

基本用語の定着が図れる。500問以上収録。



## 年表

巻頭2-巻頭3の世界の歴史年表、巻頭4の日本の歴史年表のデータを収録。



## 用語解説

近現代の学習に必要な概念用語を中心に解説。約200語収録。

※その他、「外部リンク」のコンテンツが収録されています。



# デジタル副教材も完備

●デジタル端末でご活用いただける副教材をご用意。



\*詳細はQRコードからご覧いただけます。

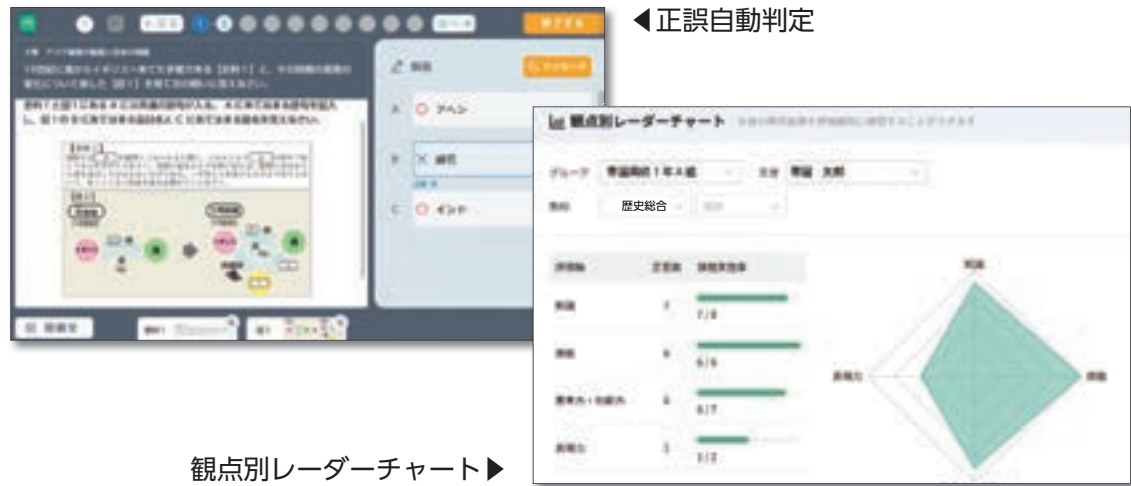
\*価格は2023年度版のものです。

## デジタル準拠ノート 明解 歴史総合

デジタル版：定価980円(税込)  
セット版(書籍+クラウド配信)：定価1,480円(税込)



- 教科書準拠ノートを、タブレット用に再構成。
- \*生徒向け機能：正誤自動判定/オリジナルの「見方・考え方問題」
- \*先生向け機能：学習状況管理/観点別レーダーチャート自動作成/作問ツール



こちらのノートのデジタル版です。

## 明解歴史総合図説 シンフォニア 初訂版

クラウド配信版：定価820円(税込)  
セット版(書籍+クラウド配信)：定価1,320円(税込)

- タブレット端末で閲覧できる「クラウド配信版」と、書籍とクラウド配信の「セット版」を用意。
- クラウド配信版オリジナルコンテンツとして、表示要素を自由に選択できる世紀別世界全図を全12点収録。



こちらの資料集のデジタル版です。

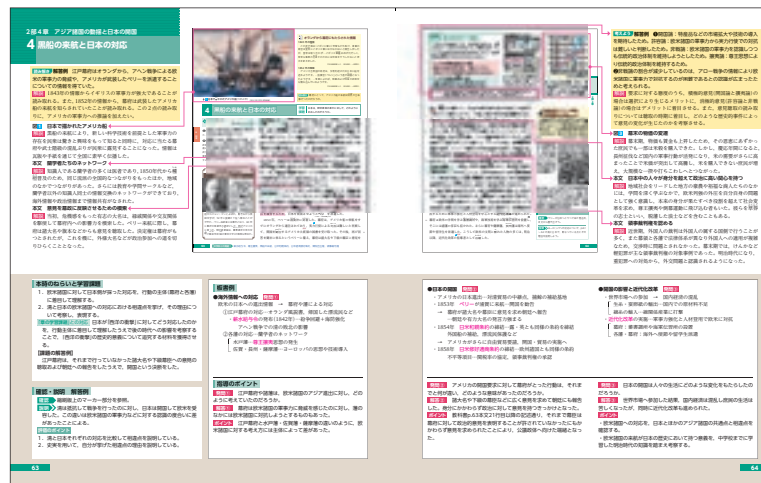


●指導を支援する教科書関連教材が充実。

## 1 指導資料

| 書名                          | 内容   | 定価            |
|-----------------------------|--|---------------|
| 明解 歴史総合 指導用資料 指導用教科書        | <p>◆教科書本体の見開きページの縮刷版をもとに構成した、教科書と同じデザインの指導用教科書。</p> <p>*こちらの販売形態は指導用教科書のみ単品販売です。下記で紹介している指導書 Web サポートはご使用いただけません。</p>  | 4,400 円 (税込)  |
| 明解 歴史総合 指導資料 Webサポート コンテンツ付 | <p>①指導用教科書<br/>②指導書 Web サポート*</p> <p>◆授業スライド(.pptx/Google スライド)<br/>◆授業プリント(.docx)<br/>◆見通し・振り返りシート(.xlsx)<br/>◆特設ページワークシート(.docx)<br/>◆評価問題例(テスト例)(.docx)<br/>◆図版アニメーション<br/>◆年間指導計画案・評価規準例(.xlsx)<br/>◆板書例(.txt)<br/>◆教科書紙面(.pdf)<br/>◆教科書本文(.txt)</p> <p>◆教科書掲載図版〈カラー/モノクロ〉(.jpg)<br/>◆設問(学習課題・確認など)の解答・解説(.txt)<br/>◆『明解 歴史総合ノート』データ(.docx)<br/>◆教科書 QR コンテンツ〈一問一答〉(.xlsx)<br/>◆教科書 QR コンテンツ〈用語解説〉(.xlsx)<br/>◆教科書 QR コンテンツ〈映像資料〉へのリンク<br/>◆白地図集(.jpg)<br/>◆参考文献</p> <p>* Web サポートは、帝国書院ウェブサイトからデジタルコンテンツをダウンロードいただけるサービスです。</p> <p>③付録冊子<br/>◆ Web サポート紹介冊子</p> | 22,000 円 (税込) |

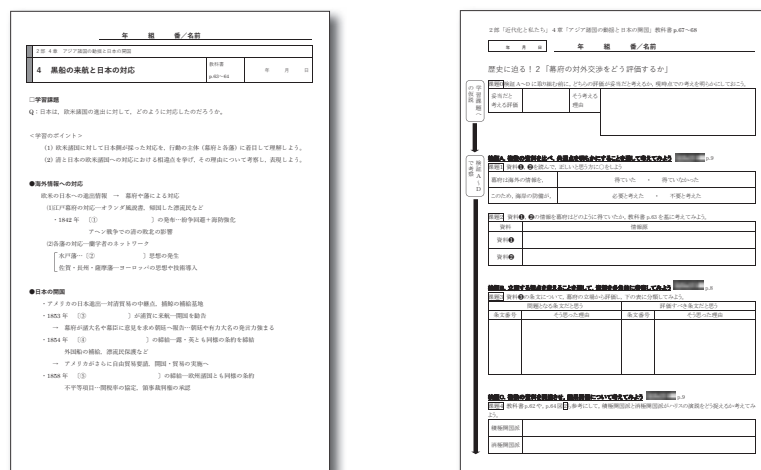
## ▼指導用教科書



- 教科書本体の見開きページの縮刷版をもとに構成した、教科書と同じデザインの指導用教科書。
- 発問例や解説などを具体的に掲載しており、授業の流れがわかる。

◀教科書p.63-64に対応したページ

## ▼授業プリント・特設ページワークシート



- 教科書の各見開きに対応した授業プリントを用意。先生ご自身で加工も可能。
- 教科書特設ページに対応したワークシートも用意。主体的・対話的で深い学びをサポート。

◀教科書p.63-64に対応した授業プリント(左), p.67-68に対応した特設ページワークシート(右)

## ▼授業スライド

- 教科書1見開きにつき10~20枚を用意。先生ご自身で加工も可能。
- 白黒反転版も収録。

**教科書p.63~64**

### 4 黒船の来航と日本の対応

2部 近代化と私たち  
4章 アジア諸国の動向と日本の開国

**学習課題**

日本は、欧米諸国の進出に対して、どのように対応したのだろうか。

**考えるポイント**

1. 欧米諸国に対して日本側が採った対応を、行動の主体(幕府と各藩)に着目して理解しよう。
2. 清と日本の欧米諸国への対応における相違点を挙げ、その理由について考察し、表現しよう。

**海外情報への対応 1**

Q. 江戸幕府や諸藩は、欧米諸国のアジア進出に対し、どのように考えていたのだろうか。

欧米の日本への進出情報 → 幕府や藩による対応

①江戸幕府の対応 → オランダ風説書、開国した漂流民など  
・1842年 の発布  
紛争回避+海防強化  
アヘン戦争での清の敗北の影響

**史料**

オランダから幕府にもたらされた情報

**海外情報への対応 2**

②各藩の対応 → 蘭学者のネットワーク

天皇を尊ぶ尊王  
外交を排除する攘夷  
思想の発生

水戸藩…  
佐賀・長州・薩摩藩  
…ヨーロッパの思想や技術導入

**学習課題**

日本は、欧米諸国の進出に対して、どのように対応したのだろうか。

**NEW**  
2023年4月より  
Googleスライドも  
ご利用いただけます

◀教科書 p.63-64 に対応した  
授業スライドの一例

**▼白黒反転の例**

**海外情報への対応 1**

Q. 江戸幕府や諸藩は、欧米諸国のアジア進出に対し、どのように考えていたのだろうか。

欧米の日本への進出情報 → 幕府や藩による対応

①江戸幕府の対応 → オランダ風説書、開国した漂流民など  
・1842年 の発布  
紛争回避+海防強化  
アヘン戦争での清の敗北の影響

## 2 書籍版副教材

\*価格は2023年度版のものです。

**明解 歴史総合ノート**  
定価680円(税込)

教科書完全準拠でオールカラーの見開き構成。確認問題を充実させ、知識の定着を強力にサポート。

**明解歴史総合図説 シンフォニア 初訂版**  
定価820円(税込)

資料読解を通して、日本と世界のかかわりが見える資料集。

## 3 学習者用デジタル教科書

アプリ版 定価1,100円(税込)/クラウド配信版 定価1,320円(税込)

- ①教科書誌面(紙の教科書と同内容)
- ②拡大・縮小, 書き消し, 保存機能
- ③特別支援教育対応機能
  - ・リフロー\*表示や総ルビ, 白黒反転, 読み上げの機能を搭載。
  - \*書体や文字サイズ, 行間, 余白などを自由に変更して表示する機能です。





## 特色一覧

\* 下記の表は、帝国書院ウェブサイトで閲覧・ダウンロードできます。

| 項目                    | 特色   |
|-----------------------|--|
| 総合的な特色                | <ul style="list-style-type: none"><li>世界と日本のつながりがわかる本文やページ構成によって、<b>世界とその中の日本を相互的な視野で学習できる</b>。</li><li>生活文化や人物などの豊富な特設とコラムで、<b>歴史に興味・関心をもって学習できる</b>。</li><li>問いを深める構成や探究を促す特設によって、<b>思考力・判断力・表現力が育成できる教科書</b>になっている。</li></ul>   |
| 内容                    | <ul style="list-style-type: none"><li>世界と日本の結び付きがわかるように本文やページ構成が工夫されており、<b>日本と世界の相互的な関係を多面的・多角的に捉えることができる</b>。また、各所にコラム「<b>世界の中の日本</b>」が設置されており、「世界とその中の日本」の視点をさらに深めることができるようになっている。</li><li>各地域の風土と前近代史が、巻頭の資料「<b>地域の歩み 1～5</b>」で簡潔に紹介されており、近現代史を理解するために必要な知識を習得しやすいように配慮されている。</li><li>歴史に影響を与えた「<b>もの</b>」や「<b>人物</b>」など、生徒に身近な観点が重視されており、歴史のおもしろさや楽しさを実感しながら学習できる。</li><li>部の冒頭にある「<b>部の導入</b>」では、中学校での既習事項をもとに、生徒自身が「問い」を立てられるように工夫されている。</li><li>部の終わりにある「<b>部のまとめ</b>」では、「近代化」・「国際秩序の変化や大衆化」・「グローバル化」それぞれのテーマについて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の考察、構想が3ステップで無理なくできるように工夫されている。</li><li>テーマに沿って学習を深める特設「<b>歴史に迫る!</b>」やコラム「<b>歴史の選択肢</b>」が設けられており、アクティブラーニングがしやすいように配慮されている。</li><li>特設「<b>技能を磨く</b>」では、歴史学習に欠かせない重要な技能がまとめられ、歴史的技能を着実に習得し、歴史的な見方・考え方が身に付くようになっている。</li></ul> |
| 構成・分量                 | <ul style="list-style-type: none"><li>学習指導要領に合わせて、重要事項が適切かつ丁寧に解説されている。また、発展的な内容も学習できるように<b>側注欄の解説</b>や資料、<b>特設コーナー</b>が充実している。</li><li>各部、各章に設置した「<b>部の導入・部のまとめ</b>」、「<b>章扉・章のまとめ</b>」により、学習の「<b>見通し</b>」と「<b>振り返り</b>」がしやすい構成になっている。</li><li>原則、<b>1時間1見開き構成</b>となっているので、分量が適量で学習計画を立てやすくなっている。</li><li><b>学習課題→導入資料→展開→確認→説明</b>と学習の流れが整理されているため、効果的に学習できるようになっている。</li><li>巻末の特設ページ「<b>歴史総合 頻出用語解説</b>」で、重要な歴史用語を丁寧に解説している。</li></ul>   |
| 表記・表現<br>及び<br>使用上の便宜 | <ul style="list-style-type: none"><li><b>AB判のワイドな判型</b>を生かして、<b>写真やグラフ、地図などの資料</b>が豊富に設けられており、視覚的にも理解しやすくなっている。</li><li>本文ページの左上には、<b>導入資料</b>と発問「<b>読み解き</b>」が設置されており、生徒が資料を読み解き、考察する力を身に付けられるよう工夫がなされている。</li><li>歴史事象の<b>因果関係</b>の記述が充実し、<b>わかりやすい本文</b>となっている。また、<b>ふりがなや重要語句へのゴシック(太字)</b>も効果的に振られている。</li><li>本文行間には、関連する事項が扱われているページの<b>参照ページ</b>や、関連図版・コラム・QRコードへの<b>図番号・参照マーク</b>が割り当てられている。</li></ul>  |
| ユニバーサル<br>デザインへの対応    | <ul style="list-style-type: none"><li>本文や側注、キャプションなどの文字は、はっきり読み取ることができる<b>ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)</b>が使用され、読み取りやすい配慮がなされている。</li><li><b>カラーユニバーサルデザイン</b>に配慮されており、色覚特性をもつ生徒にも読み取りやすい表現になっている。</li></ul>   |
| その他                   | <ul style="list-style-type: none"><li>紙は環境に配慮した<b>森林認証紙</b>が使用されている。従来よりも軽く(旧課程教科書比、単位面積あたり約5%軽量)、かつ裏写りがしない用紙となっている。</li><li>インキには、再生産が可能な植物由来の油などを原料とするインキが使用されている。</li><li>使用期間の間、破損することがないように、<b>堅牢なつくり</b>になっている。</li><li>指導資料やデジタル教科書・教材、準拠ノートなど、<b>充実した関連教材が用意</b>されている。</li></ul>   |

## 著作者

川手 圭一 (東京学芸大学 教授)  
井上 正也 (慶應義塾大学 教授)  
木村 直樹 (長崎大学 教授)  
黒木 英充 (東京外国語大学 教授)  
小林 亜子 (埼玉大学 教授)  
瀧井 一博 (国際日本文化研究センター 教授)  
奈良岡 聡智 (京都大学 教授)  
松重 充浩 (日本大学 教授)

● 青木 一真 (東京都立国際高等学校 指導教諭)  
● 大橋 康一 (滋賀県立高等学校 元教諭)  
● 加藤 健司 (愛知県立天白高等学校 教諭)  
● 川島 啓一 (同志社中学校・高等学校 教諭)  
● 後藤 誠司 (京都市立高等学校 元教諭)  
● 野々山 新 (愛知県立大府高等学校 教諭)  
● 美那川 雄一 (静岡県立小山高等学校 教諭)  
● 株式会社帝国書院

● 編集協力者  
● 笹川 裕史 (大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 教諭)  
● 矢部 正明 (関西大学中等部・高等部 教諭)  
● 特別支援教育に関する監修・校閲者  
● 丹治 達義 (筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭)

